所業ヨリ起ル處ノモノハ國王ノ責任ニ帰スヘシ

○西班牙

第六十三條　國王其權ヲ執行スル爲メ命令スル所ノ諸文書ニハ當該ノ執政副署ス可シ何レノ官吏モ須要ナル副署ヲ缺キタル命令書ヲ決行ス可カラス

○瑞士

第五十九條　聯邦政官ハ國内一般ノ危難トナル可キ傳染病流行スル時ニ方テ健康警察ノ處分ヲ定ルヿヲ得

第八十三條　聯邦ニ於テ行政ノ最上權ハ七員ヲ以テ構成スル所ノ聯邦行政會之ヲ執行ス

第八十四條　聯邦行政會員ハ國議會ニ選擧セラル可キ全瑞士國民中ヨリ兩議會之ヲ選ヒテ三歲間其職ニ任ス然ル一列邦中ヨリ行政會ノ僚員一名以上ヲ選擧スルヿヲ得可カラス○聯邦行政會ハ國議會更選毎ニ全ク之ヲ更迭ス○三歲ニ滿タスメ聯邦行政會員缺クル時ハ聯邦議會ノ第一次會期即行政會員缺クル者アルニ於ノ後始テ開キタル會期テ之ヲ塡補シ以テ其任期滿ルノ日ニ至ル

第八十五條　聯邦行政會員ハ其任期間聯邦ニ於テスルモ若クハ列邦ニ於スルモ決シテ他ノ官職ニ任スルヿヲ得ス亦他ノ職務ヲナシ或ハ業ヲ營ムヿヲ得ス

第八十六條　聯邦議長ヲ以テ聯邦行政會ノ首長ニ任シ仍ホ別ニ副議長一員ヲ置ク○聯邦議長及聯邦行政會ノ副議長ハ聯邦議會該行政會員中ヨリ之ヲ選擧シ一歲間其職ニ任ス○聯邦議長ハ其職

ヲ去リタル翌年ニ當リ再ヒ議長若クハ副議長ノ選ニ中ルヿヲ得ス○同一人ニシテ二歳ノ間引續キ副議長ノ職ニ任スルヿヲ得ス

第八十七條　聯邦議長及其他ノ聯邦行政會員ハ聯邦ノ金庫ヨリ歳俸ヲ受ク

第八十八條　聯邦行政會ハ少クトモ其四員以上出席スルニ非サレハ議決スルヿヲ得ス

第八十九條　聯邦行政會員ハ聯邦議會ノ兩局ニ於テ商議ノ權及討議ス可キ事件ニ關シ起議ノ權ヲ有ス（ボアー、コンシユルタチブ）

第九十條　此憲法ニ限定スル所ノ聯邦行政會ノ職掌及義務ハ大約左ノ如シ

第一　聯邦行政會ハ聯邦ノ法律命令及決定ニ準シテ聯邦ノ政務ヲ指揮ス

第二　邦聯行政會ハ聯邦ノ憲法法律命令并ニ決定及聯邦會約書ノ規則ノ執行ヲ看守シ且此等ノ法令ヲ遵守セシムル爲ニ須要トスル方法或ハ其長官ヨリ之ヲ設ケ或ハ告訴ヲ聽テ之ヲ設ク

第三　聯邦行政會ハ列邦憲法ノ保固ヲ看守ス

第四　聯邦行政會ハ法律命令若クハ決定ノ議案ヲ聯邦議會ニ出シ及兩議會若クハ列邦ヨリ之ヲ回送スル起議ニ對シテ其意見ヲ述フ

第五　聯邦行政會ハ聯邦ノ法律命令并ニ決定聯邦裁判所ノ審判及列邦相互ノ「トランサクシオン」（爭論勸解）若クハ其「サンダンスア」（私裁）ノ審斷ヲ決行スルヒトラル「判者」

第六　聯邦行政會ハ憲法ニ由リ聯邦議會若クハ聯邦裁判所又

法律ニ由リ他ノ下等政官ニ委任セサル官吏ヲ命ス○聯邦行政會ハ瑞士國內外ニ於テ特別ナル委員ヲ命ス

第七　聯邦行政會ハ列法相互ヒノ條約又其外國ト取結ヒタル條約ヲ檢査シ其許ス可キ者ハ則チ之ヲ認可ス第七十四條第五項參看

第八　聯邦行政會ハ外國ニ於テ聯邦ノ利益就中各國關係ノ果シテ行ハルヽヤ否ヤヲ看守ス且總テ外國交際事務ヲ擔任ス

第九　聯邦行政會ハ外國ニ對シ瑞士國ノ安寧及其獨立ト中立ヲ保守スルヿヲ看守ス

第十　行政會ハ內國ノ安寧及平和ヲ保守スルヿヲ看守ス

第十一　急迫ノ時機ニ臨ミ聯邦議會ノ未タ召集セサルニ遇フテハ聯邦行政會ハ必要ナル軍兵ヲ徵募シテ之ヲ部署スルヿヲ得然ヒ徵募シタル兵員二千ニ踰ヘ又其屯駐スルヿ三週日以上ニ及ヘハ即時ニ聯邦議會ヲ召集ス可シ

第十二　聯邦行政會ハ聯邦ノ兵及聯邦ニ屬スル一切ノ行政諸局ニ關スル者ニ擔任ス

第十三　聯邦行政會ハ其認可ス可キ列邦ノ法律及列邦令狀ヲ調査シテ軍務通運稅道路橋梁等聯邦ニ於テ監督ス可キ列邦行政ノ諸局ヲ監察ス

第十四　聯邦行政會ハ聯邦ノ會計ヲ管理シ歲出納豫算表ヲ起議シ及歲出納ノ決算表ヲ編成ス

第十五　聯邦行政會ハ凡テ聯邦行政官吏ノ管理ヲ監察ス

第十六　聯邦行政會ハ每通常會期ニ於テ聯邦議會ニ其自ラ管理スル所ヲ開具シ且之ニ聯邦內外ノ景況ヲ揭タル報告書ヲ出シ及國ノ繁榮ヲ增加スルニ有益ナリト思量スル方法ヲ勸

告ス○聯邦行政會ハ聯邦議會若クハ其會中ノ一局ノ求アル時特別ノ報告書ヲ作ル

第九十一條　聯邦行政會ノ事務ハ局ヲ分テ該會員ニ分任ス此分任ハ專ラ事務ノ調査處分ヲ便宜ニスルヲ要トス但決定書ハ的確ナル者トシテ聯邦行政會ヨリ之ヲ發ス

第九十二條　聯邦行政會及其各局ハ特別ナル事件ノ爲ニ鑑定人（エクスペル）ヲ召スヿヲ得

第九十三條　聯邦書記局ハ聯邦議會及聯邦行政會ノ書記局之ニ任ス其長ヲ聯邦ノ掌印官（シアンスリエード・ラコンフェデラシオン）ト名ク○掌印官ハ任期三年ニシテ聯邦行政會ト同時ニ於テ聯邦議會之ヲ選擧ス○聯邦書記局ハ聯邦行政會ヨリ特別ノ監察ヲ受ク○聯邦ノ法律ヲ以テ嗣後書記局ノ攝制ニ關スル諸件ヲ定ム可シ

第百八條　聯邦政官ノ設置ニ關スル諸件ハ聯邦ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス

第百十條　聯邦ノ官員ハ其管理セル事ノ責ニ任ス但聯邦ノ法律ヲ以テ明確ニ此官吏ノ責任ニ關スル件々ヲ規定ス可シ

○葡萄牙

第四十六條　行法權ハ執政官ノ一員ニ賴リ法律ヲ定立スルニ當テ之ニ行法權ヲ指ス屬スル起議ノ權ヲ行フ但法律ヲ作ルヘキ院代議士院ニ於テ調査ヲ經ルノ後始テ此起議ヲ改メ法律議案（プロシエド・ロアー）ト作スヿヲ得

第四十七條　執政ハ委員啓告スルノ後起議ヲ論辨主張スルヿヲ得然ルトキ其貴族院若クハ代議士院ノ議員タルニ非レハ公評シ又公評ニ參スルヿヲ得ス

第百一條　諸執政局ヲ設置スヘシ但法律ニ由リ執政各局ニ於テ管治スル事務幷ニ局數ヲ定メ及適宜之ヲ分合スヘシ

第百二條　執政ハ總テ行法權ノ政令ニ副署シ若クハ手署スヘシ執政ノ副署若クハ手署ナキ政令ハ執行スルヿヲ得ス

第百三條　執政ハ左件ノ爲ニ其責ニ任ス

第一　叛逆

第二　「ユルユプシオンシユボルナシヨン」收贓誘惑人ヲ迷惑シ若クハ「コンクユシオン」欺枉邪惡ヲ行ハシム

第三　擅權

第四　法律ノ違戻

第五　凡國民ノ自由安寧若クハ所有ヲ害スル措置

第六　國入ヲ冗費スル事

第百四條　前條ニ揭ル犯罪ノ性質罪事ノ輕重及其糾治ノ法方ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第百五條　執政ハ縱令ヒ言辭若クハ文書ヲ以テスル王命アルモ其責任ヲ免カルヽヲ得ス

第百六條　外國人ハ既ニ歸化スルモノト雖ヒ執政ニ任スルヿヲ得ス

第百三十二條　州ノ施政ハ新法律ニ因リ改正スルノ日ニ至ルマテ現今ノ制ニ仍ルヘシ

增補律例第十五條　海外所屬ノ州ハ各州ノ便宜ニ循ヒ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ統治スルヿヲ得ヘシ

第一　國會ノ未タ開會セザル時政府ハ當該ノ部官ニ諮詢セシ後緊急ト酌量スヘキ立法上ノ處分ヲ參議院ニ謀リテ命令スルヿヲ得ヘシ

第二　海外所屬ノ州ノ總管府モ亦州議會ノ意見ヲ問ヒシ後國會若クハ太政官府ノ決裁ヲ待ツヿ能ハサルヘキ總テノ緊急件ニ備フルカ爲ニ須要ナル處分ヲナスヿヲ得ヘシ

第三　右兩件ノ場合ニ當リ政府ハ國會ノ開會スルニ及ンテ速カニ其處分セシ所ノモノヲ之ニ開具スヘシ

○荷蘭

第百九十條　國王ハ國庫ヨリシ又其他ノ方法ニ依リ費用ヲ支ユル水流及橋堤ノ諸務ヲ綜理ス

第百九十一條　法律ハ水流及橋堤ニ係ル一般及特別ノ管理ヲ定ム

第百九十四條　教育ハ政府ニ於テ常ニ監護スル所トス○教育ノ構制ハ法律之ヲ定メ法教ノ主意ヲ侵毀セス政府ハ闔國ニ於テ小學教授ノ方法ヲ備頓ス○教育ハ政府ノ監察ヲ除クノ外自由トス及中學ト小學ニ係テハ法律ニ定タル條則ニ準シ教師ノ才能品行ヲ檢證スルヲ除クノ外亦自由トス○國王ハ毎歲大中小學校ノ景況ヲ詳精ニスル報告書ヲ國會ニ通照セシム

第百九十五條　施濟務ノ管理ハ常ニ政府ノ監護スル所トス但法律ニ因テ之ヲ規定ス○國王ハ毎歲施濟ノ景況ヲ詳細ニスル報告書ヲ國會ニ通照ス

○丁抹

第十五條　參議官ハ宰相ノ集會ヲ以テ成ル太子ハ丁年ニ至レハ參議官ニ列スルノ權ヲ有シ國王ハ第七條及第八條ニ掲載スル時機ノ外參議官ノ上席ヲナスノ權ヲ有ス

第十六條　法律及政府ノ要務ハ參議官ニ於テ議決ノ權ヲ有ス國王參議官ノ上席ヲナスコト能ハサルノ狀アル時ハ宰相ノ評議會ニ委任シテ商議セシムルヿヲ得此評議會ハ宰相ヲ以テ編成シ而シテ國王ノ委任ヲ受タル宰相ハ評議會ノ上席ヲナス○各宰相ハ其投言ヲ筆記シ過半數ニ依テ可否ノ決定ヲナス○上席人ハ宰相ノ花押ヲ手署シタル筆記ヲ國王ニ奏進ス國王ハ直ニ之ヲ可トスルカ或參議官ニ於テ更ニ議決ス可キカヲ定ム可シ

○伊太利

第六十七條　諸執政ハ職務ニ付テノ責ニ任ス法律及一切ノ文書ハ執政一人ノ花押アラサレハ其力ヲ有セス

○露西亞

露國ニ於テ華族二類アリ即チ門閥華族生レナカラニシテ及賞功華族ヲ謂フナリ「ペートル」大帝ハ門閥華族ヲ賞功華族ノ下ニ置キタリ且文武官ヲ十四等ニ分チタリ乃チ左ノ如シ

第一等　國家大宰相陸軍元帥海軍元帥及第一等樞密議官
第二等　陸軍大將海軍大將及第二等樞密議官
第三等　陸軍中將海軍中將及樞密議官
第四等　陸軍少將海軍少將及第一等參議官
第五等　參議官

次ノ四等乃チ第六等ヨリ第九等マテニ於テ海陸軍大佐中佐少佐參謀大尉及文官數人列ス○終ノ五等乃チ第十等ヨリ第十四等マテニ於テ尉官及文官數人列ス○初ノ五等ノ者ハ世襲華族トシ其次

ノ四等ノ者ハ終身華族トス何レノ華族ト雖モ必ス政府ニ奉職セサルヲ得ス若シ三代續テ奉職セサル時ハ皇帝ハ華族ノ爵ヲ取上クルヲ得可シ露國ニ於テ用フル所ノ華族ノ名稱ハ「フランス」「コント」「バロン」ノ三トス○千八百六十七年統計表ニ據レハ世襲華族ノ數五十九万一千二百六十六人終身華族ノ數三十二万七千六十四人ナリ華族ハ華族ヲ以テ編制シタル裁判所ニノミ之ヲ訴フルヲ得且皇帝及元老院ヨリ確定シタル裁判言渡アルニ非レハ死刑或ハ除族ノ刑ヲ受可カラス

第二章政治　皇帝ハ行法權ノ總長ナリ其下ニ在テ最モ權勢アル者ハ帝國政院ナリ此院ノ職務タルヤ先ツ立法ノ布告ノ決議及其立按又裁判所ニ於テ法律ノ意味ニ付キ疑アル時其判斷又全國歲入出豫算表ノ作立又經濟ニ管スル諸改正又各省ノ卿ヨリ年々出ス所ノ計算表ノ檢査又施政ノ事ニ付テ各官局ノ間ニ起ル所ノ難事ノ裁判又其外政治ニ付テ皇帝ヨリ意見ヲ諮ハル、時其答議是ナリ○此院ノ議官ハ定員ナシ皇帝ハ隨意ニ之ヲ任免シ且國内ニテ最モ名望アル者ヲ撰ヒ之ニ議長ノ職ヲ任ス議長ノ側ニ補佐人一名アリ此補佐人ハ帝國總書記官ノ名ヲ用ヒ皇帝ト政院トノ間通接往復ヲ司リ且政院ノ評議ノ爲メ議案ノ作立ヲ爲シ此院ノ決議書ヲ送達スルヿヲ掌ル也○其次ノ大官ハ乃チ元老院トス裁判ノ權及國是ニ參スルノ權ヲ併有スル者ニシテ總テノ民事及刑事ノ裁判ノ爲メ控訴院トナリ又施政ノ訴訟モ裁判スルナリ其職務ハ先ツ法律ノ執行ニ注意スルヿヲ租稅ノ收納及國費ヲ檢査スルヿ帝國ノ書記ヲ保存スルヿ國内ノ安寧ニ要スル處分ヲ命スルヿ皇帝ノ布告ヲ頒行スルヿ等ナリ此院ハ諸卿及總テノ官員ヲシテ其年中行ヒ

シ事務ヲ報告セシムルノ權アリ又多數ノ官員ヲ任ス○元老院ハ十局ニ分チ乃チ聖彼得堡ニ於テ五局摩西哥(モスコー)ニ於テ三局哇相(ワルソー)ニ於テ二局アリ其各局ノ側ニ大檢事一名アリ元老院ノ何レノ裁判言渡ト雖ヒ其大檢事ノ花押アルニ非レハ行フ可カラス

元老院ノ議官ハ皇帝之ヲ任ス

諸省ハ千八百二年已降ニ設立セシ者ニシテ左ノ如ク十二省アリ

宮内省　但勳社賞牌皇俸禮式皇帝ノ費用ヲ以テ設立シタル劇場及其他ノ館舍ヲ支配ス

陸軍省

外務省

海軍省

内務省

文部省

驛遞電信省

大藏省　但鑛山製鹽諸製鑛所工作所及國内交易ノ事務ヲ兼掌ス

國有財産省　但耕作ノ檢査農業學校ノ支配田野學校及森林ノ支配ヲ司ル

司法省　但量地官員量地學校及法律學校之ニ屬ス

道路官舍省

監察省　但文武官ノ計算書ヲ監察ス

此ノ外調馬事務ニ付キ別段ノ局アリ○皇側ノ事務ヲ司トル書記局アリ其ノ職掌ハ法律ノ布告政治上ノ警察國民ノ願書及皇后ノ配下ニ在ル總テノ救育學校其他ノ救育所ヲ調理スルナリ

地方政治　波蘭(ハイランド)ノ兩國ハ各別ニ政府アリ乃チ波蘭ニ於テ皇帝ノ「リウトナント」政治議院ノ補佐ヲ得テ之ヲ管理ス但此議院ハ終身議官十五人定期議官七人アリテ皇帝之ヲ任ス「ハイランド」

ニ於テ總督官一名之ヲ管理ス其側ニ元老院アリ皇帝之ヲ任ス此國ニ於テ立法權ハ一ノ議院ニ歸ス此議院ハ華族ノ名代「プロテスタン」教ノ僧徒府民農民ヲ以テ編制ス皇帝ハ華族ノ長ヲ以テ其議長ト爲ス然ヒ此院ノ決定ハ皇帝ノ許諾アルニ非レハ執行ス可カラス其他全露國ノ領分ニ五十八州三府二藩十二「ナブラスト」未タ建ルヲ云及三「ジストリクト」國ニ在リ在リ○「コーカーズ」國ノ六州ハ皇帝ノ「リウトナン」一名總轄ス又全露國ニ總督官十名アリ各總督官ハ其配下ノ州ノ文武官長ヲ指揮ス各總督官ノ側ニ議官三名及議官補數人ヲ以テ編制シタル議院アリト雖ヒ總督官ハ必シモ其意見ヲ問フニ及ハス此議院ニ於テ檢事一名副檢事二名法律ノ執行ニ注意シ帝室ノ利益ヲ保護ス○聖彼得堡都及其近傍ハ格別ノ府トス

○佛蘭西　一千七百九十一年

第十八條　裁判權ハ國民ヨリ期限ヲ定メ撰任シタル裁判役ニ委托ス

第百五十八條　民選議院及國王ハ孰レノ場合ニテモ裁判權ヲ行フヘカラス

第百五十九條　裁判ノ「ハ國民ヨリ任期ヲ定メ撰任シ且國王ノ証書ヲ以テ委任シタル裁判役之ヲ爲ヘシ但國王ハ必ス之ニ任職書ヲ與ヘサルヲ得ス○國王ハ裁判役在勤中ニ爲シタル罪ニ付法律ニ循テ裁判ヲ言渡シタルニ非レハ其職ヲ奪フヘカラス又的實ナル訴訟ノ爲ニ非レハ其職ヲ一時免スル「能ハス○公ノ原告官ハ國民ヨリ委任スヘシ

第百六十條　裁判役ハ立法權ノ施行ニ關スル「或ハ法律ノ施行ヲ差止ル「又施政ノ職務ニ關スル「或ハ行法官ヲ其事務ニ付テ訴訟セシムル「ヲ爲ヘカラス

第百六十一條　法律ニ於テ國民ノ爲メ定タル裁判役ヲ置キ之ヲ孰ノ總代或ハ他局ニ其事務ヲ遷移スヘカラス又法律ニ定タル場合ノ外裁判スヘキ裁判所ニ於テ其訴事ヲ受理セスシテ他ノ裁判所ニ之ヲ遷移スヘカラス

第百六十三條　裁判所ハ原被告人治安裁判役ノ前ニ出テ或ハ原告人爭訟ヲ和解スル爲メ治安裁判役ノ前ニ被告人ヲ召シタル「ヲ證スルニ非レハ孰レノ訴訟モ受理スヘカラス

第百六十四條　各區及各都府ニ於テハ治安裁判役一人或ハ數人ヲ置ヘシ其員ハ立法官之ヲ定ヘシ

第百六十五條　裁判所ノ數ト其管轄地及各裁判所ヲ編制スヘキ裁判役ノ數ヲ定ムルヿハ立法官ノ職務ニ歸スヘシ

第百六十六條　裁判役ハ重罪上ニ就テハ陪審役ヨリ受シ訴訟ニ因サレハ裁判ヲ言渡スヘカラス尤民選議院訴訟ヲ原告スヘキ場合ニ於テハ民選議院ノ布告ニ因テ裁判スルヲ得ヘシ○陪審役ハ罪狀ヲ證明シ其罪アルヲ陳述スヘシ○被告重罪人ハ陪審役ノ中數人ニ對シ疑惑ノ事故アレハ其旨ヲ陳述セスト雖ヒ其人ヲ拒ムヿヲ得ヘシ但拒ムヿヲ得ヘキノ人數ハ二十人ヲ過クヘカラス○罪狀ヲ證明スル陪審役ハ十二人以上ナルヘシ罪狀ニ法律ヲ準擬スルヿハ裁判役之ヲ爲スヘシ訊問ハ公然ニ之ヲ爲ヘシ且被告重罪人辨護人ヲ願フニ於テハ承諾セサルヲ得ス法律ニ循テ編制シタル陪審役ヨリ免罪シタル人ハ其免罪ノ爲メ再捕及訴訟ヲ受ヘカラス

第百六十八條　人ヲ捕ヘ取締官ノ面前ニ拘引スルヿハ之ヲ即時或ハ遲クトモ二十四時間ニ訊問スヘシ○訊問セシ後其人無罪ニ歸スルヿハ直ニ解放スヘシ如シ之ヲ假獄舍拘留場ノヘ送ルノ類ニ非スハ成可クタケ速ニ送ルヘシ其時間ハ孰レノ場合ニテモ三日ヲ過クヘカラス

第百六十九條　取押ヘラレタル人法律ニ從テ保證人ヲ差出シ解放セラルヽヲ得キ場合ニ於テ適當ノ保證人ヲ差出スヿハ之ヲ解放セサルヲ得ス

第百七十條　法律ニ循テ禁錮セラルヘキ人ハ假獄舍或ハ獄舍ノ用ニ供スルタメ法律ニテ公然ト差定タル場所ニノミ之ヲ拘引シテ禁錮スヘシ

第百七十一條　就レノ監獄吏或ハ門番ニテモ第百六十七條ニ記シタル取締官ノ捕票裁判所ノ捕令民選議院ヨリ爲シタル訴ヘノ布告或ハ裁判言渡書等ヲ受ケ且右書面ヲ己ノ簿冊ニ記入スルニ非レハ其人ヲ請取リ或ハ拘留スヘカラス

第百七十二條　凡監獄吏或ハ門番ハ其獄舍取締官吏ノ命アル毎ニ、囚人ヲ之ニ視スヘシ但監獄吏守門人ハ他ノ官員ヨリ受タル命令ニ於テ囚人ヲ視スヘカラサルトノ由緣ヲ以テスト雖ヒ此條ノ規則ニ背クヘカラス○囚人ノ親屬朋友右取締官吏ノ命令書ヲ持參スルニ於テハ監獄吏門番ハ囚人ヲ視スヿヲ肯セサルヲ得ス且囚人ニ對面ヲ禁スヘキ裁判役ノ命令書アリテ且之ヲ獄舍ノ簿冊ニ記載シタル場合ノ外ハ取締官吏ハ囚人ニ面會セント願フ親屬朋友ニ之ヲ許サヽルヲ得ス

第百七十六條　全國ノ爲メ覆審裁判所一箇所ヲ置キ之ヲ民選議院ノ側ニ設立スヘシ其職務ハ左ノ件々ニ就テ裁判ヲ言渡ス

第一　裁判所ヨリ言渡セシ終審ノ裁判ニ對シ取消ヘキノ願

第二　一箇ノ裁判所ヨリ言渡セシ裁判ニ付其裁判役ヲ疑フ事由ヲ以テ之ヲ他ノ裁判所ニテ裁判セシメントスルノ願

第三　數箇ノ裁判所ニ關渉スルヿニ於テハ之ヲ裁判スヘキ裁判所ヲ定ルヿ及裁判所ノ言渡セシ裁判ヨリ生セシ損害ヲ補償セシムルノ願

第百七十七條　裁判取消ノヿニ就テ覆審裁判所ハ訴事ノ始末ヲ吟味スヘカラス唯法式ニ背ク手續或ハ法律ニ背反シタル裁判ヲ取消ス後其訴事ノ始末ニ關スヘキ裁判所ヘ送リ之ヲ裁判セシムヘシ

第百七十八條　一訴事ノ裁判ニ於テ既ニ兩度取消サレシト雖モ三度目ノ裁判所ヨリ言渡セシ裁判ヲモ同主旨ヲ以テ取消サンコトヲ願ヒ裁判スヘカラス但民選議院ハ右訴事ニ就テ覆審裁判所ハ必ス循フヘキ格段ナル法律ノ布令ヲ出シ以テ之ヲ定ヘシ

第百七十九條　覆審裁判所ハ毎年民選議院ノ集會所ヘ八人ノ總代ヲ出スヘシ其總代ハ年中覆審裁判所ヨリ言渡セシ都テノ裁判目錄ヲ民選議院ヘ進達スヘシ但其目錄書ニ各訴事ノ始末ヲ略記シ且其裁判ノ基キタル法律ノ箇條ノ原文モ之ニ附記スヘシ

第百八十條　覆審裁判所ノ裁判役ト最上陪審役ノ内撰擧シタル者トヲ以テ編制シタル最上裁判所一箇所ハ民選議院ノ布告ヲ以テ訴ヘラル、諸卿及行政官ノ重役ノ犯罪幷ニ國家ノ安寧ニ對スル罪ヲ裁判スヘシ○最上裁判所ノ裁判役ハ民選議院ノ布令ナク且民選議院集會所ヨリ三萬「トハーズ」里程以上離隔シタル所ニアラサレハ集會スヘカラズ

第百八十一條　裁判所ヨリ言渡セシ裁判ノ執行証書ハ左ノ文式ヲ用ユヘシ

我國王ノ名ヲ記ス　天主ノ恩惠及國ノ憲法ニヨリ佛蘭西國民ノ王タリ現今及將來ノ國民ニ頓首ス今般何所ノ裁判所左ノ裁判ヲ言渡セシニ此ニ裁判ノ文ヲ記シ且裁判所ノ使吏ヲシテ之ヲ執行セシムルコト裁判役ノ名ヲ記スヘシ

ヲ此証書ヲ以テ命シ我ノ裁判所ニ勤ムル檢事ヲシテ其執行ヲ檢査スルコトヲ命シ又兵隊ノ指令官及士官ヲシテ法律ニ循テ請求セラル、毎ニ之ヲ助ルヲ命ス其證據トシテ裁判所ノ長官及書記役（グレッフヒエー）ハ此裁判ノ証書ニ花押セリ

第百八十二條　檢事ノ職務ハ裁判所ヨリ言渡スヘキ裁判ニ就テ裁判役ヲシメ法律ニ循カハシメ且言渡セシ裁判ヲ執行セシム○檢事ハ原告官トナラスト雖ヒ總テノ訴事ニ就テ其意思ヲ陳述スルヲ得ヘシ且訊問中法式ニ循フヿヲ裁判役ヘ請求シ及裁判言渡ノ前其罪ニ準擬スル法律ヲ執行スルヿヲ裁判役ニ請求スルヲ得ヘシ

第百八十三條　檢事ハ己ノ職務ニヨリ或ハ國王ヨリ受ル命令ニ因テ左ノ罪ヲ陪審長ヘ訴フヘシ

第一　國民自由ノ權ニ對シテ妨害ヲナスヿ食物及他ノ交易物品ノ自由ナル運漕ニ對シテ妨害ヲナスヿ諸稅ノ收納ニ對シテ妨害ヲナス事

第二　己ノ職務ニ付發シタル命令ノ執行ヲ妨害スルノ輕罪

第三　「ドロワーテシヤン」萬國公法ニ對シ妨害ヲナス事

第四　裁判ノ執行及行法諸官ノ處置ニ對シ抵拒スル事

第百八十四條　司法卿ハ裁判役ノ中權外ノ所業ヲ爲シタル者アレハ檢事ヲシテ覆審裁判所ニ之ヲ訴ヘシムヘシ覆審裁判所ハ其裁判ヲ取消ヘシ且其裁判役其所業ヲ爲セシニ付職務上ノ罪アルトキハ之ヲ民選議院ニ報告スヘシ民選議院ハ其事ヲ吟味シ罪アルニ於テハ訴フヘキノ布令ヲ發シ罪人ヲ最上裁判所ニ送ルヘシ

○佛蘭西　一千七百九十三年

第八十五條　民法刑法ノ集書ハ全國中ニ同樣ニ執行スヘシ

第八十六條　國民自ラ撰擧セシ中立人ナシテ己ノ相互ノ爭論ヲ決斷セシムルノ權アルニ因テ執レノ人モ其權ニ傷害ヲ加フヘカラス

第八十七條　右中立人ノ決斷ハ一定不易ノ者トス尤國民其決斷ニ對シテ抗訴スルノ權前以テ定シ置キハ格別ナリ

第八十八條　法律ニ定ル區部國民ヨリ撰擧シタル治安裁判役有ルヘシ

第八十九條　居間裁判役ハ無費ニテ爭論ヲ和解シ裁判ヲ爲ヘシ

第九十條　治安裁判役ノ數及其管轄及權限ハ民選議院ヲ定ヘシ

第九十一條　撰立會議ヨリ撰任シタル公ノ中立人之アルヘシ

第九十二條　公然中立人ノ數及其管轄所ハ民選議院之ヲ定ヘシ

第九十三條　訴事ハ人民自ラ撰立シタル中立人或ハ居間裁判役之ニ管係セシト雖ヒ埒明サルトキハ公ノ中立人ハ其訴事ヲ裁判スヘシ

第九十四條　公ノ中立人ノ評議ハ公然ニナシ其存意ヲ高聲ニ述ヘシ且無費ニテ定例ノ手數ナシ兩造ノ拒言且兩造ヨリ差出セシ調書ニ基キ終審裁判ヲ成スヘシ公ノ中立人ハ己ノ決定ノ子細ヲ書述スヘシ

第九十五條　居間裁判役及公ノ中立人ハ毎年撰任スヘシ

第九十六條　重罪ノ訴ニ就テハ孰レノ國民ニモ陪審ヨリ受タル訴ヘ或ハ民選議院ヨリ布令シタル訴ヘニ基カサレハ之ヲ裁判スヘカラス○被告人ハ己ノ撰擧セシ助言人或ハ裁判所ヨリ言付ラル、助言人之アルヘシ○罪業ノ有無及罪人ノ故造或ハ過誤ノ訴ハ陪審之ヲ定ヘシ罪業ニ當テ用ユヘキ罰方ハ重罪裁判所之ヲ定ムヘシ

第九十七條　重罪裁判所ノ裁判役ハ年々撰立會議ニ於テ之ヲ撰任スヘシ

第九十八條　共和國ノ全領ノ爲メ覆審裁判所一ケ所之アルヘシ

第九十九條　此裁判所ハ訴事ノ始末ニ管スヘカラス唯裁判法式及法律ニ違犯セシヿノミヲ裁判スヘシ

第百條　覆審裁判所ノ裁判役ハ撰立會議ニ於テ年々之ヲ撰任スヘシ

○佛蘭西　一千七百九十五年

第二百二條　民選議院及行政官就レモ裁判權ヲ行フヘカラス

第二百三條　裁判役ハ立法權ノ執行ニ管スヘカラス又就レノ規則モ設クヘカラス裁判役ハ施政官ノ職務ノ所業ニ就テ施政官ヲ召シ又訴フヘカラス

第二百四條　就レノ人モ法律ニ於テ自己及己ノ訴事或ハ罪業ニ適スル裁判所ヲ除キ就レノ裁判委員ノ前ニモ之ヲ訴ヘ或ハ其訴事起ラサル前ニ設タル法律ニ定タル場合ノ外其訴事ノ裁判ヲ他局ニ遷移セシムヘカラス

第二百五條　受理ハ無費ニテ之ヲ爲ヘシ

第二百六條　裁判役ニ在勤中成シタル罪且ツ法律ハ從ハスシテ裁判シタル罪ヲ犯セシ場合ノ外之ヲ褫職スル能ハス又的實ナル訴訟ノタメナラサレハ之ヲ停職スヘカラス

第二百七條　宗系ノ親屬及卑屬兄弟伯叔父及姪從弟幷ニ右ト同級ノ姻屬ハ同時ニ同裁判所ノ官吏トナル能ハス

第二百八條　裁判所ノ席ハ來聽ヲ許サヽルヲ得ス裁判役ハ內密ノ評議ヲ爲セシ上裁判ノ言渡ヲ高聲ニ述フヘシ其言渡ニ於テ裁判ノ譯拠及準擬セシ法律ノ辭ヲ述フヘシ

第二百十二條　法律ニ定タル各區部ニ於テ治安裁判役及其副役之アルヘシ右ハ盡ク二年ノ期限間撰任スル者ニシテ其二年終シ上直ニ之ヲ再任シ及其後何度ヲ限ラス撰任スルヲ得ヘシ

第二百十三條　治安裁判役及副役ヨリ終審裁判トシテ裁判スヘキ事件ハ法律ニ於テ之ヲ定ヘシ又法律ニ於テハ治安裁判役ヨリ終審裁判トシテ裁判スヘキ事件ヲ定メ而シテ之ヲ右裁判所ヘ歸セシム

第二百十四條　海陸貿易ノタメ格別ナル裁判所之アルヘシ且之ヲ設立スヘキ場所ハ法律ニ於テ定ム右裁判所ヨリ終審裁判トシテ裁判スヘキ權ハ麥百「ケンタル」一「ケンタル」ハ百「リブル」二十一「リブル」ニ一「リブル」我二十ヲ價高ノ訴事ニ限ルヘシ

第二百十五條　始審或ハ終審裁判ヲナスヘキ事件ヲ論セス都テ治安裁判役及貿易裁判所ニ管セサル訴事ハ之ヲ直ニ治安裁判役及副役ヘ差出シ和解セシムヘシ若シ治安裁判役之ヲ和解スル能ハサルトキハ之ヲ初告裁判所ヘ差送ルヘシ

第二百十六條　各州ニ於テ初告裁判所一個之アルヘシ○各初告裁判所ハ裁判役少クモ二十八督理官ヨリ任免スヘキ檢事及代役各八ニ又書記一人ヲ以テ編制スヘシ五年目ニ裁判役ノ撰任ヲ爲ヘシ已ニ撰任シタル裁判役ハ幾度ヲ限ラス撰任サルヽヲ得ヘシ

第二百十七條　右裁判役撰任ノ節裁判役ノ助役五人ヲ撰任スヘシ右五人ノ內三人ハ裁判所ヲ設クル所ノ邑ニ住居シタル人民ノ內ヨリ撰フヘシ

第二百十八條　初告裁判所ハ法律ニ定タル場合ニ於テ治安裁判役ノ裁判ニ對シテノ控訴中立人ノ裁判或ハ貿易ノ裁判ニ對シテノ

控訴ヲ終審裁判トシ裁判スヘシ

第二百十九條　初告裁判所ヨリ言渡シタル裁判ニ對メノ控訴ハ法律ニ定ル所ニ從テ尤近キ三州内一州ノ初告裁判所ヘ差出スヘシ

第二百二十條　初告裁判所ハ數部ニ分ツヘキ者ニシテ各部ノ裁判役ノ數ハ五人以上ニ非レハ裁判ノ所爲ヲナスヘカラス

第二百二十一條　各裁判所ノ裁判役ハ秘密ノ投票ヲ以テ裁判所ノ各部ノ長ヲ撰任スヘシ

第二百二十三條　人ノ取捕ヲ命スル証書ハ左ノ法式ヲ用ヒサレハ之ヲ執行スヘカラス

第一　右証書ノ文面ニ其取捕ヘル由縁及之ヲ爲スニ何レノ法律ニ根據スルヿヲ記載セサルヲ得ス

第二　右証書ノ旨ヲ本人ヘ直ニ報知シ且其寫一通ヲ本人ニ留メ置カシム

第二百二十四條　人ヲ取押ヘ取締官ノ面前ニ拘引スルトキハ即時或ハ其時ヨリ遲クトモ二十四時間ニ之ヲ訊問スヘシ

第二百二十五條　其人ヲ訊問セシ後犯罪ナシト顯ハルヽトキハ直ニ之ヲ解放セサルヲ得ス如シ犯罪アリテ本人ヲ假獄舍ヘ送ルヘキトキハナルヘキタケ速カニ之ヲ送ルヘシ其時間ハ孰レノ場合ニモ三日ヲ過クヘカラス

第二百二十六條　取捕ヘラレタル人ハ法律ニ從テ保証人ヲ差出シ解放セラルヽヲ得ヘキ場合ニ於テ適當ノ保証人ヲ差出ストキハ之ヲ解放セサルヲ得ス

第二百二十七條　孰レノ人モ法律ニ從テ禁錮サルヽヲ得ヘキ場合ニ於テ假獄舍或ハ獄舍ノ用ニ供スル爲メ法律ニ於テ公然ニ定タ

ル場所ニノミ之ヲ拘引シテ禁錮スヘシ

第二百二十八條　孰レノ監獄吏或ハ守門人モ第二百二十二條及第二百二十三條ニ記シタル法式ニ從テ爲シタル捕票或ハ裁判所ノ捕令或ハ民選議院ノ告訴ノ布告或ハ禁錮懲治ノ裁判言渡書ニ因ラサレハ人ヲ請取リ又拘留スヘカラス

第二百二十九條　凡監獄吏及守門人ハ其獄舍ノ警察ヲ取扱ヒ官員ノ命アル毎ニ囚人ヲ之ニ視スヘシ但孰レノ官員ノ命令ニ托シテ右規則ヲ犯スヘカラス

第二百三十條　囚人ノ親屬或ハ朋友右警察官員ノ命令書ヲ持參シ囚人ニ面會センヿヲ願出スルトキハ監獄吏或ハ守門人之ヲ背セサルヿヲ得ス警察官ハ親屬朋友ニ此命令書ヲ與フルヿヲ肯セサルヿヲ得ス尤監獄吏或ハ守門人ハ囚人ノ對面ヲ禁スヘキ裁判所ノ命令書ヲ受ケ已ニ之ヲ獄舍ノ簿冊ニ記入シ其命令ノ趣ヲ聞カシムルヿヲ得ヘキトキハ格別トス

第二百三十二條　人ヲ取捕ヘ入牢シ或ハ罪ニ處スル爲メ法律ニ於テ定メサル嚴刑ノ處置ハ罪ト見做スヘシ

第二百三十三條　施休或ハ加辱ノ刑ヲ生スヘカラサル罪ヲ裁判スルタメ各州ニ於テ輕罪裁判所少クトモ三箇所多クトモ六箇所アルヘシ○右裁判所ハ禁獄二年ノ罰ヨリ重罰ヲ言渡ス能ハス三日分ノ傭賃ト均シキ罰金或ハ禁獄三日ヲ過サル罰ヲ生スヘキ罪ノ裁判ハ治安裁判役ニ歸スヘシ且治安裁判役ハ右ニ付テ終審裁判ヲ爲スヘシ

第二百三十四條　各輕罪裁判所ハ長一人且其裁判所ヲ設ル所ノ邑ノ治安裁判役或ハ副役二人督理官ヨリ任シ且免スルヿヲ得ヘキ檢事役一人及書記役一人ヲ以テ編制セルモノナリ

第二百三十五條　各輕罪裁判所長ハ州ノ初告裁判所ノ諸局裁判役

ノ内ヨリ六箇月目ニ採ルヘキモノコシテ局長ヲ除キ右裁判役ハ皆順次ニ其役ヲ任セラルヘシ

第二百三十六條　輕罪裁判所ノ裁判ニ對シテ州ノ重罪裁判所ヘ控訴スルヲ得ヘシ

第二百三十七條　施体ノ罰或ハ加辱ノ罰ヲ生スヘキ罪ニ付テ就レノ人モ陪審ヨリ其告訴ヲ承諾シ或ハ民選議院ヨリ其告訴ヲナスヘキ場合ニ於テ民選議院ノ爲セシ告訴ノ布告ニ因ラサレハ之ヲ裁判スル能ハス

第二百三十八條　凡陪審ニ箇ヲ用ヒ一箇ノ陪審ハ其告訴ノ可否ヲ決シ又一箇ノ陪審ハ人ノ罪ヲ証明シ重罪裁判所ハ法律ニ從ヒ罪ノ適當スヘキ刑ヲ定ム

第二百三十九條　陪審ハ秘密ノ投票ヲ以テノミ事ヲ決議ス

第二百四十條　各州ニ於テ告訴陪審ノ數ハ同州ノ輕罪裁判所ノ數ト均シカルヘシ各輕罪裁罪所長ハ己ノ郡ノ陪審長ナリ○五萬人以上ノ邑ニ於テハ輕罪裁判所長ノ外其用事ヲ取捌ニ必要ナル陪審長其少數或ハ多數ヲ格別ノ法律ヲ以テ設ヘシ

第二百四十一條　告訴陪審ニ於テ檢事及書記役ハ輕罪裁判所ノ檢事及書記役之ヲ勤ヘシ

第二百四十二條　各陪審長ハ己ノ管轄ノ部テノ警察官員ヲ直ニ檢査スヘシ

第二百四十三條　陪審長ハ公然原告官自身或ハ督理官ノ命令ニ因リ己ノ爲シタル告白ニ基キ左ノ罪ヲ直ニ告訴スヘシ

第一　國民ノ自由或ハ保身ニ對シテノ犯罪

第二　萬民公法ニ對シテノ犯罪

第三　裁判ノ執行或ハ執レノ官員ヨリ國主ノ名義ヲ以テ發シタル命令ノ執行ニ對シテ爲シタル暴行

第四　徵稅或ハ食糧及貿易物品ノ通運ヲ妨クル爲ノ暴行及騷亂ヲ起ス事

第二百四十四條　各州ニ於テ重罪裁判所一箇アルヘシ

第二百四十五條　重罪裁判所ハ長一人公然原告官一人初告裁判所ノ裁判役ノ內ヨリ任シタル裁判役四人初告裁判所ノ檢事或ハ副役一人及書記役一人ヲ以テ編制スル者ナリ○「セイヌ」佛蘭西國名ノ重罪裁判所ニ於テ右官員ノ外副長一人及公然原告官副役一人アルヘシ此裁判所ハ二課ニ分レ初告裁判所ノ官員八人右裁判所ニ裁判役ヲ勤ルヿナリ

第二百四十六條　初告裁判所ノ局長ハ重罪裁判所ニ裁判役ヲ勤ル能ハス

第二百四十七條　初告裁判所ノ他ノ裁判役ハ其委任月日ノ順序ニ因テ更々六月間重罪裁判所ニ勤ムヘキヿニシテ右時間中初告裁判所ニ執レノ職ヲ勤ル能ハス

第二百四十八條　公然原告官ハ左ノ用務ヲ掌ルヘシ

第一　初メ陪審ヨリ承諾シタル告訴ノ公書ニ基キ罪ヲ告訴スルヿ

第二　己レニ直ニ屬ケタル告白ヲ警察官員ヘ傳達スル事

第三　州ノ警察官員ヲ檢査シ且右官員怠慢或ハ更ニ重罪アルトキハ法律ニ定タル處分ヲ執行スル事

第二百四十九條　檢事ハ左ノ用務ヲ托サルヽヿナリ

第一　訊問中裁判法式ヲ遵守スヘキヿヲ請求スルヿ及裁判言

渡ノトキニ至リ裁判役ヨリ法律ノ何箇條ヲ執行スヘキヿヲ請求スル事

第二　重罪裁判所ヨリ言渡シタル裁判ヲ行ハシムル事

第二百五十條　裁判役ヨリ陪審ノ裁斷ニ進ムル事件ハ箇一ナルヿニ限ルヘキモノニシテ混雜ナル事件ナカルヘシ

第二百五十一條　裁判ノ陪審ハ但罪アルト否ヲ決斷スル陪審ヲ云　少クモ十二人ヲ以テ編制スルモノニシテ被告重罪人ハ右ノ内數人ニ對シ疑惑ノ事故アレハ其事故ヲ陳述セスト雖モ其人ヲ辭謝スルヲ得ヘシ尤右ノ通リ辭謝スルヲ得ヘキ最上ノ人數ハ法律ニ於テ定タル人數ニ限ルヘシ

第二百五十二條　陪審ノ面前ニ爲スヘキ訊問ニ於テハ來聽ヲ免スヘシ且被告重罪人ハ辨護人ヲ願ニ於テハ之ヲ承諾セサルヲ得ス

本人其辨護人ヲ自ラ撰擧スルヲ得ヘシ若シ自ラ之ヲ撰擧スル能ハサルトキハ官ヨリ被告重罪人ノ爲メ辨護人一人ヲ撰任スヘシ

第二百五十三條　法律ニ從テ設立シタル陪審ヨリ已ニ解放シタル被告重罪人ハ其告訴サレタル同所業ニ付テ之ヲ再度取捕ヘ告訴スヘカラス○共和全國ノ爲メ覆審裁判所一箇所アリ右裁判所ハ左ノ件々ニ付テ裁判ヲ言渡スヘシ

第一　裁判所ヨリ言渡シタル終審裁判ヲ取消サンヤメノ訴願

第二　一箇ノ裁判所ヘ送リタル訴事ニ就テ其裁判役ヲ疑フ事由ヲ陳ヘ或ハ國ノ平和ノ目的ヲ陳述スルヲ以テ之ヲ他ノ裁判所ニ於テ裁判セシムルタメノ訴願

第三　一事カ數箇ノ裁判所ヘ管渉スルニ於テハ之ヲ裁判スヘキ裁判所ヲ定ルヿ及一箇ノ裁判所ノ言渡セシ裁判ヨリ生セ

シ損害ヲ其裁判役ノ全分ニ對シテ補償セシムルノ願

第二百五十五條　覆審裁判所ハ訴事ノ始末ヲ吟味スル能ハスト雖
モ法式ニ背ク手續キヲ以テ言渡シタル裁判或ハ法律ニ背反シタ
ル裁判ヲ取消シテ其訴事ノ始末ヲ管スヘキ裁判所ヘ之ヲ送ルヘ
シ

第二百五十六條　一訴事ニ就テ爲シタル裁判一度取消シ他ノ裁判
所ヘ差送リシト雖モ又右裁判所ノ裁判モ同主旨ヲ以テ取消サン
トスルノ願ヒヲ出サヽルトキハ覆審裁判所ハ事ヲ民選議院ヘ進メ
サリシ上ナラサレハ其訴事ヲ裁判スヘカラス且右訴事ヲ裁判ス
ルニハ民選議院ヨリ右ニ付キ格別ノ法律ヲ布告セシ後必ス之ニ
從フヘシ

第二百五十七條　毎年覆審裁判所ハ民選議院ノ各課ヘ總代ヲ差出
シ年中覆審裁判所ヨリ言渡セシ都テノ裁判ノ目錄ヲ進達スヘシ
但右目錄ノ端ニ各訴事ノ始末及其裁判ノ基キタル法律ノ箇條ノ
原文ヲ書加フヘシ

第二百五十八條　覆審裁判所ノ裁判役ノ數ハ州ノ全數ノ三人ヲ過
クヘカラス

第二百五十九條　此裁判所ハ各年其官員ノ半ヲ改撰スルヲ以テ變
改ス諸州ノ撰立會議ハ順ヲ逐ヒ交代シテ覆審裁判所ノ退職スル
裁判役ノ代役ヲ撰任スヘシ但覆審裁判所ノ裁判役ハ何度ヲ限ラ
ス右役ニ復撰サルヽヲ得ヘシ

第二百六十條　覆審裁判所ノ各裁判役ノタメ同撰立會議ヨリ撰任
シタル裁判役一人ヲ置クヘシ

第二百六十一條　覆審裁判所ノ側ニ督理官ヨリ委任シ且免職スル

ヲ得ヘキ檢事一人及代役數人之アルヘシ

第二百六十二條　「ジレクトワール」ハ裁判役自己ノ權限ヲ過キテ爲セシ處置ヲ檢事ヲシテ覆審裁判所ヘ告白セシムヘシ但右ハ裁判役ノ處置ニ因リテ生セシ損害ヲ補償セシムルヿニ付テ原被告人ノ有スル權ト牴觸スヘカラス

第二百六十三條　覆審裁判所ハ右裁判役ノ處置ヲ取消ヘシ若シ右處置ハ裁判役自己ノ職務ニ付テノ罪ナルキハ覆審裁判所ハ之ヲ民選議院ニ告白ス民選議院ハ訴ヘタル裁判役ヲ召シ或ハ其論辨ヲ聞シ上罪アルニ於テハ訴ヘノ布令ヲ發スヘシ

第二百六十四條　民選議院ハ覆審裁判所ノ裁判ヲ取消ス能ハスト雖ヒ其裁判役自己ノ職務上ニ付テ罪アルキハ自ラ之ヲ告訴スルヲ得ヘシ

第二百六十五條　民選議院ノ承諾セシ己ノ議員及「ジレクトワール」ノ官員ニ對シテノ訴訟ヲ裁判スルタメ最上裁判所（オートクールヘドジユスチス）一箇所アルヘシ

第二百六十六條　最上裁判所ハ覆審裁判所ノ内ヨリ出シタル裁判役五人公然原告官二人及州ノ撰立會議ヨリ撰任シタル最上陪審員ヲ以テ編制ス

第二百六十七條　最上裁判所ハ民選議院ノ布告ニ因テノミ集會スヘシ但五百員議院ハ此布告ノ文書ヲ記載シ且布告スヘシ

第二百六十八條　最上裁判所ハ五百員議院ノ布告書ニ記シタル場所ニ集會シ且議席ヲ爲スヘシ右場所ハ民選議院ノ集會所ヨリ十二萬「メートル」（一「メートル」ハ我三尺三寸）以上離隔セサルヲ得ス

第二百六十九條　民選議院ニ於テハ最上裁判所集會致スヘキ旨布

告セシトキハ覆審裁判所公然ノ議席ニ於テ闡取ヲナシ以テ己ノ官員十五人ヲ撰擧セシ後直ニ同議席ニテ其十五人ノ内秘密ナル投票ヲ以テ五人ヲ選任スヘシ右五人ハ最上裁判所ノ裁判役トナル其内一人ヲ撰ヒ之ヲ裁判長ニ委任スヘシ

第二百七十條　覆審裁判所ハ右議席ニテ投票ノ過半ヲ以テ二人ヲ撰擧シ之ヲ最上裁判所ノ公然原告官ノ職ニ委任スヘシ

第二百七十一條　告訴ノ証書ハ五百員議院之ヲ記載スヘシ

第二百七十二條　各年各州ノ撰立會議ハ最上裁判所ノ爲メ最上陪審一人ヲ撰任ス

第二百七十三條　撰擧終リシヨリ一箇月ノ後督理官最上裁判所ノ陪審ニ委任シタル人ノ連名目錄ヲ出板シ布告セシムヘシ

○佛蘭西　一千七百九十九年

第六十條　各邑ノ管轄ニ於テ治安裁判役一人或ハ數人ヲ設置スヘシ國民ハ直ニ之ヲ撰擧シ三年限リ任スヘシ右裁判役ノ至重ナル事務ハ原被告人ヲシテ和解セシムルヿニシテ原被告人和解セサルトキハ其訴事ヲ中人ノ裁斷ニ任スルヿヲ共ニ進ムヘシ

第六十一條　民間訴事ニ就テハ初告裁判所及控訴裁判所之アルヘシ○右裁判所ノ編制其權限及其管轄ノ領分ヲ定ムルヿハ法律ニ於テ之ヲ爲ス

第六十二條　施体又加辱ノ刑ヲ生スヘキ重罪ヲ裁判スルニ二箇ノ陪審ヲ用ユ○第一等ノ審陪ハ告訴ノ可否ヲ決ス其告訴可ト定メシ上第二等ノ陪審犯罪ノ有無ヲ決ス其後裁判役ヲ以テ編制シタル重罪裁判所ハ其罪ヲ擬律シテ罰ヲ定ム但右裁判ニ對シテ控訴

スルヲ得ス

第六十三條　重罪裁判所ニ於テ公然原告官ノ役ハ檢事之ヲ勤ムヘシ（アッキュザトール、プブリック）

第六十四條　施体加辱ノ刑ヲ生スヘカラサル罪ハ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判スヘシ○右裁判ニ對シ重罪裁判所ヘ控訴スルヲ得ヘシ

第六十五條　共和全國ノ爲メ覆審院一箇所アリ右ハ左ノ件々ヲ裁判ス

第一　裁判所ヨリ言渡シタル終審裁判ニ對シテノ控訴

第二　一箇ノ裁判所ニ送リタル訴事ニ就テ其裁判役ニ對シテ疑念ノ事由ヲ陳ヘ或ハ國ノ平和安寧ノ目的ヲ陳フルヲ以テ其訴事ノ裁判ヲ他ノ裁判所ヘ委托セントノ訴願

第三　一箇ノ裁判所ヨリ言渡セシ裁判ニ因リ生シタル損害ヲ其裁判役ノ全部ニ之ヲ補償セシムルノ訴願

第六十六條　覆審院ハ訴事ノ始末ヲ吟味スルヲ得スト雖モ法式ニ背ク手續ヲ以テ言渡シタル裁判或ハ法律ニ背反シタル裁判ヲ取消シテ其訴事ノ始末ニ管スヘキ裁判所ヘ訴事ヲ送ル

第六十七條　初告裁判所ノ裁判役及檢事ハ邑ノ連名書或ハ州ノ連名書ニ記名シタル國民中ヨリ撰任スヘシ○控訴裁判所ノ裁判役及檢事ハ州ノ連名書ニ記名シタル國民中ヨリ撰任スヘシ○覆審院ノ裁判役及檢事ハ全國ノ連名書ニ記シタル國民中ヨリ撰任スヘシ

第六十八條　治安裁判役ノ外都テノ裁判役ハ自己ノ職務ニ就テ罪ヲ犯シ或ハ其名ヲ連名書ニ取消サル、場合ノ外ハ終身其役ヲ勤

續スヘシ

第七十條　元老院民選議院第一等ノ民選議院ノ議員或ハ國議院議官ノ犯シタル施体加辱ノ刑ヲ生スヘキ罪ハ其犯人屬スル處ノ院ニ於テ評議ノ上其訴ヲ許セシ後ハ其犯人ヲ常例ノ裁判所ヘ告訴スヘシ

第七十一條　施体加辱ノ刑ヲ生スヘキ私罪ヲ犯セシ卿ニ對シテ國議院議官ノ爲メ定タル右ノ處置ヲ爲ヘシ

第七十四條　初告裁判所及重輕罪裁判所ノ裁判役ハ己ノ職務ニ就テ罪ヲ犯スヨリ覆審院ハ其法ニ背キタル決定ヲ取消シ且其罪ヲ裁判スル爲メ一箇ノ裁判所ヘ送リ而後其裁判役ヲ右裁判所ヘ告訴スヘシ

第七十五條　諸卿ノ外都テ政府ノ官員ハ國議院ノ決定ニ因ニ非レハ自己ノ職務ニ管スル所業ニ就テ告訴セラルヘカラス但國議院ノ決定ニヨリ爲シタル告訴ハ平常ノ裁判所ニ之ヲ爲ヘシ

第七十七條　人ヲ取押ユヘキヿヲ命スル公書ハ左ノ法式ヲ用ヒサレハ之ヲ行フヘカラス

第一　右公書ノ文面ニ其取押フル由緣及之ヲ爲スニ何レノ法律ニ原據スルヿヲ記載セサルヿヲ得ス

第二　右取押フヘキ命令ハ法律ニヨリ其取押フルノ權ヲ受タル官員ヨリ發セサルヿヲ得ス

第三　右公書ノ旨ヲ直ニ本人ヘ報知シ且其寫一通ヲ本人ニ留メ置カシム

第七十八條　凡監獄吏或ハ守門人ハ人ヲ取押ユヘキヿヲ命スル證書ヲ己ノ簿冊ニ記載セシ上ナラサレハ其人ヲ請取リ又拘留スヘ

カラス但右證書トハ即チ前條ニ記シタル法式ニ從テ發シタル捕票或ハ裁判所ノ捕令或ハ民選議院ノ爲シタル告訴ノ布令或ハ裁判言渡書ヲ云フ

第七十九條　凡監獄吏或ハ守門人ハ其獄舍ノ警察ヲ取扱フ官員ヨリ命セラルヽ毎ニ囚人ヲ之ニ視メスヘシ但他ノ官員ノ異令ニ托シテ右規則ヲ犯スヘカラス

第八十條　囚人ノ親屬或ハ朋友右警察官員ノ命令書ヲ持參シ囚人ニ面會センヿヲ出願スルトキハ監獄吏或ハ守門人之ヲ肯セサルヲ得ス但警察官ハ此命令書ヲ親屬或ハ朋友ニ與フルヿヲ肯セサルヲ得ス尤監獄吏或ハ守門人ハ囚人ノ對面スルヿヲ禁スヘキ裁判役ノ命令書ヲ前以テ受ケ之レヲ獄舍ノ簿冊ニ記入シ且此命令書ヲ視メスヿヲ得ヘキトキハ格別トス

第八十二條　人ヲ取押ヘ入牢シ或ハ罪ヲ處スルタメ法律ニ於テ定サル嚴酷ノ處置ハ之ヲ罪トス

第八十五條　軍團ニ屬スル者ノ犯セシ罪ハ格別ノ裁判所ニ於テ格段ノ裁判式ヲ以テ之ヲ裁判スヘシ

○佛蘭西　一千八百
○二年

第七十八條　司法卿ヲ勤ムル裁判總長（グランヂユジ）一人之有ルヘシ

第七十九條　裁判總長ハ元老院及國議院ニ於テ格別ノ席ヲ有スヘシ

第八十條　政府ハ裁判總長ヲシテ覆審院及控訴裁判所ニ上席セシムルヿヲ當然ト思フトキハ之ヲ爲サシムルヲ得ヘシ

第八十一條　裁判總長ハ治安裁判所及其官員ニ對シテ監察及督責

スルノ權アリ

第八十二條　裁判總長覆審院ニ上席スルトキハ覆審院ハ控訴裁判所及重罪裁判所ニ對シテ責罰及取締ノ權ヲ有ス裁判役ハ重キ過誤ヲ爲セシトキハ覆審院ハ之ヲ停職スルヲ得或ハ己ノ罪業ノ所以ヲ辨說セシムルニ之ヲ裁判總長ノ面前ニ召ヲ得ヘシ

第八十三條　控訴裁判所ハ己ノ管轄ノ初告裁判所ニ對シテ監察ノ權ヲ有ス又初告裁判所ハ己ノ管轄ノ治安裁判役ニ對シテ同樣ノ權ヲ有ス

第八十四條　覆審院ノ檢事ハ控訴裁判所及重罪裁判所ノ檢事ヲ監察スヘシ控訴裁判所ノ檢事ハ初告裁判所ノ檢事ヲ監察スヘシ

第八十五條　覆審院ノ官員ハ第一等ノ宰相ノ薦メニ依リ元老院之ヲ委任ス右官員ノ各欠役ノ爲メ第一等ノ「コンシコル」ハ三人ヲ薦

○佛蘭西　一千八百○四年

第百一條　大審院一箇所ヲ設立シ左ノ罪ヲ裁判セシムヘシ

第一　帝族帝國高位ノ大臣諸卿政府ノ總書記官帝國ノ大官元老院ノ議員國議院ノ議官等ニ對シタル犯罪

第二　國ノ內外ノ安寧ニ對シ或ハ皇帝又繼嗣スヘキ帝族ノ命ニ對シテ爲シタル虐謀或ハ虐罪

第三　諸卿或ハ施政ノ事務ヲ任シタル國議院ノ議官ニ於テ自ラ責任スヘキニ付テノ輕罪

第四　屬國ノ軍長屬國ノ知事佛蘭西國ノ屬地ヲ指令スル官員

非常ノ使役ヲ任シタル施政總官及海陸軍ノ將官ヨリ自己ノ職役ニ對シテ爲シタル罪及權外ノ「但海陸軍將官ハ右ノ外法律ニ從テ海陸軍裁判所ノ裁判ヲ受クヘキ場合ニ於テ其裁判ヲモ受ヘシ」

第五　己ノ受取リシ軍令狀ニ背キシ海陸軍ノ總長

第六　州長ニ於テ己ノ勤務中不法ノ稅ヲ徵シ或ハ國貨ヲ費ス「ノ罪

第七　裁判役ニ於テ己ノ役務ニ付テ爲セシ罪并ニ控訴裁判所或ハ重罪裁判所或ハ覆審院ノ裁判役ニ對シテ被告人ヨリ爲シタル償害ノ訴訟

第八　人民ヲ無理ニ入牢シタル「或ハ著書自由ノ元則ノ背犯ニ付テ爲シタル告訴

第百二條　大審院ノ集會所ハ元老院ナリ

第百三條　帝國ノ政府印璽大監ハ大審院ニ上席スヘシ

右大臣病氣不在或ハ本實ノ故障ニ因テ出席スル能ハサル節ハ他ノ帝國大臣右院ニ上席スヘシ

第百四條　大審院ハ左ノ官員ヲ以テ編制ス

帝國大臣及帝國大官

司法卿ノ役ヲ勤ル裁判總長

元老院ノ議員六十人國議院ノ課長六人其議官十四人及覆審院ノ官員二十人但右元老院ノ議員國議院ノ議官及覆審院ノ官員ノ撰擧ハ其任職ノ前後ニ因テ定ヘシ

第百五條　大審院ニ於テ皇帝ヨリ終身委任シタル大檢事一人アルヘシ○右官員ハ年々民選議員ヨリ第一等ノ民選議院ノ爲シタル

九人ノ連名書ノ中ヨリ撰ヒタル「トリブナ」ノ議員三人并ニ皇帝ヨリ年々控訴裁判所及重罪裁判所ノ裁判役ノ中ヨリ撰任シタル官員三人ノ輔佐ヲ受ケ大審院ニテ檢事役ヲ勤ム

第百六條　大審院ニ於テ大書記官一人有ルヘシ皇帝之ヲ任ス

第百七條　大審院ノ長ハ實正ノ故アレハ裁判ニ管スルヿヲ肯セサルヿヲ得ルヘシト雖ヒ被告人ハ其長ノ管スルヿヲ肯セサルヿヲ得ヘカラス

第百八條　大審院ハ其檢事ノ告訴ニ因ラサレハ孰レノ處置モ爲スヘカラス○大審院ノ裁判ヲ受ヘキ輕重ニ付テ原告人之有ルトキハ檢事必ス右原告人ノ助告人トシテ左ニ記シタル如ク事ヲ執行スヘシ但裁判役己ノ役務ニ付テ行タル罪及裁判役ニ對シテ償害ノ訴訟ノ場合ニ於テモ檢事ハ必ス助告人トナルヘシ

第百九條　警察官吏并ニ陪審ノ長ハ其裁判スル罪事ハ原被告人ノ分限或ハ告訴ノ性質或ハ其形情ニヨリ大審院ノ裁判ヲ受ヘキヿヲ發見スルトキハ直ニ己ノ裁判手續ヲ差止メ八日間ニ都テ其事件ニ管スル手續證書ヲ大審院ノ大檢事ヘ差出スヘシ但右證書ヲ大檢事ヘ差出セシ後ト雖ヒ警察官吏其罪ノ證據及罪跡ヲ續キテ探索スヘシ

第百十條　施政ノ孰レノ職務ヲ委托シタル卿或ハ議官ノ若シ建國法及帝國ノ法律ニ背キタル命令ヲ出セシトキハ民選議院ハ之ヲ大審院ヘ告訴スルヲ得ヘシ

第百十一條　民選議院ニ於テ左ノ官員ヲ大審院ヘ告訴スルヲ得ヘシ○己ノ役務ニ付テ罪ヲ犯シ或ハ權外ノ所業ヲ爲セシ屬國ノ軍長及知事國外ノ屬地ヲ支令スル官員及施政總官又己ノ軍令狀ニ

背キシ海陸軍ノ總長幷ニ己ノ勤務中不法ナル稅ヲ徵シ或ハ國貨ヲ費セシ州長

第百十二條　第六十三條及第六十七條ニ從テ元老院ニテ人ノ無理ニ入牢サレタルト或ハ著書自由ノ元則ヲ背犯サレタルノ推量ヲ發セシトキハ民選議院ハ其處置ヲ爲シタル卿或ハ官員ヲ右ト同樣ニ大審院ヘ告訴スルヲ得ヘシ

第百十三條　民選議院ニ於テ大審院ヘ人ヲ告訴セシ上ハ右告訴ヲ止ムルニハ第一等ノ民選議院之ヲ願ヒ或ハ民選議院ノ議員五十人內密議會ヲ爲シ且其中ヨリ十人ヲ定メ民選議院ノ告訴書ノ議按ヲ記セシムル樣ノ願ヲ爲サヽルヲ得ス

第百十四條　右孰レノ場合モ其願書ニハ第一等ノ民選議院ノ議長及書記官ノ花押或ハ民選議院ノ議員十人ノ花押有ラサルヲ得ス

如シ民選議院ノ告訴ハ卿或ハ施政ノ事務ヲ委托シタル議官ニ對シテ爲シタルトキハ其告訴ノ主意ヲ一箇月間ニ其被告トセラレタル官員ヘ報達スヘシ

第百十五條　民選議院ヨリ告訴シタル卿或ハ議官ハ答辨ノ爲メ出席スルヲナシ○皇帝ハ議官三人ヲ定メ其訴訟ノ始末ヲ解明セシカ爲メ民選議院ニ定タル日限ニ出張セシム

第百十六條　民選議院ハ內密會議トシテ第一等ノ民選議院或ハ民選議院ノ議員十人ノ願ノ趣ヲ評議シ投票ヲ以テ決議ス

第百十七條　民選議院ノ告訴ノ公書ニハ事情ヲ明細ニ記シ民選議院ノ議長及書記官之ニ花押スヘシ民選議院公然ノ告書ヲ以テ之ヲ帝國ノ政府印璽大監ヘ差送リ右大臣ハ之ヲ大審院ノ大檢事ヘ送附スヘシ

第百十八條　屬國ノ軍長及知事國外屬地ノ指令官及施政總長官ヨリ爲シタル役務ニ付テノ罪及權外ノ所業幷ニ海陸軍ノ總長已ノ軍令狀ニ背キタル所業又州長無理ナル稅ヲ徵シ或ハ國貨ヲ費セシ等ノ罪ハ各省ノ卿ヨリ己ノ職務ニ管スルヿニ付テ之ヲ大審院ノ檢事局ヘ告訴スヘシ但右告訴ハ司法卿ノ役ヲ勤ル裁判總長ヨリ之ヲ爲スキハ司法卿己ノ告訴ニ管スル裁判ニ參加シ或ハ出席スヘカラス

第百十九條　第百十第百十一第百十二及第百十八條ニ定タル場合ニ於テハ大檢事ハ大審院ヲ集會セシムル旨ヲ三日間ニ帝國ノ政府印璽大監ヘ報知スヘシ帝國ノ「アルシヽヤンソリエ」皇帝ノ沙汰ヲ窺ヒシ上十日間ニ大審院ノ開議ノ日限ヲ定ヘシ

第百二十條　開議ノ日限ノ集會ニ於テ大審院ハ告訴ノ裁判己ノ權內ニ有ルヤ否ノミ吟味スヘシ

第百二十一條　大審院ニ於テ訴訟或ハ民選議院ノ告訴ヲ受ルキハ大檢事第一等ノ民選議院ノ議員三人及檢事局ノ輔佐役ヲ任セラレタル裁判役三人（第百五條參看）ト共ニ右告訴ノ裁判ヲ爲スヘキヤ否ヲ吟味スヘシ右裁判スヘキヤ否ノ決定ハ大檢事之ヲ獨有ス大檢事ハ右裁判役三人ノ內一人ヲ命シ右告訴ノ糾問手續ヲ取扱ハシムルヲ得ヘシ○檢事局ハ大審院ニテ右告訴ヲ受理スルヿ及ハスト認メアレハ右ノ旨ノ決定書ヲ作リ其原由ヲ書スヘシ大審院ハ右ニ付テノ檢事局ノ屆書ヲ委托シタル官員ノ論辨ヲ聞入レシ上其決定ノ是非ヲ裁斷スヘシ

第百三十二條　大審院ハ右受理スルヿ及ハサル趣ノ檢事局ノ決定書ヲ承知スル場合ニ於テハ大審院右告訴ニ付テ一定ノ裁判ヲ爲

ヘシ○大審院ハ右受理スルニ及ハサル趣ノ檢事局ノ決定ヲ不承知ノ節ハ檢事局ニ於テ告訴ノ糾問ヲ必ス續テ爲スヘシ

第百二十三條　前條ニ從テ大審院ニ於テ檢事局ノ決定ヲ承知セサルカ或ハ檢事局ハ民選議院ノ告訴ヲ大審院ニテ受理スヘシト思フトキハ檢事局ハ八日間ニ原告狀ヲ作リ大審院中ニ帝國ノ政府印璽大監ヨリ撰任シタル糾彈官及其代役ニ之ヲ報知スヘシ右糾彈官ノ役ハ訴訟ノ糾問ヲ爲シ及夫レニ付テノ届書ヲ制ス

第百二十四條　糾彈官或ハ其代役ハ帝國ノ「アルシヤンソリエ」ヨリ大審院中ニ撰擧シタル元老院ノ議院六人第百四條參看及他ノ大審院ノ官員六人都合十二人ヲ大審院ノ名代トナシ原告狀ヲ夫レニ差出シ其存意ヲ窺フヘシ但右撰擧シタル名代十二人大審院ノ裁判ニ參加スヘカラス

第百二十五條　右十二人ノ名代ハ告訴ヲ爲スヘキヿト思ハヽ糾彈官ハ其決定ヲ記シ捕令ヲ發シ糾問ヲ始ムヘシ

第百二十六條　若シ右十二人ノ名代告訴ヲ爲スヘカラスト思ハヽ糾彈官其存意ヲ大審院ヘ進メ大審院其告訴スヘキヤ否ヲ決定スヘシ

第百二十七條　大審院ニ於テ其官員六十人以上出席セサレハ訴訟ヲ裁判スヘカラス大審院官員ノ内被告人ハ別段ニ其疑惑ノ事故ヲ陳スシテ十人以下ヲ辭謝スルヲ得ヘシ檢事モ十人以下ヲ辭謝スルヲ得ヘシ大審院ノ裁決ハ出席官員ノ過半ヲ以テ定ム

第百二十八條　大審院ノ裁判席ニ必ス來聽ヲ免スヘシ且其裁決モ公然ニ爲スヘシ

第百二十九條　被告人ハ代言人ノ輔佐ヲ受ヘシ如シ被告人自ラ之

ヲ撰ハサレハ帝國ノ政府印璽大監代言人一人ヲ命シ之ニ被告人ヲ輔佐セシムヘシ

第百三十條　大審院ニ於テ刑法ニ定タル罰ノ外執レノ罰ヲモ言渡スハカラス場合ニヨリ大審院ニ於テ負訴訟人己ノ罪ヨリ生セシ損害ヲ償フヘキヿヲ言渡スヲ得ヘシ

第百三十一條　大審院ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス節ハ場合ニヨリ其免罪シタル被告人ニ政府ノ監察ヲ受サシムヘシ其節右監察ヲ受クヘキ期限モ定ヘシ

第百三十二條　大審院ヨリ爲シタル裁決ニ對シテ執レノ控訴モ爲ス能ハスト雖ヒ右ノ内加辱施體ノ罰ヲ言渡スノ裁決ハ皇帝之ニ調印セシ上ナラサレハ執行スヘカラス

第百三十三條　大審院ノ編制及職務ニ管スル右ノ外ノ規則ハ格別ナル元老院ノ決定書ニ記入ス

第百三十四條　諸裁判所ノ裁判言渡シハ之ヲ裁決ト言フ

第百三十五條　覆審院ト諸控訴裁判所及諸重罪裁判所ノ長ハ皇帝ヨリ委任ス其上席スヘキ裁判所中ノ外撰擧サルヽヲ得ヘシ

第百三十六條　覆審院ハ覆審院ノ名ヲ用フヘシ控訴裁判所ハ控訴（クールタペル）裁判所ノ名ヲ用ヒ重罪裁判所ハ重罪裁判所ノ名ヲ用フヘシ（クール、ド、ジュスチス、クリミネル）○覆審院ノ長幷ニ諸課ニ分チタル控訴裁判所ノ長ハ第一等ノ長ノ名位ヲ用ヒ其副長ハ長ノ名位ヲ用フヘシ（プロミエ、プレシダン）○覆審院ト控訴裁判所及重罪裁判所ニ勤ル檢事ハ大檢事ノ名位ヲ用ヒ他ノ裁判所ニ勤ル檢事ハ檢事ノ名位ヲ用フヘシ（プロクロル、セヲラル、アンペリヤル）（プレシダン）

第五十七條　凡審判ハ國王ノ名義ヲ以テ爲ヘキ者ニシテ國王ヨリ任職シタル裁判役ハ國王ノ名義ヲ以テ之ヲ爲ス

第五十八條　國王ヨリ委任シタル裁判役ハ終身在勤スヘキ者ニシテ之ヲ免職スル能ハス

第百五十九條　當今存在シタル平常ノ裁判所ハ續テ勤ヘシ且之ニ變改ヲ加フルニ必ス法律ヲ設ヘシ

第六十條　當今有ル處ノ公益裁判所ヲ續テ用ユヘシ

第六十一條　當今ノ治安裁判役モ續テ勤ヘシ右ハ國王ヨリ委任シタル者ト雖ヒ之ヲ免職スルヿヲ得

第六十二條　凡人ハ其犯罪ノ類及其事實ニヨリ法律ニ於テ之ヲ裁判スル所ノ裁判役ヲ除キ他ノ裁判役ヲシテ之ヲ裁判セシムル能ハス

第六十三條　凡非常ノ裁判委員或ハ裁判所ヲ設立スヘカラス但警察裁判所ヲ再立スルヿヲ然ルヘキト思フトキハ格別ナリトス

第六十四條　重罪ノヿニ付裁判席ニ來聽ヲ許スヘシ然ヒ其公然ノ吟味取締及風儀ヲ害スヘキトキハ格別トス此場合ニ於テ裁判所ハ格段ノ裁決ヲ出シ以テ內密ノ吟味ヲ爲ヘキ旨ヲ述フヘシ

第六十五條　陪審ハ續テ之ヲ用フヘシ年月ノ經驗ヲ得テ之ニ變改ヲ加フヘキトキハ法律ヲ設ケ之ヲ爲スヲ得ヘシ

第六十六條　財產沒收ノ刑ハ之ヲ廢シ且之ヲ再立スル能ハス

○佛蘭西　一千八百十五年

第五十一條　皇帝ハ都テノ裁判役ヲ任ス裁判役ハ其委任シタル日ヨリ終身任シタル者ニシテ之ヲ免職スヘカラスト雖ヒ治安裁判

役并ニ貿易裁判役ハ今迄ノ通リ任スヘキ者ニシテ格別トシ尙千八百七年十月十二日附元老院ノ建國決定書ニ從ヒ皇帝ヨリ任シ且當今已ニ勤ル所ノ裁判役ハ來年正月迄終身ノ委任狀ヲ之ニ與フヘシ

第五十二條　陪審ノ制度ハ今迄ノ通リ之ヲ用フヘシ

第五十三條　重罪ノ訴ニ付テノ裁判席ニ來聽ヲ免スヘシ

第五十四條　軍律ニ管スル輕罪ノミ軍事裁判所ノ管轄ニ歸スヘシ

第五十五條　總テ他ノ輕罪ハ假令軍事ニ屬スル者ノ犯シタリト雖ヒ平常裁判所ノ管轄ニ歸スルナリ

第五十六條　元ト大審院ノ裁判スヘキ所ノ重輕罪ノ內此建國法ニ因リ上院ニ於テ裁判スヘキ罪ニ非レハ通常ノ裁判所ヘ之ヲ訴フヘシ

第五十八條　若シ覆審院ヨリ法律ノ判斷ヲ願フトキハ之ヲ爲スニ法律ノ体裁ヲ用フヘシ

○佛蘭西　一千八百三十年

第四十八條　凡審判ハ國王ヨリ發スヘキ者ニシテ國王ヨリ任職シタル裁判役ハ國王ノ名義ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十九條　國王ヨリ委任シタル裁判役ハ終身任スヘキ者ニシテ之ヲ免職スル能ハス

第五十條　現在ノ通常裁判所ハ續テ勤ヘシ且法律ヲ以テスルニ非レハ之ニ變改ヲ加フヘカラス

第五十一條　現今貿易裁判所ハ續テ之ヲ用ユ

第五十二條　當今ノ治安裁判役モ續テ勤ヘシ右ハ國王ヨリ委任シ

タル者ト雖ヒ之ヲ免職スルヲ得ヘシ

第五十三條　凡人ハ其犯罪ノ類及其時宜ニヨリ法律ニ從テ之ヲ裁判スヘキ所ノ裁判役ヲ除キ他ノ裁判役ヲシテ之ヲ裁判セシムルヲ得ス

第五十四條　凡非常ノ裁判委員或ハ裁判所ヲ設立スヘカラス

第五十五條　凡重罪ノ訴ニ付テノ裁判席ニ來聽ヲ許スヘシト雖ヒ若シ其公然ノ吟味ヨリ取締及風儀ノタメ害ヲ生スヘキトキハ格別トス此場合ニ於テ裁判所ハ格段ノ裁決ヲ出シ以テ内密ノ吟味ヲ爲スヘキ旨ヲ述フヘシ

第五十六條　陪審ハ續テ之ヲ用フヘシ尚年月ノ經驗ヲ得テ其規則ニ變改ヲ加フヘキヿ顯ハルヽトキハ法律ヲ設ケ以テ之ヲ爲スヲ得ヘシ

第五十七條　財産沒收ノ刑ハ之ヲ廢シ且以後之ヲ再立スルヲ得ス

○佛蘭西　一千八百四十八年

第八十一條　凡審判ハ佛蘭西國民ノ名義ヲ以テ爲ヘキ者ニシテ無給ニテ之ヲ爲ヘシ○裁判ノ事件ニヨリ國ノ取締及風儀ヲ害シテ公ノ裁判ヲ爲ス能ハサル場合ノ外凡テ裁判ノ席ニ必ス來聽ヲ免スヘシ但公ニ裁判ヲ爲ス能ハサルトキハ裁判役ハ格段ノ裁判言渡ヲ以テ其旨ヲ公告スヘシ

第八十二條　重罪裁判ノ爲メ是迄ノ通リ陪審ヲ用ユヘシ

第八十三條　輕罪ト雖ヒ政事上幷ニ刻書ヲ以テ爲ス處ノ輕罪ナレハ陪審ノミ之ヲ審判スヘシ尚シ國民間ノ惡口ト汚名ノ間ノ輕罪ニ歸スヘキ所ノ裁判管轄ハ裁判官ノ設立ニ付テノ法律之ヲ定ム

ヘシ

第八十四條　刻書ノ輕罪ニヨリ或ハ刻書ニヨリ損害ヲ受タル人ノ爲ス處ノ損害償金ノ願訴ハ陪審自ラ之ヲ裁決スヘシ

第八十五條　治安裁判役並ニ其代役ト初審裁判所並ニ控訴裁判所ノ裁判役ト覆審院ノ裁判役並ニ計算總檢査院ノ裁判官ハ共和政治統領之ヲ任ス但之ヲ任スル爲メ裁判官設立ノ法律ニ定ムヘキ所ノ勸告ノ規則ニ從フヘシ

第八十六條　檢事局ノ官員ハ共和政治統領之ヲ任ス

第八十七條　初審裁判所控訴裁判所及覆審院等ノ裁判役並ニ計算總檢査院ノ裁判官ハ終身任セラルヘキ者ニシテ裁判言渡ニヨラサレハ之ヲ免職或ハ停職スヘカラス且法條ニ定タル處ノ原由ニヨラス法律ニ定タル法式ヲ用ヒスシテ之ヲ隱居セシムル能ハス

第八十八條　海陸軍裁判所及同控訴裁判所軍港裁判所貿易裁判所工部裁判所並ニ他ノ常外裁判所ハ法律ヲ以テ之ヲ變改スルマテハ現今ノ編制及事務章程ヲ守保スヘシ

第八十九條　施政官ト裁判官トノ權限牴觸ノ總論ハ覆審院ノ裁判役並ニ國議院ノ議官ヲ以テ編制シタル常外裁判所一箇所ニ於テ之ヲ裁斷スヘシ但覆審院及國議院ハ三箇年目ニ己ノ院中ヨリ其裁判所ヘ勤ヘキ官員ヲ撰任スヘキ者ニシテ雙方同數ノ官員ヲ任スヘシ○裁判事務總裁右裁判所ノ長タルヘシ

第九十條　計算總檢査院ヨリ己ノ職務ニ歸セサル處分ヲ爲シ或ハ己ノ權外ノ處分ヲ爲シタルニヨリ其處分ニ對シテ爲シタル處ノ控訴ハ前條ニ記シタル權限牴觸ノ總論裁判所ニ之ヲ出スヘシ

第九十一條　大審院一箇所ヲ設ケ右ハ民選議院ヨリ共和政治統領

或ハ諸卿ニ對シテ爲シタル訴ヘヲ審判スヘシ且其審判ニ對シテ控訴ヲ爲スヲ得ス又覆審院ヘ此審判ヲ訴フルヲ得ス尙國家內外ノ安寧ニ對シ謀叛ヲ爲シ或ハ徒黨ヲ爲シタル人ヲ民選議院ヨリ大審院ヘ送ルトキハ大審院之ヲ裁判スヘシ○第六十八條ニ記シタル場合ノ外ハ大審院及民選議院ノ布令ニヨリ召集セサレハ集會スヘカラス但召集ノ布令ニ於テ大審院集會スヘキ處ノ市衙ヲ定ヘシ

第九十二條　大審院ハ裁判役五人及陪審三十六人ヲ以テ編制ス○毎年十一月始ノ十五日間ニ覆審院內密ノ投票ノ過半ヲ以テ大審院ノ爲メ己ノ員中裁判役五人並ニ裁判役二人ヲ任スヘシ右五人ノ裁判役中裁判長一人ヲ任スヘシ○大審院ニ於テ檢事役ヲ勤ヘキ裁判官ハ共和政治ノ統領之ヲ任スヘシ尤共和政治ノ統領並ニ諸卿ヲ民選議院ヨリ訴フルノ場合ニ於テハ民選議院之ヲ任スヘシ○陪審三十六人並ニ代役四人アルヘキ者ニシテ右ハ州民議院ノ職員中ヨリ之ヲ撰任スヘシ但代議者ハ之ヲ勤ヘカラス

第九十三條　民選議院ニ於テ大審院召集ノ布令ヲ出シタルトキ並ニ第六十八條ニ定タル場合ニ於テハ大審院ノ長或ハ大審院ノ裁判役一人ノ請求ニヨリ州ノ控訴裁判所ノ長或ハ控訴裁判所アラサルトキハ州ノ裁判管轄ニアル首府ノ初審裁判所ノ長公然ノ會席ニテ州民議院ノ議員一名ヲ探闔ヲ以テ撰フヘシ但右ハ陪審ニ任スルナリ

第九十四條　裁判ノ日限ニ至リ若シ陪審六十員出席セサレハ大審院ノ長大審院集會スル所ノ州民議院ノ議員ニ陪審副役幾人ヲ探闔シ陪審ノ不足ニ充スヘシ

第九十五條　陪審員中不參ノ者ハ其差支ヘノ相當ナル次第ヲ述ブ

ル能ハザルキハ五百「フラン」貨幣ヨリ一萬「フラン」マテノ罰金ヲ言渡シ且五年以内ノ時間中政權ノ剝奪ヲ言渡スヘシ

第九十六條　大審院ニ於テ平常ノ裁判ニ付テ如シ被告人幷ニ檢事役ハ陪審員中己ノ信用セサル處ノ員ノ裁判ヲ辭スルヿノ權ヲ行フヲ得ヘシ

第九十七條　陪審ヨリ人ニ對シテ爲ス所ノ有罪決定ハ陪審員ノ三分ニ之ヲ認メサレハ爲ヘカラス

第九十八條　諸卿責ニ任スヘキ處ノ總テノ場合ニ於テハ其訴ヘラレタル卿ノ犯罪ニヨリテ出タル損害償金ノ願ヲ裁斷セシムルヿハ民選議院事宜ニヨリテ其訴ヘラレタル卿ヲ大審院或ハ通常裁判所ヘ送ルヲ得ヘシ

第九十九條　民選議院幷ニ共和政治統領ハ孰レノ場合ニ於テモ孰レノ官員ノ處分及吟味ヲ國議院ヘ任スルヲ得ヘシト雖モ共和政治統領ノ處分ハ此例ニ非ラス但其節國議院ヨリ爲スヘキ所ノ吟味ノ屆書ヲ公告スヘシ

第百條　共和政治統領ハ大審院ノミ之ヲ裁判スルヲ得ヘシ且第六十八條ニ定タル場合ノ外ハ民選議院ヨリ爲シタル處ノ原告ニ基キテノミ統領ヲ訴フルヲ得ヘキ者ニシテ法律ニ定タル重輕罪ニノミ此原告ヲ爲スヲ得ヘシ

第百十四條　裁判官ヲ設立スル爲メノ法律ニ於テ新裁判所ヲ編制スヘキ方法ヲ定ムヘシ

○佛蘭西　一千八百五十一年十二月二十日及二十一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易拿崙保那巴ニ授ケタル威權ヲ以テ制定シタル憲法

第七條　裁判ハ大統領ノ名ヲ以テ之ヲ行フ

第五十四條　大審院ハ共和政治ノ大統領及ヒ國ノ內部外部ノ安寧ニ對シ重罪、暴行、陰謀ノ罪ヲ犯シタル訴ヲ受ケ呼出サレタル者ヲ審判ス可シ但シ被告人大審院ノ言渡ニ服セスト雖ヒ之ヲ控訴スルヿヲ許サス又其言渡ノ取消ヲ覆審院ニ訴フルヿヲ許サス

共和政治ノ大統領ノ命令アルニ非サレハ大審院ニ訴出スルヿヲ得ス

第五十五條　大審院ヲ建設スル法則ハ元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム

○英吉利

卷一第十七條　凡民法裁判所（コンモンプリー）ハ朕ノ朝ニ付テ動搖セス必ス一處ヲ定メ常ニ之ヲ設置スヘシ○民法裁判所ハ即今英國最上裁判所ノ一ナリ英ノ國法ニテ帝ハ眞理淵源（フハウンテンオフジヨスティス）ト云故ニ裁判所ハ常ニ帝ノ至ル所ニ隨フ然ルニ英王一宮ニ駐輦スルヲ好マス東西南北行輦常ナシ裁判所從フテ轉徙ス國民之ヲ苦ム今其處ヲ確定ス

第十八條　凡不動產訴訟法ノ三種曰「ノベルテシーシン」曰「モートダンセスター」曰「ダレンブレセントメント」等ノ糾問ハ必ス其訴訟ノ起リシ所ニ於テ下ニ掲ル方法ヲ以テ裁判ヲ爲ヘシ朕審判官二員ニ命シテ一箇年四回各州ヲ巡廻セシメ各州ニ於テ其州中ノ大夫諸士四名ヲ人民ヨリ撰擧セシメ右審判官ト共ニ其期日ニ幷ニ其所ヲ定ヘ裁判所ヲ開クヘシ○不動產訴訟法ノ三種曰「ノベルデシーシン」トハ新ニ領地ヲ得ル權利ヲ裁判スルヒノ名「モートダンセスター」トハ死シタル先祖ノ權利ニ因リ領地ヲ得ントスルヒノ名

曰「ダレンプレセントメント」トハ寺刹ノ領地ナ人ニ與フルトキノ名
皆昔ノ「コンシテ今ハナシ故ニ之ヲ略ス○審判官二人諸國ヲ巡廻
ス是則巡廻裁判ニテ今已ニ動スヘカラサルノ國法ナリ

第十九條　若シ其期日ニ當リ其州裁判ヲ開クヿ能ハサレハ其州ノ
大夫諸士數名ヲ遣シ置キ之ヲシテ期日ニ方リ裁判ヲ開キ訴訟ノ
大小ニ由テ各其適宜審判ヲ爲サシムヘシ

第二十條　凡真民ハ小過ニ因テ匪法ノ罰金ヲ徵收セラレサルヘシ
唯其輕重ニ因テ之ヲ定メ及大罪ハ其罪惡ノ多少ニ因リ罰金ヲ徵
收セラルヘシ但必ス其人糊口ノ料及商人ナラハ其商賈物品等ハ
其人ニ殘シ置ヘシ

一　凡奴隸若シ朕カ權內ニ歸スルトキハ亦同シク罰金ヲ徵收セ
ラルヘシ但其耕作農具ヲ殘シ置クヘシ

一　此罰金ハ皆必ス其近鄰善人ノ誓詞証據アルニ非レハ決シ
テ徵收スヘカラス

第二十一條　凡侯伯ハ其同列ノ證據人アルニ非レハ罰金ヲ徵收セ
ラレサルヘシ且必ス其罪ノ大小輕重ニ因リ其數ヲ定メ決シテ過
度ノ金ヲ要セラレサルヘシ

第二十二條　凡聖會ノ僧侶ハ其俗有ノ領地ニ因リ罰金ヲ徵收セラ
ルヽトキハ必ス前條ノ法ニ由リ決シテ聖會領地ニ適スル罰金ニ非
ルヘシ○聖會領地ニ適スル罰金ハ重ク俗有領地ハ輕ク當時已ニ
僧侶ノ跋扈ヲ厭ヒ之ヲ壓制スルノ端ヲ看ニ足ル

第二十四條　凡州官保長驗屍官及縣官ハ民法裁判所ヲ開クヘカラ
ス○有司横行ノ弊害ヲ矯ル也

第二十六條　凡土地ヲ有シタル俗人朕ニ負債アリテ死シ州官或ハ

縣官其債ヲ督催ノ爲ニ呼出シ狀ヲ所持シタル者ハ其領地ニ在ル諸物品ヲ其負債ニ適スルダケヲ記載スルヿヲ得ヘシ但必ス其所ノ善人ノ前ニ於テ之ヲ爲ヘシ

一　朕カ債ヲ悉ク償却スルマテハ一品ニテモ他ヘ動スヘカラス其餘ハ悉ク死人ノ受托者ニ渡シ之ヲシテ其遺書ノ通リ處分セシムヘシ

一　若シ死人朕ニ負債ナクンハ其什物ハ其妻子法通リノ遺物ヲ除クノ外ハ悉ク死人(受托者)ニ渡スヘシ

第二十七條　凡良民死シ遺書ナキトキハ其什物家具ハ其債主ヘ悉ク償却ノ餘ハ聖會ノ監督ニ由リ死人ノ最近キ親族之ヲ處分スヘシ

第二十八條　凡保長又縣官ハ必ス現價ヲ拂ヒ先ツ賣主ノ許可ヲ得ルニ非レハ人ノ五穀又物品ヲ買取ルヘカラス

第三十六條　凡死傷人アルトキ驗視官ヲ派出スルニ付其償金ヲ要スヘカラス必ス無稅ニテ之ヲ派出シ決シテ之ヲ否ムヘカラス

第三十八條　凡罪ヲ訴ル者一人ニテ人ヲ水火鬪戰ノ試驗ニ入ルヘカラス但此試驗ハ先ツ證據人其實ヲ顯ハシタル後ナルヘシ○水火鬪戰ノ試驗トハ昔シ犯罪糾問ノトキ被告人其罪ニ服セス其眞僞分明ナラサルトキハ入水或ハ熱湯ニ手ヲ入レ或ハ火鐵ヲ握リ或ハ兩人決戰シ其害ヲ逃ルヽ者ハ罪ナシトス之ヲ英語ニテ「ナーデール」ト云

第四十條　朕決シテ人ノ權利或ハ其直理裁判(ショスチース)ヲ賣リ又之ヲ否ミ又之ヲ淹滯スヘカラス○昔ハ裁判ヲ賣ルヿアリ

第四十三條　凡皇帝ノ森林(フヲレスト)外ニ住居スル者ハ尋常ノ呼出狀ヲ以テ森林裁判官(ショスチースフヲレスト)ノ前ヘ呼出サルヘカラス只森林ノ法ヲ犯シタル者ハ

其原告人確乎タル法通リノ證據ヲ以テ訴出タルトキ又此犯罪ニ由テ已ニ捕縛セラレタル者ノ保管人等ハ此限ニ在ラス○昔ハ帝ノ森林ニ多ク禽獸ヲ放チ帝ノ遊獵ニ備フ嚴禁アリテ若シ其獸ヲ殺ス者ハ死ス其餘數條ノ苛法アリ人民甚之ヲ苦シム

第四十六條　凡侯伯寺庵ヲ建立シ或ハ寺庵ノ住職(アトバウソン)ヲ命スルノ權ノ免許ヲ得タル者或ハ古來之ヲ有スル者等ハ其寺庵無住ノ間ハ之ヲ保管スルノ權利アルヘシ○英法ニテ初メ寺庵ヲ建立シタル者ハ其住職ヲ命スルノ權利アリテ他ノ家財ト共ニ子孫ニ傳フ之ヲ「アドバウソン」ト云

第五十二條　若シ法律ニ因ラス同列ノ裁判ニ非スシテ人ノ土地城邸ヲ視奪スルヿアレハ直ニ之ヲ其舊主ニ還付スヘシ若シ此等ノ事件ニ付爭論起ラハ下ニ命スル所ノ二十五人ノ侯伯ヲシテ之ヲ評定セシムヘシ此二十五侯ハ國家治安ヲ保守セン爲ニ兼テ撰任スル者ナリ且ツ先帝朕皇考[ヘヌリー]及皇兄[リッチヤールト]ノ時法律ニ由ラス同列ノ裁判ヲ經スシテ視奪シタル土地現在朕或餘人之ヲ占有シ輙ク動スヘカラサルノ保證(ガランチー)アル者ハ十字軍(クロセート)歸陣ノ後ニ之ヲ評定スヘシ尤十字軍以前ニ起シ訴訟糾問等ハ此限ニ非ス朕羈旅ヨリ歸リ直ニ之ヲ審理スヘシ○昔シ耶蘇誕生ノ土地土耳格ニ奪ハル耶蘇宗ノ人大ニ之ヲ憤リ大軍ヲ起シ之ヲ復セントス此兵卒皆十字架ヲ肩胸ノ間ニ懸ケ以テ標ト爲ス世之ヲ稱シテ十字軍ト云蓋シ耶蘇所刑ノ苦ヲ記憶スルナリ

第五十四條　凡婦人ノ告訴ニ據テ人ヲ捕縛スヘカラス其夫ノ横死ニ係ル者ハ此限ニ非ラス

卷四第一條　凡州監獄自餘ノ官吏等其保管スル囚人ノ爲ニ出シタ

ル出獄票ヲ齎シ來ル者アリ而シテ之ヲ其主任又其次官代人屬吏等ニ渡ストキハ其官吏又代人必ス其囚人ヲ大塁官又嘗テ其票ヲ宣行シタル審判官裁判所ニ拘引シテ糾問ノトキ其囚人ノ繫獄セラレタキ所以ノ憑証ヲ以テ答フヘシ但囚人廿里凡我八里以内ナラハ三日ノ内廿里以外百里以内ナラハ十日ノ内百里以外ナラハ二十日ノ内ニ必ス之ヲ其裁判所ニ拘引スヘシ○右ノ票ヲ齎シ來ル者ハ必ス其官吏ニ先ツ其旅費ヲ渡シ且若シ其囚人繫獄セラルヘキ憑証アリテ再ヒ其獄ニ還付セラルヽトキハ必ス其費用ヲ資辨シ及途中ニテ逃亡等ノ過失無キ旨等自分之ヲ保結スヘシ此費用ノ高ハ嘗テ票ヲ出シタル審判官之ヲ定メ其背後ニ記スヘシ但一里毎ニ十二「ペンス」ヲ過クヘカラス○叛逆重罪等ニテ繫獄セラレ初ヨリ其收監牌ニ罪狀明瞭ナル者ハ此限ニ非ラス

第二條　凡州官監獄官吏等ヲシテ此票ノ重キヲ知ラシメン爲ニ出獄票ニハ必ス之ヲ宣行シタル官員ノ姓名ヲ記シ且左ノ如ク記載スヘシ

皇帝「チヤールス」二世三十一年ノ定書ニ據リ

若シ裁判所ノ休暇中ニ繫獄セラレタル者ハ自分又代人之ヲ大塁官又便宜ノ審判官ニ控訴スルノ權利アルヘシ而シテ大塁官又審判官右ノ控訴人ヨリ出獄票ヲ請フトキハ先ツ其收監牌ノ寫ヲ檢閲シ然ル後出獄票ヲ付與シ自ラ管スル裁判所ノ印章ヲ以テ囚人ノ保管人ニ命令シテ直ニ自分ノ前ニ囚人ヲ連レ來ラシムヘシ○若シ監獄者其收監牌ノ寫シヲ付與スルヲ否ムトキハ控訴人ヨリ其得ルヿ能ハサルノ誓詞ヲ得テ而後前文ノ手續ヲ爲スヘシ○保管人ハ此票ヲ得ルトキ前條云所ノ定日内ニ必ス囚人ヲ大塁官又審判

官ニ拘引シ其糾問ノ時其繫獄セラレタル所以ノ憑証ヲ以テ答フヘシ○此時大審官又審判官ハ先ツ囚人ヲシテ次ノ裁判時季(タイム)ニ至リ刑法裁判所又巡廻裁判所等當ニ其裁判セラルヘキ所ニ出願セシムヘキ爲ニ其保證人ヲシテ囚人相當ノ保結金ヲ以テ之ヲ請合ハシメ二日内ニ囚人ヲ釋放スヘシ但囚人ノ繫獄セラレタルハ刑法裁判ノ權利アル所ニ於テ國法ノ糾問ヲ經テ其當然ノ牌票アルカ又審判官ヨリ出タル牌票アリテ國法ニ於テ保領釋放スヘカラサル罪狀明瞭ナル者等ハ此限ニ非ラス

第二條　凡囚人其繫獄セラレタル日ヨリ二周時季(クヲムス)凡六箇月ノ間出獄票ヲ願出サル者ハ其後之ヲ願ヒ出ルトモ休暇中ニハ決シテ之ヲ許與スヘカラス

第四條　凡州官監獄自餘ノ官吏囚人ヲ保管スル者其囚人ニ付前條ノ票ヲ得而シテ後前條ノ定日内ニ囚人ヲ其命令スル所ニ拘引セサル者幷ニ囚人又代人ヨリ收監牌ノ寫シヲ請フヲ之ヲ付與セサル者等ハ其初犯ニハ金百「ポンド」(貨幣ノ名)再犯ニハ二百「ポンド」ヲ徵收シ寃ヲ蒙ル者ニ付與スヘシ且再犯ニハ其本職ヲ免スヘシ○保管人前文ノ如キ犯罪アルトキハ寃罪ノ者之ヲ上等裁判所ニ出訴シ其償金ヲ要收スルノ權利アリ

第五條　凡一度出獄票ニ由リ釋放セラレタル者ヲ其初發ノ犯罪ニ托シ再度繫獄スル者幷ニ之ヲ知リシ、其捕縛ヲ助ル者等ハ其寃ヲ受タル者ニ五百「ポンド」ノ罰金ヲ出ヘシ尤之ヲ繫獄シタルニ付曖昧タル收監牌アリト雖モ此罰金ヲ逃ル、能ハス○但初メ之ヲ釋放シタルトキ再ヒ出頭ヲ命シタル裁判所又其當ニ裁判セラルヘキ裁判所ニ於テ尋常國法ノ裁判ヲ受ケ繫獄セラレタル者ハ此限

ニ非ス

第八條　凡犯罪ノ告ヲ以テ繫獄セラレタル囚人ハ出獄票アルカ又別ニ法例ノアル官牌アルニ非レハ決シテ之ヲ他ノ獄ニ轉徙スヘカラス○官吏若シ此法ニ背キ囚人ヲ他ノ獄ニ轉徙スルノ命令牌（ウワラント）ヲ出シ又之ニ檢印スル者幷ニ此命令牌ニ從ヒ之ヲ實行ニ施ス者等ハ罰金ヲ徵收セラルヽ都テ前條ノ如ク初犯再犯各差アリ但巡廻審判官又州郡審判官ノ命令ヲ以テ徵役場又改過場（ハウスオフコレクション）ニ送付シ或ハ其糾問便宜ノ爲メ又傳染病火災ノ件（ジョスティシースオフピース）同州中甲獄ヨリ乙獄ニ移ス等ハ此限ニ非ラス

第九條　凡囚人タル者ハ前條ニ揭ケシ如ク大璽官裁判所租稅裁判所（コートオフチャンセラー）（コートオフエキスチエカー）刑法裁判所民法裁判所便宜出獄票ヲ要請スルノ權利アリ○而シテ囚人前條ニ云所ノ規則ヲ以テ之ヲ要請スト雖モ大璽官又審判官之ヲ許與セサルトキハ毎犯五百（ポンド）ノ罰金ヲ徵收シ寃ヲ蒙ル者ニ付與スヘシ

第十條　凡英國中（ウエルス）中（ベルウヤキ）邑及（ジヤセー、ガンセー）ノ二島ハ假令反對ノ古法アリトモ此定書ニテ定タル出獄票ノ通セサル所ナカルヘシ

第十一條　凡匪法海外ノ繫獄ヲ豫防セン爲ニ其法ヲ定ム左ノ如シ

一　凡英國中（ウエルス）中ニ住居スル此帝國ノ臣民ハ（スコットランド）又（イルランド）（ジヤセー）（ガンセー）島及其餘屬地他國ヲ問ハス海外ヘハ捕流監送セラルヘカラス若シ現今將來此如キ監送アラハ悉ク之ヲ匪法ノ收監ト見做シ寃ヲ受タル者僞作收監（フスルスインプリンメント）ノ法ヲ以テ訴訟ヲ起シ便宜ノ裁判所ニ出テ此ノ匪法ノ收監ヲ命令シタル人及之ヲ贊成シ施行シタル人等ヲ罪狀スルノ權利

アリ○此原告人ハ賠補銀(ダメジ)ノ外ニ其訴訟費ノ三倍ヲ要收スルノ權アリ且賠補銀ハ五百[ポンド]ヨリ少カルヘカラス○此裁判ハ決シテ特別免許(プリビレジス)等ノヿヲ以テ淹滯スヘカラス○此犯罪人ハ主從共後來信任高祿ノ官職タルヲ得ヘカラス其上[リツチヤールド]二世ノ時定シ[フレメニユアー]ノ刑ヲ蒙リ皇帝ノ恩典免宥ヲ受ルヿ能ハサルヘシ

第十三條　凡四人裁判所ニ於テ國法ニ由リ重罪ノ律ニ處斷セラレタル者海外ヘ徒流セラレンヿヲ願望スル者ハ其審判官考按ノ上之ヲ然リトスル者ハ海外ヘ徒流セラルヿヲ得ヘシ

第十五條　凡[スコツトランド]又[イルランド]其餘海外屬地ニ於テ死罪ヲ犯シタル者假令英國中ニ住居スルト雖モ之ヲ捕縛シ其犯罪ノ地ニ送致シ以テ之ヲ裁判スルヿ從前ノ如クナルヘシ

第十六條　凡此法律ヲ犯シタル者ハ其犯罪ノ時ヨリ二年以内ニ之ヲ出訴セラルヽニ非レハ之カ爲ニ糾問セラルヘカラス或ハ其ニ付キ障碍ヲ受ヘカラス但寃ヲ受タル者當時禁獄中ナラハ其死後又解放後二年以内ニ其訴訟ヲ起セハ尙之ヲ糾斷シ其罰金ヲ追徵スルヲ得ヘシ

第十七條　凡四人巡廻裁判ノ時其糾問ヲ逃避セシ爲ニ或ハ出獄票ヲ得ル者等ヲ豫防セン爲ニ其法ヲ定ムル左ノ如シ

一　凡州郡ニ於テ巡廻裁判ノ時限ヲ布告シタル後ハ其州ノ四人ハ出獄票ヲ以テ他ニ轉徙セラルヘカラス只此出獄票ヲ巡廻裁判所ニ齎ラシ來ルトキハ其審判官直ニ之ヲ處斷スヘシ

第十八條　凡巡廻裁判終リテ尙繫獄セラルヽ者ハ出獄票ヲ得ルノ權利アルヘシ

第二十條　從前數々小逆重罪等ノ疑ヲ以テ繫獄セラレタル者唯其疑罪ノ輕重ヲ以テ保領釋放セラルヘキヤ否ヲ定ム而シテ其輕重ハ四人ヲ捕縛セシメタル審判官又之ヲ糾問スル審判官等ノ裁斷ニ委任セリ故ニ今左ノ法ヲ定ム

一　凡小逆重罪ハ主從ヲ問ハス其告訴ヲ以テ繫獄セラレ未タ其實ヲ定スト雖ヒ其收監牌ニ其罪狀明瞭ナル者ハ從前ノ如ク出獄票ヲ以テ釋放スルヲ得ス

卷五第八　巴里門ノミ裁判スルノ權アル事件ヲ屬刑法裁判所（キングスベンチ）ニ於テ處斷シ幷ニ種々勝手次第ノ匪法ヲ用フル事

第九　近來陪審官ハ種々姦惡不適ノ人ヲ出シ就中叛逆人ヲ糾問スルトキニ當リ領地ナキ者ヲ以テ陪審官ト爲シ以テ國法ニ戾ル事

第十　犯罪ヲ以テ繫獄セラレタル者ノ保結（ベール）ノ爲ニ匪法ノ大金ヲ要シ以テ人民ノ自由ヲ保護セン爲ニ建テシ法モ亦書餅トナル事

第十一　匪法ノ保結金ヲ追取シ且匪法暴逆ノ刑ヲ行フ事

卷五第三　近來置カレシ宗旨僧侶全權裁判所並ニ類似ノモノハ皆違法ニシテ害難アリ

卷六　凡審判官ハ一旦之ニ任セラレタル者ハ犯罪惡行等アルカ又兩議院連署シテ之ヲ退ソト言ヒ出タル者等ニ非レハ之ヲ退免スヘカラス且其俸祿ハ常領アルヘシ

○獨逸

第七十四條　帝國ノ成立保全安寧及國憲ニ對セル諸般ノ未遂ノ罪

又口述書付出版繪圖等ヲ以テ上院及下院ヲ侵スノ罪又兩院ノ議員及帝國ノ上等下等ノ官吏等ハ其職務ノヿニ關シテ上ニ舉クル犯罪者ヲ聯盟各邦ニ於テ裁判シ及之ヲ罰スルヽ其之ヲ裁判シ及之ヲ罰スルノ方法ハ各國ニ於テ其兩院ノ議員ト上等下等ノ官吏ニ對シテ侵シタル罰ヲ聯盟各邦及其各邦ノ國憲ニ定ムル所ニ照準シテ同樣ノ法律ニ循フヘシ

第七十五條　第七十四條ニ記載スル所ノ獨逸帝國ニ對セル種々ノ未遂罪ハ聯盟各邦ニ於テノ未遂罪ト同樣ナルカヲ其各邦ノ法律ニ照準シ而シテ其罪大逆又謀反ニ適シタル罪ナラハ「リユベツタ」ニ在ル三箇所ノ「ハンゼスタツト」ノ最上等裁判所ノミニ於テ之ヲ裁判スヘシ○右最上等裁判所ノ其裁判權ト治罪權トニ關シタル種々ノ權限ハ帝國ノ法律ニ定タル方法ヲ以テ之ヲ決定スヘシ若シ帝國ノ法律ノ設アラサルハ聯盟各邦ノ裁判所ノ裁判權及治罪權ノヿハ從前用ヒサル規則ニ循フヘシ

第七十六條　聯盟各邦數箇國ノ爭論ハ私法ニ關セサルトキニハ通常ノ裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヿ能ハサル故ニ其爭論ニ關シタル一方ノ國ノ訴訟上ニテ上院之ヲ判決スヘシ○國憲ニ關シタル爭論ヲ判決スヘキ官吏ヲ定サル聯盟各邦ニ於テ其爭論アルトキハ之ニ關シタル一方ノ訴訟上ニ付テ上院ヘ訴ヘシトキ其上院ハ親シク之ヲ勸解スヘク或ハ之ヲ勸解スルヿ能ハサルトキハ上院ノ決定ヲ以テ之ヲ判決スヘシ

第七十七條　聯盟各邦ノ一國ニ於テ裁判ヲ爲スヲ肯セサルヿアリヲ法律ノ通常ノ方法ヲ以テ之ヲ勸解スルヿ能ハサルトキハ右ノ事ニ付テ其各邦ノ國憲及法律ニ循フテ之ヲ判決スヘキ眞正ノ訴ヲ

ルトキハ上院之ヲ受ヘシ而シテ裁判ヲ爲スヲ肯セサル各邦ノ政府ニ於テ其事ヲ裁判セシムヘシ

○普魯西

第八十六條　司法權ハ不羈ノ諸法衙ニ由リ普魯西全國凡一ノ大法院二十二ノ控訴院四十六ノ裁判所ヲ得商工裁判保安裁判猶其外ニ在リ　國王ノ名ヲ以テ之ヲ施行ス諸法衙ハ法章ヲ除クノ外他ノ權威ニ從フヿナシ故ニ不羈トス　○裁判ハ國王ノ名ヲ以テ宣告及決行ス中古ハ藩國之ヲ行フ者アリ教會之ヲ行フ者アリ今專ラ國王ノ名ヲ以テスレハ訟獄ノ權ヲ統一スルナリ

第八十七條　諸法官ハ國王ニ因リ或ハ國王ノ名ヲ以テ終身ヲ期シ撰任ス　國王ノ名ヲ以トハ司法執政王ニ代リ撰任スルヲ云　○諸法官ハ法章ニ定タル事故ノ爲ニ審判紀律裁判ヲ云下等裁判所ノ紀律ハ控訴院之ヲ掌リ控訴院ノ紀律ハ大法院之ヲ掌ルヲ受タルニ由ルヲ除クノ外官ヲ免シ及職外官トスルヿヲ得スラズシテ仍ホ俸給ノ半ヲ受ク　○審問中職外官ト爲シ審問中ニ假ニ其職ヲ停ムルヿヲ云及本人願ハサル轉乙裁判所ヨリ甲裁判所ニ轉スルヲ云本人ノ及老退ヲ命スノ轉所ヲ願ハサル者ハ其意ニ隨フ自便ヲ以テ轉所ヲ願ハサル者ハ仍ホ俸給ノ四分一以上ヲ受ル故ヲ以テ職ヲ辭スル者ハ紀律裁判ヲ以テ老退ヲ命スルハ其自ラ辭職セサル者ハ紀律裁判ヲ以テ老退ヲ命ス

法章ニ定タル事故ノ爲ニシ法章ニ定タル規程ニ從ヒ而シテ審判ニ由ルニ非レハ之ヲ行フヿヲ得ス但事務ノ爲ニ已ムヲ得サル轉所ハ出張檢視ノ類此例ニアラス

第八十八條　千八百五十六年四月三十日ノ法ニ於テ廢ス

第八十九條　諸法衙ノ構制ハ法章之ヲ定ム

第九十條　法ニ揭タル條規ニ從ヒ能力アリトスル者ニ非レハ法官ニ任スルヿヲ得ス法學三年試ヲ經ルヿ一年試ヲ經更ニ試業代言ヲ得但商工裁判官保安裁判官ハ此例ニアラス又一年大試ヲ經始テ法官ニ任スルヿ

第九十一條　商事工事ノ裁判所ハ其要用ナル地方毎ニ必ス法章ニ由テ建設スヘシ商事裁判所工事裁判所ヲ新設スルニ亦議院ノ決ヲ取ル○此裁判所ノ構制及權限官員ノ撰任職務ノ權利及期限ハ法章之ヲ定ム

第九十二條　全普魯西國ニ唯一ノ大法院ヲ置ク大法院伯耳靈府ニ在リ長官六人評事官四十九人○往時大法院二アリ其一伯耳靈ニ在リ其一「コロヌ」ニ在リ「コロヌ」ニ在ル者ハ以テ來因部諸州佛蘭西ノ民法ヲ用フル地方ヲ待ツ千八百十二年合シテ一トナス「コロヌ」舊法院ノ事務ハ唯伯耳靈大法院ノ一局之ヲ處行ス

第九十三條　民事刑事トナク法衙ノ訟庭ハ公行トス衆人公聽○內行事件男女ノ訟ノ爲ニハ公行ヲ停ムルヿヲ許ス公聽ヲ許サヽルヿヲ得廉耻ヲ保スルナリ

第九十四條　重罪ニ付テ被告人有罪ノ判斷ハ陪審ニ屬ス但議院ノ法章特例ヲ定ル者ハ此限ニアラス於テ逆罪ノ特置法院ニ○陪審ノ制ハ法章之ヲ定ム平人十二人ヲ抽撰シ以テ犯人ノ有罪若クハ無罪ヲ斷セシムル之ヲ陪審トス

第九十五條　逆罪及國ノ內外安寧ヲ害スルノ重罪ニ付テハ兩院ノ前可ト事後許可トヲ以テ特置法院ヲ命スルヿヲ得伯耳靈府ノ控訴院ヲ以テ特置法院トシ一院分テ二部トシ一部論告シテ一部審裁ス

第九十六條　諸法衙ト政部官地方官トノ權限ハ法章之ヲ定ム○諸法衙ト政部官トノ際ニ起ル所ノ權限ノ爭ヲ決スル爲ニ一ノ法院ヲ設ク權限裁判是ナリ參議院ノ上席人之カ長官トシ大法院法官數員政部官數員ヲ以テ之ニ充ツ以テ兩平ヲ持ス

第九十七條　文武官吏職權ノ姦弊ヲ以テ罪アリ即チ職務法衙ニ提喚スル約束ハ法章之ヲ定ム法衙ニ於テ職務罪ヲ治ルハ各種約束アリ法告訴ノ權目代ニ限リ其平民ニシテ私訴スル者ハ賦稅貨財事件ヲ除クノ外之ヲ本屬政官ニ訴フヘキノ類是ナリ此ヲ以テ司法官ノ行政官吏ヲ侵逼シ及平民私怨ヲ以テ公事ヲ支障スルヲ防クナリ但官然モ本屬長官ノ前可ヲ求ルヿヲ要セシ吏ノ私罪ハ一ニ平民ニ同シ

第百十六條　現存スル兩箇ノ大法院ハ之ヲ一ニ合スヘシ其構制ハ文武官吏ヲ提喚スルニ先ツ其官吏本屬長官ノ承認ヲ要ス今廢シテ用ヒス

別法之ヲ定ムヘシ

○澳地利

第五編第一條　凡國內ノ裁判ハ皇帝ノ名ヲ以テ決行ス上下等法院ノ處斷ハ皇帝ノ名ニ於テ行フ

第二條　法院ノ構制及權任ハ法律ヲ以テ定ヘシ○法律ニ定タル場合ヲ除クノ外審判ヲ行フカタメニ非常法衙ヲ設ルヿヲ得ス

第三條　軍兵法院ノ權任ハ別法之ヲ定ヘシ

第四條　警察條例ニ背キ及ヒ租稅ニ關スル犯罪ヲ審判スルニ任スル裁判權ハ法律ヲ以テ定ヘシ

第五條　判司ハ皇帝ノ名ヲ以テ終身其職ニ任シ轉移スヘカラス

第六條　判司ハ不羈獨立ナリ法律ニ揭タル場合ニ於テシ及公正ナル審判ノ故ニアラサレハ之ヲ免黜スルヿヲ得ス○法院ノ長官若クハ上等法院ノ命令ニ因ルニ非レハ判司ヲ停職スルヿヲ得ス但同事ニ訴事ヲ當該ノ判司ニ移スヿヲ要ス法律ニ定タル場合ニ於テシ且之ニ揭タル規程ニ準シ審判ニ由リ本人願ハサル轉所若クハ退老ヲ命スルモ亦之ニ同シ○此條規ハ法院構制ノ改革ニヨリ已ムヲ得サル轉所若クハ退老ニ準用スヘカラス

第七條　法ニ循ヒ公布シタル法律必行ノ力ノ有無ヲ論スルハ法院ノ權ニアラス然ヒ法院ハ法ニ適スル爭訟ノ斷按ノ當否ヲ審判スルヿヲ得

第八條　凡司法ノ官吏ハ建國法ヲ遵奉シ苟モ犯スナキヿヲ誓約スヘシ

第九條　成規ノ訴訟手續ヲ破リ職ヲ執ルヿ正シカラサル司法官ヲ

劾告スルヿヲ得但劾告ノ權ハ別法之ヲ定ヘシ

第十條　民事刑事ノ別ナク裁判ヲ任セラレタル判司ノ前ニ於テスル訴訟ハ言語ヲ以テシ及公行トス○何レノ場合ニ於テモ右ノ通規ニ拘ハラス特例ヲ用ユルヲ得ヘキヤハ法律ニ於テ之ヲ定ム○

第十一條　法律ニ由リ重刑ニ抵ツヘキ罪凡テ重輕國事犯若クハ著刻犯罪ハ陪審官（シュリー）其罪ヲ決ス

第十二條　帝國議會ノ代理スル王國及部屬ノタメニ「ビエンヌ」澳地利ノ京ニ大法院（トリビユナルシユプレーム）即チ帝國法院（クールドカツサシヨン）破毀法院各一ケ所ヲ設ク

第十四條　凡訴告ニ於テ司法上ノ事件ハ行政上ノ事件ト區別ス

第十五條　凡行政官既成ノ法律ニ因リ又嗣後制定スヘキ法律ニ因リ人民相互ノ訴告ヲ裁決スルノ權ヲ有スル場合ニ當リ此裁決ニ由リ權理ヲ侵サレタル一方ノモノハ司法上ノ普通手續ヲ以テ自由ニ相手方ノ者ニ對シ控訴スルヿヲ得○此場合ノ外ニ於テ行政官ノ裁決ニ由リ權理ヲ侵サレタル者ハ凡テ行政官ノ代理人ニ對シ行政裁判上廳ニ控訴シ公ニ言語ヲ以テ論辨スルヿヲ得○行政裁判上廳ニ於テ審理スヘキ場合及其設立幷ニ訴訟手續ハ別法之ヲ定ヘシ

第六篇第一條　帝國議會ノ代理スル王國及部屬ニ於テ權限抵觸（コンフリー）ノ訴及公權ノ訴件ヲ審斷スルカタメニ帝國法院一箇所ヲ設置ス

第二條　帝國法院ハ左ニ掲ル權限抵觸ノ訴ニ於テ終審ノ裁判ヲ行フ

第一　法律ニ由リ定タル場合ニ於テ其ノ訴ハ司法上ノ手續又行政上ノ手續ヲ以テ糾治スヘキカヲ知ルノ難問ニ關シ司法

官ト行政官トノ間ニ起リタル權限牴觸

第二　雙方ニテ一ノ行政訴件ヲ決裁スルノ權アリト求ルヰ州會ト太政官局トノ間ニ起リタル權限牴觸

第三　州官ノ監察及管理スヘキ事務ニ於テ數部ノ州政官ノ間ニ起リタル權限牴觸

第三條　帝國法院ハ又別ニ左ノ兩件ヲ裁斷ス

第一　帝國議會ノ全部ニ對シ其代理スル王國部屬及代理スル王國部屬ニ對シ帝國議會ノ全部ヨリ起シタル訴等ノ諸王國部屬中ノ一ヨリ他ノ王國部屬ニ對スル訴及通常ノ司法手續ニテ裁審スルヿ能ハサルヰ諸王國部屬中ノ一方ニ對シ邑鄉又人民ヨリ起シタル訴

第二　法律ニ由テ定タル行政上ノ手續ヲ以テ裁決セラレタルヰ建國法ニ因リ保固シタル政權ヲ破ルトシテ國民ヨリノ訴

第四條　帝國法院ハ某ノ訴件ハ該法院ノ權限內ニ在ルヤ否ヲ判決スル無二ノ判司ナリ凡帝國法院ノ裁判ハ控訴及通常ノ司法手續ヲ以テ上告スルヿヲ得ス○帝國法院ヨリ訴件ヲ普通判司又行政官ニ移シタルヰ該判司若クハ行政官ハ其權限外ヲ辭トシテ審判ヲ拒ムヿヲ得ス

第五條　帝國法院ハ維也納府ニ設置ス該法院ノ官吏ハ議長副議長各一名皇帝ノ命ヲ以テ終身官ニ任ス僚員十二名副員四名亦皇帝ノ命ヲ以テ終身官トナス但之ヲ撰擧スルノ方法ハ下院ノ被撰人中ヨリ僚員六名副員二名ヲ撰用ス○推薦ハ撰用スヘキ官員一名ニ對シ法律學ニ明カナル被撰人三名ヲ薦ムルヲ制トス

第六條　帝國法院ノ搆制訴訟手續及裁斷ノ決行ハ別法之ヲ定ヘシ

○米利堅

第一條第七節六　議員都テ「インピーチメント」紛問ノ事ヲ司ルヘキ爲ニ會スルトキハ各誓ヲ爲ヘシ而シテ合衆國ノ大統領其紛問ニ逢フトキハ司法總裁之ヲ掌ルヘシ總シテ其席ニ列スル議員三分ノ二協合スルニ非レハ何人ト雖モ之ヲ罰スヘカラス

第七節七　右紛問ノ裁判ハ官ヲ免シ及合衆國ノ位任職務等ヲ廢黜スルニ過クヘカラスト雖モ罪明白ナルトキハ其律ニ從ヒ之ヲ刑スルヿアリ

第十三節第六　合衆國証書幷ニ通貨ヲ贋造スルノ刑ヲ備ヘル事

第十三節第九　大法局ノ下小法局ヲ立ル事

第十三節第十　海賊及洋中ニテ犯ス死罪幷ニ萬國公法ニ背ク罪ヲ判ヲ之ヲ刑スル事

第三條第一節　合衆國執法ノ權ハ之ヲ一大法局幷ニ議員隨時定ル小法局ニ付シ而シテ大小法局判官行正シケレハ永ク其職ヲ保チ其勞ニ報酬ヲ受ケ在官中其俸增減アルヘカラス

第二節一　執法ノ權ハ此憲法合衆國法度及外國定約上ヨリ起ル法度律例ヨリ使節及他ノ公使領事官等ニ係ルヿニ及海軍局幷ニ海上律及外國ト合衆國若クハ二三州ノ間爭端ヲ開キ或ハ一州ト他州ノ人民又他州ノ人民ヨリ獲ル所ノ土地ヲ相爭フ同州ノ人民或ハ一州又其人民ノ間又外國或ハ其人民ノ間ニ起ル訴訟ヲ裁斷スルヿニ及フヘシ

第二節二　使節他ノ公使及領事官ニ係リ或ハ州間ノ爭論等ニ於テ

ハ都テ大法局其裁判ヲ掌リ前ニ記載シタル他ノ爭端ニ付テ其實ヲ擧ケ法ヲ斷スルニ於テハ設立スル法則ノ外悉ク小法局ニテ之ヲ司リ大法局ハ唯其決ヲ取ルノミ

第二節三　「インピーチメント」ヲ除キ他ノ諸罪糾問ハ都テ「ジユリー」ヲ用ヒ糾問ノ日撰擧ニ逢ヒ私ヲ捨テ公ニ乘ルヲ誓フ又罪ヲ犯ス所ノ地ニ於テ其人ヲ詰問スヘシト雖モ若シ其罪州內ニ起ラサレハ議院ニテ定ル處ニ於テ糾問スヘシ

第三節一　合衆國ノ逆罪ハ其政府ニ背キ戰ヲ興シ或ハ其敵ニ與シ又之ヲ助ケ或ハ衣食住ヲ給シテ之ヲ救フ等ナリ總シテ何人ト雖モ二人以上其罪跡ヲ確正シ或ハ裁判所ニ於テ自ラ其罪ヲ白狀スルニ非レハ敢テ逆罪ニ斷スヘカラス

第三節二　議院逆罪ヲ刑スルヿヲ議スルノ權アリト雖モ死後其人ヲ戮殺シ或ハ其財ヲ沒收スヘカラス

第四條第一節一　各州互ニ其布令記錄及裁判ノ處置等全ク之ヲ信用スヘク又議院宜ク一般ノ定則ヲ立テ其記錄及裁判ノ處置等ヲ確証スヘシ

第二節二　何州ニテモ逆罪死罪或ハ他ノ罪名ニ逢ヒ他州ニ遁レ去リ其州行政官ヨリ之ヲ乞ハヽ即チ之ヲ其遁ルヽ所ノ州ヨリ其罪ヲ掌ル所ノ州ニ渡スヘシ

補正第六條　庶罪糾問ノ日其罪ヲ問ハルヽ人罪ヲ犯シタル所ノ州郡ノ公平ナル「ジユリー」ニ因リ速ニ其穿鑿ヲ受ヘシ尤其罪狀ハ州郡ニテ法ニ因リ豫メ確知セスンハアルヘカラス且其責メラルヽ所ノ罪狀及其原因ヲ知リ己ノ爲ニ害アル証ヲ立ツル者ニ對決シ勉テ己ノ爲ニ利アル証ヲ立ル者ヲ求メ又己ヲ防ク爲ニ「コンサー」

裁判ノ非罪人ニ敎ヲノ助ヲ受ヘシ
授ケ助ヲ與フル人

第七條　通法（コモンロー）ノ訴訟ニ於テ互ニ相爭ヒ其價二十元ニ過キサル時ハ「ジユリー」ニ因テ穿鑿ヲ受ルノ權ヲ存ス可シ而シテ其「ジユリー」ニ由テ穿鑿セシヿヲ通法ノ定則ニ從テ之ヲ爲スニ非レハ合衆國何等ノ裁判局ト雖モ再ヒ穿鑿スヘカラス

第八條　過當ノ過料ヲ要シ又非常ノ罰金ヲ當テ或ハ過刻不用ノ嚴刑ヲ行フヘカラス

第十條　漫ニ合衆國執法ノ權ヲ牽强シ他州ノ人民或ハ外國ノ人民ニ因テ法度憲法ニ付發スル所ノ訴訟ヲ斷スルヿニ橫充スヘカラス

○白耳義

第九條　何等ノ刑モ法章ニ由ルニ非ソハ之ヲ設ケ及之ヲ科スルヿヲ得ス王命ハ刑ヲ設ルヿヲ得ス刑ヲ設ルハ必ス法章ニ因ル

第三十條　司法權ハ上下裁判所ニ由テ之ヲ行フ政府干冒スルヿヲ得ス

第九十二條　凡民權ニ係リタルノ爭訟ハ專ラ諸法衙ノ官理ニ屬ス下條代議士ヲ投撰スルノ爭ハ地方議會之ヲ決スルノ類之ヲ政權ノ訟トス本條之ニ對シテ云フ

第九十三條　凡政權ニ係リタルノ爭訟ハ法章ニ由テ定タル特例ヲ除クノ外諸法衙ノ管理ニ屬ス

第九十四條　一ノ法衙モ一ノ裁判權モ法章ニ依ルニ非レハ設立スルヿヲ得ス○何等ノ名義タリトモ非常審吏非常法衙ヲ設ルヿヲ得ス司法ノ權ヲ奪ヒ以テ私ヲ濟スカ爲ナリ

第九十五條　白耳義全國ノ爲ニ一ノ大審院ヲ置ク○大審院ハ事件ノ按據ヲ受理セスト雖聽斷規程ニ違フ者ト裁決法律ニ乖ク者但諸受理シ以テ法衙法官ノ失錯ヲ鑒正ス諸執政ノ職務罪ハ大執政ノ裁判ハ例ニ非ラス審院其事按ヲ推理ス

第九十六條　諸法衙ノ訟廷ハ公行トス衆人公聽但其世治若クハ內行ノ爲ニ害アルヘキ者ハ例ニ非ラスト許ス

國事犯兇徒聚衆ノ類ハ訟廷ノ公行以テ世治ヲ破ランヿヲ恐レ男女ノ訟ハ以テ其人ノ体面ヲ破ランヿヲ恐ル而シテ其時ニハ裁判ニ由テノ式ヲ用フ法衙ヨリ公行ヲ停ムルヿヲ宣告ス○國事犯及著刻犯抵國事ニ係ルニ係テハ陪審ノ合員十二人同意ナルヲ云フニ非レハ閉戸ヲ宣告スルヿヲ得ス閉戸ハ公行ヲ停ムルヿヲ謂

第九十七條　凡裁判ハ理由ヲ附ス此ノ如キ事理ニ由テ此ノ如ク判決スルヿヲ謂ナリ裁判宣告ノ文ハ必ス其理由ヲ揭ク

第九十八條　凡重罪及國事犯著刻犯ニハ陪審ヲ設ク國事犯著刻犯ハ輕罪ト雖ヒ亦陪審ヲ置ク

第九十九條　保安法官及諸裁判所始審裁判所ヲ云フノ法官ハ國王直ニ之ヲ任ス○控訴院ノ評事官即チ法官及始審裁判所ノ長官及副長官ハ上院及大審院ヨリ各進ムル所ノ二ノ薦名表ニ依リ數人ノ名ヲ薦メ國王ノ撰ヲ取ル之ヲ薦名表トス○一ハ評事官ノ爲ニシ一ハ裁判國王之ヲ任ス○此二ノ表トス長官ノ爲ニス故ニ二ノ薦名表トス所長官控訴院ノ評事官ト始審一ノ名表ニ載セタル撰士又它ノ名ニ於テ裁判長官ヲ撰フノトキ

表ニ載スルヿヲ得○凡薦名ハ宜任ヨリ少クトモ十五日前ニ公布ス○法院大審院控訴院ヲ云ハ法官中ヨリ其長官及副長官ヲ撰フヿヲ自ラ其長推撰ス

第百條　法官ハ終身ヲ以テ任ス○法官ハ審判ニ由ニ非レハ罪アリト審判ヲ受ケタルヲ云フ職ヲ免シ及職ヲ停ムルコト無シ職ヲ存シテ務ヲ行フ○公然新任人員アリテ新員アルヲ以テ遞上轉所ス而シテ本人許諾スルニ非レハ新員ハ之ヲ停職トス

ト云ヒ本人願ハサレハ亦轉所セス法官ノ轉所アルヿヲ得ス

第百二條　司法官ノ俸給ハ法章之ヲ定ム

第百三條　法官ハ政府ヨリ俸給アルノ職ヲ兼ヿヲ受ルヿヲ得ス但法章二官相兼ヿサルノ例ヲ特定スル者ヲ除クノ外ハ俸給ヲ受スシ

テ職ヲ兼スルヿヲ得法官兼議員タルヿヲ得ザルノ類二官相兼テサルノ定例トス

第百四條　白耳義全國ニ三ノ控訴院ヲ置ク○法章其管理ノ區分及建置ノ地ヲ定ム其下下等裁判所二十六ヲ置ク

第百五條　別法軍法司ノ構制及權任軍法官ノ權務及任期ヲ定ム○法章ニ定タル各地方ニ於テ商事裁判所ヲ置ク○法章商事裁判所ノ構制及權任及裁判官任命ノ法式及其任期ヲ定ム

第百六條　大審院ハ法章ニ定タル法式ニ從テ權限ノ爭ヲ決ス各裁判所權限ノ爭ヲ云

第百七條　各法院各裁判所ハ諸執政ノ指令及普通ノ條例各州ノ條例各邑ノ條例ニ於テ並ニ議院ノ議決ヲ經スシテ諸執其法章ニ合スル者ニ非レハ處行セス法官ハ法章ヲ處行スル者ニシテ行政官吏ノ指令ヲ處行スル者ニアラス

第百三十四條　法章ニ由テ揭定スルニ至ルマテ代議士院ハ執政ヲ論告スル爲ニ及大審院ハ其罪ヲ斷シ刑ヲ科シ之ヲ判決スル爲幷ニ專行ノ權ヲ有スヘシ他ノ專行ノ權トハ其所見ニ從ヒ專獨處行シテルヲ待テ佛ノ法ニ倣ヒ大臣犯罪ノ爲ニ特法院ヲ置キ特陪審ヲ設ントスルヲ云然ルニ刑法特ニ揭ケタル事件ニ非レハ罪ヲ科スルニ禁役ヲ越ユルヿヲ得ス上ハ臨時議ヲ待テ處行ス蓋シ特陪審ヲ設ンカタメナリ

第百三十五條　諸法院大審院ノ官吏ハ法章ニ由テ揭定スルニ至ルマテ現在スル所ニ依ル此法章ハ必ス議院第一會ノ間ニ議定スヘシ千八百三十二年八月即チ建國法公布ノ明年ニ於テ議定ス

第百三十六條　上條ト同時ノ議會ニ於テ又一方ヲ議シ大審院員初次ノ撰任ノ規程ヲ定ヘシ大審院創始ニ係ル故ニ初次ノ撰任ヲ要ス

第十七款　王室ノ特權タル裁判無上ノ權ハ之ヲ法律學ニ通曉シタル人物ニ委任スヘシ其人ハ國王宣命シ十二員以上十八員以下ノ人數ニ限リ之ヲ撰ニハ須ク學識アリ事ニ熟錬シテ誠實果シテ其職ニ愧ヲサルヤヲ鑑定スヘシ○此法官ハ司法大臣ノ名爵ヲ賜リ乃チ其人ヲ以テ政府ノ大法院ヲ成サシムヘシ此法官ノ人數ハ十二員ニ過クヘカラス但第八十七款第一章ニ掲ルカ如ク國王ト議院ト協議ノ上ニテ大法院ヲ分チテ諸局ト爲ストキニハ法官ノ員數モ其事務ノ分課ニ齊シク之ヲ改定スルヿアルヘシ

第十八款　訴訟ニ關係セル者裁判ヲ受タル上告ノ期限ヲ經過スルモ法律ニ於テ受用スヘキ權利ヲ請求スルトキハ大法院ノ職掌ヲ以テ國王ノ名ニ據リテ公知シ遲延ノ爲ニ訴訟ノ權ヲ奪ワルヽヿヲ宥免スヘシ

第十九款　司法官吏ヨリ國王ニ法律ノ眞意ノ講明ヲ請求スルヿアルニ當テ果シテ其按件ハ判斷ノ部ニ屬スルトキハ大法院ノ職掌ヲ以テ請求シタル意味ヲ講明スヘシ

第二十款　軍事裁判所ニ於テ判斷シタル按件ヲ國王ノ檢査ニ供スルトキハ戰時ニ非ルヨリハ之ヲ大法院ニ附シテ決斷セシムヘシ其爲ニ國王ハ特ニ高位武官二員ヲ撰ンテ此事ニ參預セシムヘシ此武官ハ他ノ法官同樣ニ其責ニ任シ特恩ヲ仰カスシテ大法院ニ出席シテ判斷ノ討論ニ參與スヘシ但法官ノ員數ハ八人ニ過クヘカラス○戰時ニ方テハ右樣ノ按件ヲ決定スルニ全ク軍律ニ依ルヘシ

第二十一款　國王ノ意ニ於テ大法院ヲ扶クルニ適當ナリト考フルトキハ其按件ノ關係ト決斷トニ就テハ二個ノ發言ヲ得ヘシ且法律ヲ解釋スルヿニ至テハ一議一論皆國王ニ奏聞シ而シテ國王ハ大

法院ノ議論ニ預ラサルヒト雖ヒ其發言ヲ計算セサルヘカラス

第二十二款　重大ナラサル按件ハ大法院ノ法官五員ニテ考檢シ決斷スヘシ五員ノ中四員同意スルヒハ四員ニテ決斷シテ妨ケナシトス然ヒ重大ノ按件ニ至リテハ必ス七員ノ列席ニ非レハ裁判ヲ爲スヘカラス但八員以上ニテ一按件ヲ吟味スヘカラス

第二十三款　凡テ大法院ノ決斷ハ國王ノ名ヲ以テ施行シ之ニ御諱ヲ署シ或ハ印璽ヲ鈐スヘシ

第二十四款　凡テ司法ノ按件ハ先ツ小法院ノ檢務課ニテ仕出シ大法院ニ報シテ其決斷ヲ仰クヘシ

第二十八款　王國ノ文官ニテ判事職ノ如キハ清淨眞敎ノ人物ノミヲ撰用スヘシト雖ヒ文藝貿易幷ニ醫術ノ學校ニ於テ敎授ノ職ニ任スルハ他敎ノ者ト雖ヒ敢テ妨ケナシ○各省ノ長官タル者ハ其所管ノ官吏ノ黜陟補缺等アルヒ之ヲ奏聞シテ裁置スヘシ

第百一款　若シ希望スル所ニ反シテ大法院ノ判事總体或ハ其内ノ一員又數員私ノ利害愛憎ニ依リ又其怠慢ニ依リテ正シク法律ヲ解明スルヿナク又事實ノ確証ヲ取ルヿナク判然公平ヲ失シテ權利ト道理トヲ顧ミス之カ爲ニ人民ノ性命一身ノ自由幷ニ名譽財産ヲ奪却シ又損害ニ到ルヿアルニ於テハ乃チ議院ノ大檢事ト王室ノ大檢事ト連合シ下款ニ掲ル所ノ法院ニ該犯人ヲ召出シテ糾彈シ王國ノ律ヲ以テ之ヲ懲罰スルノ權アルヘシ

第百二款　此法院ハ王國ノ大審院ト稱シテ前款ノ如キ按件ヲ審判スルヒニハ都府ストクトソ法院首局ノ長官之レカ長ト爲リ其他諸行政局ノ長官内閣大臣ノ筆頭四員都府守衛ノ總督都府碇泊艦隊ノ提督都府小法院首局ノ判事筆頭二員王國行政諸局官吏ノ筆

頭各一員裁判ノ席ニ列スヘシ若シ王室或ハ議院ノ檢事ノ職掌ニ於テ王國ノ大審院ニ總体ノ犯人及其中ノ一員ヲ召出シ糾彈スルトキハ都府小法院首局ノ長官即チ大審院ノ長タルヲ以テ其手ヲ經テ糾彈スヘキ犯人ノ召票ヲ發出スヘシ○小法院首局ノ長官ハ右檢事ノ通知ヲ得タル上ニテ大審院ヲ開ク處置ヲ爲シ召票ヲ發遣シ其外凡テ法律ヲ照シテ按件ヲ辨理スヘシ○若シ希望スル處ニ反シテ此官ノ怠慢ニ依リテ前文ノ處置ヲ爲サス或ハ前文ノ諸官吏大審院ニ出頭スルヿヲ否ムトキハ乃チ國法ヲ按シテ無故官職ヲ怠リシ罪ヲ以テ其人ヲ罰スヘシ○若シ大審院ニ出頭スヘキ官員ノ内法律ニ依リテ出席ヲ止ラレ又其缺席ヲ聞届クヘキ者アルトキハ十二員ノ出頭ヲ以テ之ヲ聞クニ足レリトス○若シ都府小法院首局ノ長官法律ニ依テ出席ヲ止ラレ又其缺席ヲ聞届クヘキトキハ其時在職セル他ノ長官ノ筆頭其代ト爲ルヘシ○糾彈ノヿ畢リ法律ヲ按シテ判斷畢ルトキニハ大審院ヨリ其按件ヲ公告スヘシ○誰何ニ拘ラス大審ニテ召捕シタル者ヲ赦免スルノ權利ヲ有スルヿナシ○罪犯赦免ノ權利ハ國王ニ付托スル處タリト雖トモ一ヒ刑罰ヲ受ケシ者ヲ官途ニ登庸スヘカラス

第百六欵　若シ政体課ニ於テ草按ヲ檢シタル上ニテ内閣大臣ノ内或ハ其奏者或ハ軍機ニ就キテ國王ノ謀議ニ參與シタル官員ノ所業判然ト憲法又現今行ル、處ノ國律ニ戻リ或ハ法律ニ背クヿヲ承諾シ或ハ怠慢シテ無法ノ擧ヲ諫爭セス或ハ其不義ヲ知ルト雖トモ故意ニ之ヲ隱シテ其擧ヲ贊成シ或ハ第三十八欵ノ條例ニ基キテ奏者國王非理ノ決議ニ姓名ヲ署スルヤ否ムヘキヿヲ怠慢シタルヿヲ見出スニ於テハ此課ノ職掌トシテ議院ノ檢事ニ通知シテ

右ノ犯人ヲ大審院ニ召シテ糾彈セシムヘシ但此裁判ニハ內閣大臣ヲ除キ其代ニ大法院ノ判事筆頭四名ヲ列席セシムヘシ○其他ノ手續ハ第百一款第百二款ニ揭ケシ如ク總テ大法院ノ判事ヲ糾彈スル例ニ從フヘシ○內閣大臣或ハ軍機ニ就キテ國王ノ謀議ニ參與シタル者本文條例ニ依リテ罪ヲ犯ストキハ大審院ニ於テ現今所行ノ律例ヲ照シ或ハ臨時ニ國王ト商議シ其責ニ相當シタル規則ニ基キテ之ヲ裁判スヘシ

○西班牙

第六十五條　民事刑事ニ於テ法律ヲ施行スルノ權ハ特ニ上下等裁判所ニ屬ス增補律例第一條參着然ルニ上下等裁判所ハ審判及審判ノ決行ヲ看守スルノ外他ノ職掌ヲ行フヲ得ス

第六十六條　上下等裁判所ノ數並ニ種類各裁判所ノ搆制權任其權任ヲ執行スヘキ方法及裁判官ニ屬スヘキ權理等ハ法律之ヲ定ム

第六十七條　刑事ノ裁判ハ法律ニ於テ定ル所ノ規程ニ循ヒ之ヲ公行スヘシ

第六十八條　凡裁判官ハ決行スヘキ審判ヲ以テスルノ外有期若クハ無期ノ時間其職ヲ視ハルヽヲナシ又タ司法官ノ決裁裁判所議長若クハ上等裁判所ノヲ以スルカ又國王命ヲ下シ且憑據ヲ帶ヒテ罪狀アル裁判官ヲ當該ノ裁判所ニ訴告スルトキノ外裁判官ノ職ヲ停止スルヲヲ得ス

第六十九條　凡裁判官法律ニ違犯スルヲアルトキハ各自其責ニ任ス

第七十條　審判ハ國王ノ名ヲ以テ之ヲ行フ

增補第十二條　國王大小裁判官ヲ免職シ其老退ヲ命シ及非職トナ

シテ其紀律ヲ正フスルヿヲ得ルノ時機及之ヲ行フノ規程等ハ法院ノ整理法國憲ニ於テ既ニ其基礎ヲ定タル制度ノ方法施行ヲニ規準シ國家ヲ整理經綸スルヿヲ旨トスル法律ヲ云依テ之ヲ定ヘシ

○瑞士

第五十三條　何人モ正當裁判官ヨリ阻隔セラルヽヿナシ是故ニ臨時裁判所ヲ設立スルヿヲ得ヘカラス

第五十四條　國事犯ノ爲ニ死刑ヲ言渡スヿヲ得ヘカラス

第五十五條　甲邦ヨリ乙邦ニ犯罪人ヲ解回スルヿハ聯邦ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス然ルニ國事犯及著刻犯ニ對シテハ其解回ヲ以テ必行スヘキ者トスルヿヲ得ス

第九十四條　聯邦裁判所一箇所ヲ置テ聯邦ノ按件ヲ判理ス○刑事ヲ治ムルニハ更ニ陪審官ヲ設ク

第九十五條　聯邦裁判所ハ官員十一名及法律ニ由リ員數ヲ定ル所ノ補官ヲ以テ成ル

第九十六條　聯邦裁判所ノ官員及補官ハ聯邦議會ヨリ撰擧シテ三歲間其職ニ任ス又國議會更撰ノ後毎ニ聯邦裁判所ノ全員ヲ更迭ス○三歲ニ滿タスシテ裁判所ノ官員缺クルトキハ聯邦議會ノ第一次會期ニ於テ之ヲ塡補シ以テ其任期ノ滿ルニ至ル

第九十七條　國議會ニ撰マルヘキ瑞士國人ハ皆聯邦裁判官ニ擧ケラルヽヿヲ得聯邦行政會及該行政會ノ命シタル官吏ハ裁判所ノ官職ニ兼任スルヿヲ得ス

第九十八條　裁判所ノ長及副長ハ該裁判所ノ僚員中ヨリ聯邦議會之ヲ命シテ各一年間其職ニ任ス

第九十九條　裁判所ノ官員ハ聯邦ノ金庫ヨリ償給ヲ受ク

第百條　裁判所ハ書記局ヲ設置シテ其官員ヲ命ス

第百一條　聯邦裁判所ハ民事裁判所トシテ左ノ件ヲ審理ス

第一　公權ニ關スル者ニ非スシテ列邦相互ノ間若クハ聯邦ト列邦トノ間ニ起リタル爭訟

第二　聯邦政府ト會シ又平民ノ間ニ起リタル爭訟但又平民ノ原告人トナリ聯邦ノ法律ニ定ムル所ノ重大ナル事件ニ限ル

第三　無籍人ニ關スル爭訟

右第一項ニ記載スル場合ニ於テハ聯邦行政會ヲ經由シテ裁判所ニ訴出ス若シ聯邦行政會ニ於テ其事ノ聯邦裁判所ノ所轄ニ屬スルヤ否ヤヲ確知セント決スルトキハ聯邦議會ニ於テ裁判權限ノ抵觸ヲ裁定ス

第百二條　聯邦裁判所ハ原被雙方相協フテ之ニ審判ヲ委托シ且爭論スル所ノ物價聯邦ノ法律ニ定ル金額ヲ大ニ踰ユルトキハ前條ニ記載スル所ヨリ外ノ訴訟ヲモ受理セサルヘカラス此場合ニ當リ訴訟入費ハ全ク原被雙方ヨリ辨償セシム

第百三條　聯邦裁判所ニ於テ刑事裁判所トシテ施行スル所ノ者ハ嗣後制定スル所ノ劾告重罪裁判所及破毀裁判ニ關スル聯邦ノ法律ニ由テ規定スヘシ

第百四條　重罪裁判所ハ事實ヲ斷決スル陪審官ト共ニ左ノ件々ヲ審理ス

甲　本人ヲ命シタル聯邦政官ヨリ刑事裁判所ニ訴ヘラレタル官吏ニ關スル罪

乙　聯邦ニ對シ謀叛スルノ罪聯邦政官ニ對シ背犯又暴行ノ罪

丙　萬公法ニ對スル重罪幷ニ輕罪

丁　聯邦ヲシテ兵ヲ以テ關與セシムルニ至リタル騷亂ヲ起シ若クハ其騷亂ニ由テ犯シタル國事犯

聯邦議會ハ右ニ記載スル重罪及輕罪ニ對シ何時ニテモ大赦又特赦ヲ與フルヿヲ得

第百五條　此外聯邦裁判所ハ此國憲ニ因リ保固シタル權理ノ侵害ニ付テ之ヲ審理ス但聯邦議會ヨリ該裁判所ニ該接件ヲ移サシ時ニ限ル

第百六條　第百一第百四第百五條ニ記載スル場合ノ外又聯邦ノ法律ニ由リ他ノ接件ヲ聯邦裁判所ノ權任ニ置クヿヲ得

第百七條　聯邦ノ法律ヲ以テ左ノ條件ヲ規定スヘシ

甲　聯邦檢事職ノ撑制

乙　聯邦裁判所ノ權任ニ置クヘキ輕罪及準用スヘキ刑法

丙　公行及言論スヘキ聯邦訴訟手續ノ法式

丁　訴訟入費ニ關スル事件

○葡萄牙

第百十八條　司法權ハ不羈獨立ニシテ法典（コード）ニ定ムル時機ニ際シ及之ニ定ムル規程ニ循ヒ民事並ニ刑事ヲ審理スル裁判官及陪審之ヲ執行スヘシ

第百十九條　陪審ハ訴件ヲ決判シ裁判官ニ法律ヲ擬準ス

第百二十條　司法（ジュジュドロア）ニ關シテ罪ヲ決セス故ニ法司ト名ク其員百四十二佛國ノ「ジュジュドフルミュール」アンスクンス初告裁判官（ジュジュドロア）ハ轉移スヘカラスニ任スニ當ル終身官然ルニ法律ニ定タル時機ニ際シ及之ニ定タル方法ニ循テ裁判官ヲ免黜スルヿヲ得ヘシ

第百二十一條　法司ヲ訴告スル者アルトキハ國王之ヲ聽キ仍ホ參議院ノ意見ヲ問フテ後之ヲ停職スルヲ得但該訴告ニ關スル書類ハ被告ノ法司ニ屬スル所ノ州裁判所ニ移シ法律ニ循ヒ以テ處行セシムヘシ

第百二十二條　被告ノ法司ハ裁判所ノ決按ニ因ルノ外其職ヲ剝奪セラルヽヿナカルヘシ

第百二十三條　凡法司及區裁判司等ハ擅權若クハ其職務服行ニヨリテ犯セル私行ノ責ニ任ス但此責任ハ定規法律（ロアーレーグルマンテール）ニ依リ實行スヘシ

第百二十四條　法司下等判司等誘惑收賊官（ペクユラン）金私用及枉歛ノ罪事アルトキハ人民ヨリ訴告スルヿアルヘシ但該訴告ハ法律ニ定タル訴訟手順ニ依據シ犯罪ノ日ヨリ滿一年內ニ被告人若クハ其他ノ人民之ヲ行フヿヲ得ヘシ

第百二十五條　國民便宜ノ爲ニ須要トナスヘキ裁判所即チ控訴ヲ王國ノ州內ニ設置シ以テ再審及終審ノ詞訟ヲ聽斷スヘシ

第百二十六條　刑事ニ於テハ證人ヲ推問シ其他總テ効告ノ後ニ係ル訴訟手續ノ件ハ公行スヘシ

第百二十七條　民事訴訟及民事ニ係ル審糾ニ於テ原被雙方ノ者ハ判者（人民自ヲ有德者ヲ撰ミテ裁判ヲ命スルヿヲ得ヘシ但原被人豫メ約定セシヿアルトキハ直ニ判者ノ裁斷ヲ決行シテ控訴セサルヘシ）ヲ請フ之ヲ判者ト名ク

第百二十八條　何レノ詞訟ト雖トモ既ニ勸解ヲ經由スルヿヲ憑據セサレハ之ヲ受理スヘカラス

第百二十九條　勸解ヲ行フカ爲ニ勸解判司（ジュジュトベー）ヲ置クヘシ但該判司ハ邑會ノ僚員ト在職ノ年限ヲ齊フシ且之ト同一ノ規定ニ循テ撰擧

スヘシ又勸解判司ノ職掌幷ニ所管裁判權ヲ行フ土地ノ境域ヲ云フハ法律ニ依テ規程スヘシ

第百三十條　王國ノ首府ニ於テハ他州ト同ク尋常裁判所ヲ設置スルノ外仍ホ大法院ト名ル裁判所ヲ置クヘシ但大法院ハ在職ノ年序ニ循ヒ州裁判所ヨリ撰拔シタル裁判官及法律學士ニシテ參議官ノ稱ヲ有スル者ヲ以テ構成ス○大法院ヲ新置スルニ際シテハ當ニ廢止スヘキ裁判所ノ僚員ヲ以テ大法院ノ官吏トスルヿヲ得ヘシ

第百三十一條　大法院ノ權任ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一　法律ニ定タル時機ニ際シ及之ニ定タル方法ニ循ヒ覆審ヲ許允シ若クハ否拒スル事

第二　大法院幷ニ州裁判所ノ法官及外國交際ノ官僚公使等其職事服行ニ於テ犯ス所ノ罪事及失錯ヲ審理スル事

第三　州裁判所相互ノ間ニ生シタル裁判所轄區抵觸ノ訴及其權限抵觸ノ訴ヲ受理スル事

○荷蘭

第百四十五條　凡裁判ハ全王國ニ於テ國王ノ名ヲ以テ決行ス

第百四十六條　民法商法刑法訴訟法治罪法及司法官ノ構制ハ全國ニ於テ同均トス○軍事裁判及護卿兵裁判モ亦法律ヲ以テ之ヲ定ム（ガルドシヒク）

第百四十八條　私有權及該權ヨリ生シタル權理負債其他凡民權ニ管スル訴訟ヲ審理スルハ特ニ司法權ニ屬ス○司法權ハ法律ニ定ル特例ヲ除キ亦政權ニ管スル爭訟ヲ審理ス

第百四十九條　司法權ハ法律ヲ以テ定タル判司特ニ之ヲ執行ス

第百五十一條　法律ニ定タル場合ヲ除キ何人ヲ論セス拿捕・理由ヲ掲示スル判司ノ命令ニ由ルニ非レハ囚捕スルヿヲ得ス○判司ノ命令ハ拿捕ノ件又務メテ急ニ囚捕セラレタル者ニ送致スヘシ○法律ハ判司ノ命令ノ規式及罪人ノ糾彈ニ從事スヘキ期限ヲ定ム

第百五十二條　特殊ノ時機ニ際シ官荷蘭國民ヲ拿捕セシメタル件ハ其拿捕ヲ命令シタル者ヨリ即時ニ其旨ヲ地方ノ判司ニ通知シ且三日內ニ囚者ヲ之ニ解送スヘシ○刑事裁判所ハ各其所管內ニ於テ前文ニ掲ケタル條則ノ確行ヲ監守スヘシ

第百五十六條　凡裁判ハ其理由ヲ說明シ訟庭ヲ開テ之ヲ宣告スヘシ刑事ノ裁判ハ其處斷ノ憑據スル法律ノ條目ヲ掲錄ス○訟庭ハ公行トス然ルニ國安及風紀ニ關スルニ由リ法律ヲ以テ定タル特例

ヲ除ク

第百五十七條　全王國ニ最上等裁判所一箇所ヲ設置シ荷蘭國大法院ト名ク該院ノ僚員ハ第百五十八條ニ循ヒ定タル應撰人姓名表ニ依リ國王之ヲ撰用ス

第百五十八條　大法院ハ缺員アルトキ之ヲ國會ノ下院ニ通知ス○國王ハ下院ヨリ奏呈スル五員ノ應撰人姓名表中ニ撰ミテ其缺員ヲ補ス○國王ハ大法院ノ僚員中ヨリ其議長ヲ撰任ス大檢事ノ撰用モ亦國王ノ權ニ屬ス

第百五十九條　大法院ハ國會ノ議員各省長官州長歐洲外ニ於ル荷蘭王國ノ番屬地若クハ所屬地ニ在テ州長ト同權ヲ有スル官吏參議院ノ僚員州ニ差遣スル國王ノ理事官等其職務ヲ執行スルニ當リ罪アル者ヲ裁審シ及國王若クハ下院ノ名ヲ以テ之ヲ糾治ス

第百六十條　前條ニ掲クルヨリ他ノ官吏其職務ヲ行フニ當リ罪ヲ犯セハ大法院ヲシテ之ヲ裁審スヘキヤ否ハ法律ヲ以テ指定ス

第百六十一條　國王若クハ王族ヲ被告トスル爭訟ハ大法院ニ出願ス然ルトキ普通判司ニ訴出スヘキ物權ノ爭訟（アクシオンレール）ハ此限ニ在ラス

第百六十二條　大法院ハ訴訟ノ擧行裁判及司法官ノ法律ヲ遵守スルヿヲ監察ス○大法院ハ法律ニ定タル例規ニ準シ法律ニ背キタル司法官ノ命令處分裁判等ヲ取消スヿヲ得

第百六十三條　大法院ノ僚員大檢事上等法院及初告裁判所ノ僚員ハ終身其官ニ任ス○前文ノ官吏及定期間在職スル其他ノ判司ハ法律ニ定タル場合ニ於テ裁判ニ由リ免黜スルヿヲ得又右官員ハ親ラ國王ニ退職ヲ請フヿヲ得

○丁抹

第六十八條「リグスレット」（第二十六條參看）ハ最上等裁判所ノ裁判官及上院ノ議員ノ同數ナル人員ヨリ成ル「リグスレット」ニ出席スヘキ上院ノ議員ハ該院ヨリ撰ハレ四年間其職務ヲ行フ最上等裁判所一切ノ裁判官某事件ニ關シタル評議及其審判ニ與カルヘキ時機ニ於テハ上院ヨリ「リグスレット」ニ出席ヲナスヘキノ議員ハ其出席ヲ免ス其出席ヲ免スヘキ議員ハ最後ニ撰擧セラレ或ハ寡數ノ投票ニ由テ撰擧セラレタル者ヲ以テス「リグスレット」ハ該官員中ヨリ其上席人ヲ撰任スルノ權ヲ有ス○「リグスレット」ニ於テ某事件ヲ審判スルニ當リ若シ上院ノ解散スルトキハ該院ヨリ撰擧セラレル裁判官ハ右事件ノ結局ニ至ルマテ其職務ヲ奉ス

第六十九條「リグスレット」ハ國王及下院ヨリ宰相ヲ告訴シタルトキ

審判スルノ權アリ第十四條參照國王ハ國ノ安寧ヲ害スル罪犯ト思考スルニ於テハ下院ノ承認ヲ得テ宰相ニ非サル者ヲ提喚スルヿヲ得

第七十條　司法權ヲ行フハ一ノ法律ニ依テ之ヲ定ム

第七十一條　一ノ法律ニ定タル規則ニ依リ司法ノヿハ行政ト區別ス

第七十二條　諸裁判所ハ官吏等ノ權限ヨリ生スル爭訟ヲ審判スルノ權ヲ有ス然ルニ右訴ヲ裁判所ニ爲シタル者ハ被告タル官吏ノ命令ニ從フヘキ義務ヲ解ルヘカラス屬官ヨリ長官ヲ訴ヘタル時依然其命令ヲ奉スヘキヲ謂フ

第七十三條　裁判官ノ權ヲ行フハ法律ニノミ循フ裁判官ハ裁判宣告ノ効ニ由ルニ非レハ免黜スルヿヲ得ス且諸裁判所ノ搆制ヲ變改スル時機ノ外裁判官ノ請求ニ由ラスシテ轉任ヲ命スルヿヲ得ス然ルトキハ滿六十五歲以上ニ至ルトキハ免官スルヿヲ得ルト雖ドモ尙其俸給ヲ與フ

第七十四條　公行ノ治罪及口上ノ法式ヲ用ユル治罪ハ成可ク急施シ且全國ノ司法ニ付キ之ヲ施スヘシト書取ノ治罪ヲ用フ刑法ニ關シタル事犯及國事犯ニ付テハ陪審ヲ用ユ

第八十條　總テ拿捕シタル者ハ廿四時間ニ裁判官ノ前ニ之ヲ出スヲ要ス拿捕シタル者ヲ直ニ放還スルヿ能ハサルトキハ裁判官ハ其理由ヲ明記シタル宣告狀ヲ以テ該犯ヲ禁錮ニ處スヘシ右宣告ハ成可ク迅速ヲ要シ遲クモ三日間ニ之ヲ行フ拿捕セラレタル者ヲ保証ヲ立テ放還スルヿヲ得ヘキ場合ニ於テハ裁判官ハ其保証ノ種類及其制限ヲ定ム○右宣告ヲ受タル者ノ求ニ因リ裁判官ノ宣告シタル事件ヲ遲滯ナク控訴裁判所ニ訴フルヿヲ得ヘシ○罰金及禁錮ノ刑ニ問フヘキ罪犯ハ拘留スルヿヲ得ス

○伊太利

第六十八條　凡裁判ハ國王ノ任シタル裁判官ニ由リ王名ヲ以テ宣告ス

第六十九條　郡裁判所ヲ除クノ外國王ノ任シタル裁判官ノ三年間在職シタル者ハ復轉免スヘカラス

第七十條　裁判所ハ上等下等ニ論ナク廢改スルヿヲ得ス○裁判所ノ搆制ハ法律ニ由ルニ非レハ變更スヘカラス

第七十一條　裁判官ハ管内ノ訟獄ヲ聽斷セスシテ之ヲ他ノ裁判所ニ移スヿヲ得ス○故ニ特別ナル裁判所及專務ノ員ヲ設ルヿヲ得ス

第七十二條　民事刑事トナク裁判所ノ訟庭ハ法律ニ依テ公行トス

○佛蘭西　一千七百九十一年

第二十九條　民選議院ヲ編制スル爲メ公權ヲ有スル國民ハ二年毎ニ都府及區(カントン)ニ集ルヘシ之ヲ撰立下會ト稱ス下會ハ法律ニ定タル官員ヨリ定期ノ前召集スル場合ノ外ハ三月第二ノ日曜日ニ必ス集ルヘシ

第三十四條　下會ハ其都府或ハ區ニ住居スル公權ヲ有スル國民ノ數ニ應シテ撰立人ヲ委任スヘシ但會席ニ出ルト否ラサルトヲ論セス公權ヲ有スル國民百五十一人ヨリ二百五十人迄アルニ於テハ撰立人二人ヲ委任スヘシ其他割合之ニ準ス

第三十六條　各州ヨリ委任サレタル撰立人ハ其州ニ割付タル數ノ代議者且預備トシテ其定數ノ三分ノ一ノ代議者ヲ撰任スル爲メ

集會スヘシ○撰立人ノ會議ハ掛リ官吏ヨリ別段召集スル場合ノ外ハ三月最後ノ日曜日ニ必ス集ルヘシ

第四十三條　下會及撰立人ノ會議ノ掌務ハ人ヲ撰立スルヿニ限ルヲ以テ其事終ラハ直ニ解散スヘシ又召集セラルヽ迄ハ再集スヘカラス但第二十九條及第三十六條ニ記シタル場合ニ於テハ格別ナリトス

第四十四條　公權ヲ有スル國民ト雖ヒ武器ヲ携フレハ會議ニ加ハリ投票スヘカラス

第四十五條　會議員ヨリ別段ノ賴ミナケレハ兵ハ集會所ニ入ル可カラス集會ニ暴行起リテ其上席人ノ命令アルニ於テハ即時ニ兵ハ入ル可シ

第四十六條　各郡ニ於テハ二年目ニ各區ノ公權ヲ有スル國民ノ連

名簿ヲ作ルヘシ且各區ノ連名簿ヲ下會ノ集合期限ノ二月前ニ布告掲示スヘシ○連名簿ニ記シタル國民ノ分限ヲ訟フルヿ或ハ自己ノ名ヲ無理ニ記セサルヿヲ訟フルハ裁判所ニ之ヲ爲シ裁判所ハ之ヲ簡略ニ裁判スヘシ其後ノ會議ノ集會ノ前裁判言渡ヲ以テ改正スルノ外ハ前ノ連名簿ハ下會後ノ集會ニ加入スル爲ニ用ユヘシ

第四十七條　撰立人ノ集會ハ其出ル者ノ分限及權ヲ見糺スルヲ得ヘシ但其集會ニテ爲セシ決定ハ民選議院ノ代議者ノ權ヲ見糺セシ節ノ吟味アルマテハ之ヲ假リニ行フヘシ

第四十八條　就レノ場合ニモ就レノ託辭ヲ以テ國王及國王ヨリ委任シタル就レノモノト雖ヒ會議ノ召集ノ正不正ト會議ノ法式撰任ノ體裁或ハ國民ノ政權ニ關スル諸事ニ參加スヘカラス尤右ハ法律ニ從テ國民ノ政權ニ關スル事件ヲ裁判所ヘ差出スヘキノ場合ニ於テ撿事ノ爲スヘキ勤ト抵觸スヘカラス

○佛蘭西　一千七百九十三年

第十一條　下會ハ六ケ月以上各區ニ住居セシ國民ヲ以テ編制スヘシ

第十二條　下會ハ投票スルノ權ヲ有スル人民ヲ以テ編制スルモノニシテ其ノ人數ハ二百人ヨリ少カラス六百人ヨリ多カラサルヘシ

第十三條　下會ノ長書記役及投票撿査人ヲ委任スレハ即チ下會ヲ編制シタルモノトス

第十四條　下會ノ取締ハ下會自ラ之ヲ爲スヘシ

第十五條　凡人ハ武器ヲ携ヘ下會ニ入ルヘカラス

第十六條　撰任ノ所業或ハ投票ニシテ或ハ存意ヲ高聲ニ述ルヲ以テ之ヲ爲ス

第十七條　凡下會ハ孰レノ場合ニ於テモ撰任ノ爲メ格段ノ法式ヲ定ムル能ハス

第十八條　投票ヲ以テ撰任セント思フト雖モ書ヲ知ラサルニ由テ投票スル能ハサル人ノ存意ハ投票檢査人之ヲ質問スヘシ

第十九條　法律ニ就テノ投票ハ可否ノ二字ヲ以テ述フ

第二十條　下會ノ存意ハ左ノ文式ヲ以テ公達ス○何所ノ下會トシテ集會スル國民ハ但幾人ニテ投票ノ何ノ過半ヲ以テ何事ヲ可トシ或ハ否トス

第三十二條　佛蘭西國民ハ各年ノ五月一日撰任ノ所業ノ爲メ下會ニ集ルヘシ

第三十三條　下會ニ投票スルノ權ヲ有スル人ノ出席ノ多少ヲ問ハス前條ノ撰任ノ所業ヲ爲スヘシ

第三十四條　下會ニ投票スルノ權ヲ有スル國民全數ノ五分ノ一ニテ定メタル期限ノ外非常ノ會議ヲ爲サンヿヲ願フトキハ下會ヲ集ムヘシ

第三十五條　前條ニ記シタル場合ニ於テハ非常ノ會議ヲ爲スヘキ所ノ邑官下會ヲ召集スヘシ

第三十六條　下會ニ投票スルノ權ヲ有スル國民全數ノ過半出席セサレハ非常下會ニ決議ノ權ナカルヘシ

第三十七條　下會ヲ編制スルノ國民ハ撰立人ヲ撰任スヘシ但下會ノ國民ハ出席スルトセサルトヲ論セス二百人ナレハ撰立人一人ヲ委任スヘシ三百一人ヨリ四百人ナレハ撰立人二人ヲ撰任スヘ

シ五百一人ヨリ六百人迄ナレハ三人ヲ撰任スヘシ

第三十八條　撰立會議ノ取締及撰任所業ノ手續キハ總テ下會ト同樣ナリ

○佛蘭西　一千七百九十五年

第十七條　下會ハ其區ニ住居シタル國民ヲ以テ編制ス但人ハ一年間住居スルニ於テハ區ニ住居スルモノトス又一年間區ニ在ラサル者ハ區ニ住居セサル者トス

第十八條　凡人ハ下會ニ代人ヲ差出スヘカラス且同事件ニ付數下會ニ於テ投票ヲナス能ハス

第十九條　各區宛少クモ下會一ケ所アルヘシ一區ニ於テ數下會アルキハ各下會ニ於テ四百五十人ヨリ九百人マテアルヘシ但右人數ハ即チ出席スルトセサルトヲ論セス都テ投票ヲ爲スノ權ヲ有スル國民ヲ云ナリ

第二十條　下會ハ年ノ最モ長スル者ヲ上席人トシテ假ニ編制スヘシ年ノ最モ少キモノハ書記役ヲ勤ムヘシ

第二十一條　下會ノ長ト書記役及投票檢査役三人ヲ委任セシニ於テハ下會ヲ編制シタルモノトス

第二十二條　投票ヲナスニ適スヘキ事件ニ付テ異論有キハ下會假ニ其論事ヲ定ムヘシ但下會ノ決定ヲ州ノ下等裁判所ヘ控訴スルヲ得ヘシ

第二十三條　前條ニ記シタル場合ノ外下會ノ爲セシ撰立所業ヲ可トスルヲハ民選議院自ラ之ヲ爲ヘシ

第二十四條　凡人ハ武器ヲ携ヘ下會ニ入ルヘカラス

第二十五條　下會ノ取締ハ下會自ラ之ヲ爲ヘシ

第二十六條　下會ノ集會ハ左ノ場合ニ於テアルヘシ

第一　建國法改正議院ヨリ差進メタル建國法改正ヲ承諾シ或ハ拒辭スル爲ナリ

第二　建國法ニ於テ下會ノ役目ニ歸スル人撰ヲナス爲ナリ

第二十七條　每年七月一日ニ至リ下會ニ集ルヘシ且場合ニヨリテ左ノ官員ノ委任ヲ爲ヘシ

第一　撰立議會ノ議員

第二　居間裁判役及「アッセッシール」役

第三　區ノ施政官吏及五十人以上ノ邑ニ於テノ邑官

第二十八條　前條ニ記シタル人撰終リシ後五十人以下ノ邑ニ於テ各邑官及邑官助役ヲ委任スル爲メ邑內議會ヲ爲ヘシ

第二十九條　下會或ハ邑ノ議會ヲ論セス其召集ノ目的トナス事件ノ外爲セシ事又憲法ニ定タル法式ニ背キテ爲セシ都テノ事効ナカルヘシ

第三十條　下會及邑ノ議會ハ憲法ニ於テ已レニ委托シタル撰任ノ所業ノ外就レノ撰任ヲ爲スヘカラス

第三十一條　凡選任ノ所業ハ秘密ノ投票ヲ以テ之ヲ爲ヘシ

第三十二條　就レノ人ヲ問ハス投票ヲ賣買セシ者ハ如シ法式ニ從テ之ヲ証明スルトキハ本人下會及邑ノ議會ニ出席スルヲ二十年間禁スヘシ且同期限中就レノ官職ニモ本人ヲ委任スヘカラス若シ人ハ其罪ヲ再犯セシトキハ此禁制ハ畢生間タルヘシ

第三十三條　凡下會ニ於テ選任スヘキ選立人ノ數ハ其下會ニ投票スルノ權ヲ有ス人二百人アルトキハ一人ヲ選立スルヲ得ヘシ但投

票ノ權ヲ有スル人ハ其下會ニ出席スルトセサルトヲ問ハス右人數ヲ計算スヘシ投票ノ權ヲ有スル人ハ三百一人ヨリ五百人マテ有スルニ於テハ撰立人二人ヲ撰任スヘシ投票ノ權ヲ有スル人五百一人ヨリ七百人マテアル片ハ撰立人三人ヲ撰任シ投票ノ權ヲ有スル人七百一人ヨリ九百人マテアルニ於テハ四人ヲ撰任スヘシ

第三十四條　撰立議會ノ議員ハ年々之ヲ撰任スヘシ且撰任シタルモノハ二年間ヲ過キシ上ナラサレハ再度撰任セラルヘカラス

第三十五條　孰レノ人モ滿二十五歲ニ至ラス且佛蘭西國民ノ權ヲ執行スルニ適當スヘキ諸件ノ外左ニ定タル件々ニ適セサレハ撰立人トナルヘカラス

一　六千人以上ノ邑ニ於テハ二百日分ノ傭賃ト均キ歲入ヲ生スヘキヿヲ評價シタル財產ヲ持チ或ハ百五十日分ノ傭賃ト均キ歲入ヲ生スヘキヿヲ評價シタル家屋ヲ借用シ或ハ二百日分ノ傭賃ト均キヿヲ評價シタル郊野ノ財產ヲ持ツヘシ

一　六千人以上ノ邑ニ於テハ百五十日分ノ傭賃ト均キ歲入ヲ生スヘキヿヲ評價シタル財產ヲ持チ或ハ右樣ナル財產ノ入額所得ノ權ヲ有スルヿ或ハ百日分ノ傭賃ト均キ歲入ヲ生スヘキヿヲ評價シタル家屋ヲ借用スルヿ或ハ百日分ノ傭賃ト均キ歲入ヲ生スヘキヿヲ評價シタル郊野ノ財產ヲ借用スヘシ

一　郊野ニ於テハ百五十日分ノ傭賃ト均キ歲入ヲ生スヘキヿヲ評價シタル財產ヲ持チ或ハ其入額所得ノ權ヲ有スルヿ或ハ二百日分ノ傭賃ト均キヿヲ評價シタル田產ノ代作人トナルヘシ

一　國民一ハ一箇ノ財產ヲ持チ或ハ其財產ノ入額ヲ所得トナス

ノ權ヲ有シ一ハ家ヲ借住シ或ハ田產ノ代作人ナルトキハ其撰任スヘキヤ否ヤヲ定ルニ撰任スヘキ爲メ要スル財產歲入ノ總高ニ至ルマテ其財產ノ歲入及田產ノ歲入ヲ合算スヘシ

第三十六條　各州ノ撰立議會ハ毎年ノ四月九日ニ集會スヘシ且十日ヲ過クヘカラスシテ下會席ニ總テ爲スヘキノ任選ヲ成就セサルヲ得ス但議會ハ其任選ノ所業ノ中已ノ集合ヲ延期スヘカラス且其所業終リシ上當然解放スヘシ

第三十七條　撰立議會ハ己レニ委托セタル任撰ノ所業ノ外就レノ事モ管スヘカラス又就レノ願書ヲ受取リ或ハ送付シ或ハ就レノ國民ノ願書或ハ總代ヲ受ケ或ハ送ルヘカラス

第三十八條　撰立議會ハ相互ノ往復ヲ爲ヘカラス

第三十九條　撰立議會ニ參加セシ就レノ國民モ撰立人ノ位名ヲ用ヒ或ハ己ト共ニ右議會ニ參加セシ他ノ國民ト集合シテ右ノ位名ヲ用ユヘカラス此箇條ヲ犯スヿハ總國民ノ保護ニ對メノ罪トス

第四十條　下會ニ管シタル前編ノ第十八條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條第二十五條第二十九條第三十條第三十一條及第三十二條ハ選立議會ニモ通シテ用ユヘシ

第四十一條　選立議會ヨリ場合ニヨリテ選任スヘキモノハ左ノ者ナリ

第一　民選議院ノ內所謂五百員議院ノ議員

第二　覆審裁判所ノ裁判役

第三　最上陪審

第四　州知事

第五　重輕罪裁判所長公ノ原告官及書記役

第六　民事訴訟裁判所ノ裁判役

第四十二條　國民ハ死去シ或ハ自己ノ願ヒニ依テ免職サレ或ハ政府ヨリ免黜サルヽニ於テハ其代トシテ選立議會ヨリ選任スル者ハ其ノ官員退役ノ節勤ムヘキ殘リ期限丈ケ撰任スヘシ

第四十三條　行政首官ヨリ各州ノ知事ノ側ニ出張セシムル名代ハ撰立議會ノ開席及ヒ閉席ヲ直ニ「シレクトワル、エグゼクチフ」ニ報知スヘシ此ヲ直ニ報知セサル名代ハ免黜スヘシ督理官ノ名代ハ選立議會ノ所業ヲ假リニ差留メ或ハ全ク廢止スル能ハス又其集會所ニ入ルヘカラスト雖ヒ各議席終シ後二十四時間ニ其商議ノ綱書ヲ視示セシムルノ權アリ且其議會ヨリ建國法ヲ犯スニ於テハ名代人之ヲ「シレクトワル」ニ報知セサルヲ得ス○就レノ場合ニ於テモ撰立議會ヲ任撰スル所業ヲ許可スルヿハ民選議院ノミ之ヲ決定ス

○佛蘭西　一千八百○二年

第一條　各治安裁判役ノ管轄地ニ付テ一區議會有ルヘシ（アッサンブレ、ド、カントン）

第二條　各郡ニ於イテ即チ各州副長ノ管轄ニ於イテ郡ノ撰立議會（ヘレクトワルデロンチスマン）一箇所有ルヘシ

第三條　各州ニ於テ州ノ撰立議會（コンシュ、ヘレクトワルドデパルトマン）一箇所アルヘシ

第四條　區ノ議會ハ都テ區ニ住居シ且郡ノ邑民連名書ニ記名シタル國民ヲ以テ編制ス○建國法ニ從テ邑民連名書變改スヘキ時ヨリ區ノ議會ハ都テ區ニ住居シ且國民ノ權ヲ有スル國民ヲ包含スヘシ

第五條　第一等ノ宰相ハ區ノ議會ノ長ヲ委任ス右長ハ五年限リ委

任サルヽト雖ヒ何度ニテモ復任サルヽヲ得ヘシ檢査官四人ハ議會ノ長ヲ輔佐スヘシ右四人ハ區ノ議會ニ投票スルノ權ヲ有スル國民ノ内撰擧ス可キ者ニシテ二人ハ其國民ノ内最モ年長ノ者ニシテ他ノ二人ハ最高稅ヲ上納スル者ナリ○議會ノ長及檢査官四人ハ議會書記役一人ヲ撰任スヘシ

第六條　區ノ議會ハ己レニ歸スル處ノ用務ヲ取扱フタメ諸課ニ分ル初テ各區ノ議會集マルヒハ其聯制及議式ハ政府ノ爲シタル規則書ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七條　區ノ議會ノ長ハ課長ヲ委任ス課長ノ役務ハ其課ノ會議ト共ニ終ル各課長ハ檢査官兩人之レヲ輔佐スヘキ者ニシテ右ノ内一人ハ其課ノ議會ニ投票スルヿノ權ヲ有スル國民ノ内年長ノ者ナリ他ノ一人ハ最高稅ヲ上納スル者ナリ

第八條　區ノ議會ハ國民兩人ヲ薦メ第一等ノ宰相ハ右兩人ノ内治安裁判役一人ヲ任ス又治安裁判役ノ代役ハ欠役毎ニ右同樣ニ兩人ヲ薦ムル可シ

第九條　治安裁判役及其代役ハ十年限リ之ヲ委任ス

第十條　五千人以上ノ都府ニ於テハ區ノ議會ハ邑院議員（コンセヨ、ムニシパル）ノ欠員スル毎ニ各欠員ノ爲メ兩人ヲ薦ム治安裁判官兩人以上或ハ區ノ議會兩名以上有ル都府ニ於テハ各議會ハ右同樣邑院議員ノ各欠員ノ爲メ兩人ヲ薦ムヘシ

第十一條　邑院ノ議員ハ區ノ人民ノ内最モ多キ稅額ヲ納ムル百ノ連名書ノ内ヨリ之ヲ選擧スヘシ但此連名書ハ州長之ヲ檢定シ且之ヲ出版セシム

第十二條　邑院ノ議員ハ十年毎ニ之ヲ改選スヘシ

第十三條　第一等ノ宰相ハ邑長及同輔官ヲ邑院ノ内ヨリ撰擧シ且五年限リ之ヲ任ス右邑長及輔官何度ニ限ラス復任サルヽヲ得ヘシ

第十四條　區ノ議會ハ郡ノ議會ノ爲メ議員ヲ選任スヘシ其撰任スヘキ人ノ數ハ己ノ議員ノ多少ニ應シテ定ム

第十五條　區ノ議會ハ己ノ爲メ定タル人數ニ限リ州ノ議會ノ爲メ議員ヲ撰任ス可シ但右ノ撰任ハ後編ニ説明スヘキ連名書中ヨリ爲ス

第十六條　撰立議會ノ議員ハ其屬スル所ノ議會ノ所在ノ郡州ニ住居セサルヲ得ス

第十七條　政府ハ區ノ議會ヲ召集シ其集會ノ目的及期限ヲ定ム

第十八條　各郡ノ撰立議會ハ其郡ニ住居シタル五百人毎ニ議員一人有ルヘシ尤モ議員ノ數ハ百二十人以上二百人以下タルヘシ

第十九條　州ノ撰立議會ハ州内ニ住居シタル千人毎ニ議員一人有ルヘシ尤モ議員ノ數ハ二百人以上三百人以下タルヘシ

第二十條　撰立議員ハ終身委任スルヿナリ

第二十一條　撰立議會ノ議員ハ汚辱ノ所業或ハ國事犯ノ所業ヲ爲セシヿヲ政府ニ報告スルトキハ政府ハ右ニ付テ其議會ヲシテ己ノ存意ヲ陳ヘシメ議會ノ議員ノ四分ノ三以上其本人ヲ免職スヘキヿヲ決セサレハ之ヲ免職ス可カラス

第二十二條　撰立議會ノ議員ヲ免職スヘキ場合ハ國民權利ヲ失フヘキ爲メ定タル法律ノ場合ト同樣ニ之ヲ爲ス可シ又三回ノ議席ニ續テ出席セス且其欠席ノ爲メ適實ナル事情無キ時ハ免職スヘシ

第二十三條　第一等ノ宰相ハ各會席ノ爲メ撰立議會ノ長ヲ委任スヘシ撰立議會集リシ上議會ノ長ノミ其議會ノ取締ヲ爲スヲ得可シ

第二十四條　撰立議會ハ各會席ニ檢査官二人及書記役二人ヲ任ス可シ

第二十五條　州ノ撰立會議ヲ編制スルニハ各州ニ於テ州民ノ內地稅借家稅著物稅及職業免許稅ノ割付書ニ從テ最上ノ稅高ヲ納ムル六百人ノ連名書ヲ作ルヘシ經濟卿其名簿ノ成ニ作ニ注意スヘシ其住居スル處ノ州ノ外共和國內他ノ州ニ或ハ屬國ニ於テ稅ヲ納ムルヿヲ證明スルニ於テハ其納ムル稅ノ總高ヲ計算スルニ州ノ內外トモ納ムル諸稅ヲ加フヘシ右ノ連名書ヲ出版スヘシ

第二十六條　區ノ議會ハ右連名書ニ記名シタル國民中ヨリ其州ノ撰立議會ニ委任セントスル國民ヲ選擧ス可シ

第二十七條　第一等ノ宰相ハ郡ノ選立議會ノ議員ニ勳社ニ加入シタル者或ハ國家ノ爲メ功ヲ顯ハセシ人ノ內ヨリ選擧シタル者ヲ十人增加スルヲ得可シ又州ノ選立議會ノ議員ニ二十人ヲ增加スルヲ得ヘシ其二十人ノ內十人ハ州ノ人民ノ內最上ノ稅高ヲ納ムル人ノ內ヨリ選ヒ他ノ十人ハ「レシヨンドノル」ニ加入シタル者或ハ國家ノ爲メ功ヲ顯ハセシ人ノ內ヨリ選擧スヘシ但右ノ委任ノ期限ハ別段ニ定メサレハ第一等ノ「コンシユル」ハ隨意ニ之ヲ爲スヲ得可シ

第二十八條　郡ノ選立議會ハ其ノ郡民議院ノ一員欠ル毎ニ郡ニ住居シタル國民中ヨリ選擧シタル國民兩人ヲ第一等ノ「コンシユル」ニ薦ムヘシ右ノ兩人ノ內少クモ一人ハ其薦ムル議會ノ議員ノ外ヨリ撰任スヘシ郡民議院ハ三年每

ニ其議員ノ三分ノ一ヲ改選スヘシ

第二十九條　郡ノ選立議會ハ集ル毎ニ第一等ノ民選議院ノ議員選舉ス可キ處ノ連名書ニ記名セシメントスル國民兩人ヲ薦ムル可シ但右兩人ノ内少クモ一人ハ其薦ムル議會ノ議員ノ外ヨリ選任スヘシ且兩人共州地ノ外ニ選擧スルヲ得可シ

第三十條　各州ノ選立議會ハ其州民議院ノ議員ノ欠役スル毎ニ州地ニ住居シタル國民ノ内兩人ヲ選擧シ右役ノ爲メ之ヲ第一等ノ宰相ニ薦ムヘシ右兩人ノ内少クモ一人ハ其外ヨリ選任スヘシ○州民議院ハ五年毎ニ其議員ノ三分ノ一ヲ改選スヘシ

第三十一條　州ノ選立議會ハ集ル毎ニ元老議員ヲ委任スルタメ用ユル連名書ニ記名セントスル國民兩人ヲ薦ムヘシ右兩人ノ内少クモ一人ハ其外ヨリ選任セサルヲ得ス且兩人共州地ノ外ニ選擧スルヲ得ヘシ但右兩人ハ建國法ニ於テ元老議員ノ役ヲ勤ムルヲ得ヘキタメ定タル年齡ヲ有スヘシ

第三十二條　州及郡ノ選立議會ハ民選議員ヲ選任スル爲メ用ユヘキ連名書ニ各記名セントスル兩人ヲ州地ニ住居シタル國民ノ内ヨリ選擧シ薦ム可シ右四人ノ内少クモ兩人ハ其薦ムル議會ノ議員ノ外ヨリ選任スヘシ各州郡ヨリ右ニ從テ薦メタル國民ノ名ヲ集メテ以テ作リシ連名書ニ記名シタル人數ハ其欠役ノ數ノ三倍ナル可シ

第三十三條　凡區ノ選立議會ノ議員及郡或ハ州ノ選立議會ノ議員ノ役ヲ兼勤スルヲ得ヘシト雖モ郡ノ選立議會ノ議員ト州ノ選立議會ノ議員トノ役ヲ兼勤スルヲ得ス

第三十四條　民選議院及第一等ノ民選議院ノ議員ハ其己ノ所屬ノ

選立議會ノ議席ニ出ツ可カラスト雖モ右ノ外就レノ官員モ已ノ屬スル選立議席ニ出テ且投票スルヲ得可シ

○佛蘭西　一千八百十五年

第二十七條　州郡ノ選立議會ハ千八百三年八月五日附元老院ノ決定書ニ從ヒ今迄ノ通リ續ヒテ在ル可キト雖モ左ノ規則ヲ以テ之ヲ變改スルナリ

第二十八條　各區ノ議會ニ於テ毎年新規ナル選任ヲ爲シ其前年ニ選立議會ノ議員中ニアル所ノ欠員ヲ充ツ可シ

第二十九條　千八百十六年以後各州撰立議會ニ於テ皇帝ヨリ撰擧シタル上院ノ議員一名上席ス可シ右ハ終身ニ任ス可キ者ニシテ之ヲ免職スル能ハス

第三十條　前條ニ定タル期限ニ至リ各州ノ撰立議會ハ郡ノ撰立議會ノ長幷ニ兩人ノ副長ヲ任ス可シ之ヲ爲スヲ得ヘキ爲ニハ州ノ撰立議會ハ郡ノ撰立議會ヨリ十五日前ニ集マル可シ

第三十一條　州郡ノ撰立議會各別紙一號ノ決定書幷ニ數表ニ已ノ爲メ定タル處ノ數ニ應シ多少ノ代議者ヲ撰任ス可シ但右決定書幷ニ數表ハ原文ニアラス

第三十二條　凡代議者ハ孰レノ所ニ限ラス全國中ノ人民ノ內ヨリ撰擧スルヲ得可シ然ル處州或ハ郡ノ撰立議會如シ州或ハ郡ノ土地ノ外代議者一人ヲ撰擧シタル時ハ代議者ノ代席(スプレアン)人一名ヲ任シ且之ヲ必ス州或ハ郡ノ土地內ニ撰フ可シ

第三十三條　百工幷ニ手造貿易ノ所業ヲ營ム所ノ人民ノ爲メ格別ノ代議者ヲ任ス可シ工商民ノ代議者ノ撰任ハ百工評議局ト貿易

評議局ト合一ニ會議シテ設立シタル名簿ニ基キ任セラルヽヲ得可キ人ノ名簿ト云フ別紙第二号ノ決定書幷ニ數表ニ從テ各州ノ選立議會ヨリ之ヲ爲スヘシ

○佛蘭西　一千八百四十八年

第七十八條　州民議院區民議院邑民議院等ノ編制及事務章程幷ニ邑長副長トノ委任ノ方法ハ追テ法律ヲ設ケ之ヲ定ム可シ

第七十九條　州民議院幷ニ邑民議院ノ議員ハ其州其邑ノ地ニ住居スル處ノ總ノ國民直ニ投票ヲ以テ之ヲ撰任ス但各區ハ州民議院ノ爲メ議員一人ヲ撰任スヘシ「セイン」州名ノ州ト巴黎府幷二萬一人以上ノ市街ニ用ユ可キ處ノ撰任ノ方法ハ追テ格別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第八十條　州民議院區民議院邑民議院等ハ共和政治統領國議院ノ許可ヲ得テ之ヲ解散スルヲ得可シ右ヲ解散スル時更ニ其議院ヲ編制スル爲メ選任ノ所業ニ着手ス可キ時間ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム可シ

○普魯西

第百五條　普魯西國ノ邑區部ノ總代及政治ハ別法之ヲ定ム佛國ノ北部ヲ幷スルノ前ニ當テ普魯西全國、計メ八部、二十五州、三百三十二區トス部ニ部長アリ、一部中ノ豪族材學アル者ヲ擇フ州會ヲ監シ、權限ノ爭ヲ決シ州治ニ逆テ訴フル者ヲ裁判シ、陸軍鎮將ト往復シ、凡一部ノ事ヲ總ヘ每年部內ノ事狀ヲ參議院ニ公報フ、部會ハ、部中ノ豪族地主及府市ヨリ推撰スル所ノ代議士ニシテ、六年一任、三年ゴトニ其半ヲ新撰ス部中ノ利益ニ就キ、法章ノ案ヲ議シ、以テ大議院ニ進ムルニ供ヘ、部中ノ獻言請疏、部會ニ進ムル者ヲ議決シ、一部ニ屬スル施濟諸院ヲ管治シ、稅額ヲ諸州ニ分賦ス二年ニ一會ヲ開ク、國王ノ

委員王ノ名ヲ以テ徵聚シ、及開閉シ、及議案ヲ付ス、但議會ニ列セス、大抵部長委員ノ事ヲ行フ、議長ハ國王ヨリ命ス○一部分テ二州或ハ三州トス、州ヲ治ムル者ヲ州議官トス、州議官ハ國王撰任ス、分テ數課トス、內務、宗教、學校、直稅官地、官林等、是ナリ、各課議ヲ發シ、合員總會ヲ以テ之ヲ決ス、議長ハ其所屬吏員ヲ總ヘ、又議會ニ向テ格議ノ權ヲ有ス、議長及各議ハ、每年州內ヲ巡行シテ議決セル條規ノ行否ヲ視ル、州長ナシ、又州會ナシ、蓋シ州ハ、部及區ノ各歲計ヲ定メ、無形人身ノ權アル者ト同カラス○部、分テ區トス三百三十二區、一區ノ大サ、大抵佛國ノ「アロンヂスマン」ニ同シ、區長ハ區會ヨリ名ヲ薦メテ、政府ヨリ任命ス地方ノ名望、往々舊執政ノ類ヲ以テ、之ニ任スル者アリ一區ノ行政官トノ、權任甚重シ區長ヲ輔佐スル者「一ヲ書記官トス、國王之ヲ任ス、一ヲ區撰員トス、區會ヨリ推撰ス、區會ハ、區內ノ貴姓地主、即チ部會議士ノ撰擧人タル者及邑會中ニ推撰シタル府市ノ代議人、邑長副邑長ノ中ニ推撰シタル村邑ノ代議人タル者ヲ以テ、成ル或ハ終身任トシ、或ハ六年一任トス、各地同カラス、區長ハ每年一次以上、必ス區會ヲ徵聚ス、區會ノ權任ハ區長ヲ推薦シ區會撰員二人ヲ撰擧シ、租稅ノ分賦、區費課稅ノ議、區統計ノ檢查、區費ニ任カス官吏ノ撰任、國王ニ獻スル意見ノ評議及發行等是也、區會ノ議決ハ州議官ノ許可ヲ經テ、區長之ヲ施行ス○邑制ハ千八百五十年、部州區ト共ニ全國同一ナルヘキヲ公布シタリシニ實際行ヒ難キヲ以テ、千八百五十三年其法ヲ廢シ、各地各制其便宜ニ適セシム全國ノ邑制、約ノ七類ヲ得、府邑ハ大抵民撰ノ邑長副邑長統治シ、邑會之ヲ匡輔ス、凡邑長副邑長ヲ選フハ、部長ノ批可ヲ要ス、其可トセサル者ハ別ニ擇フ、邑長副邑長ハ、官俸ヲ受ケ一邑ノ行政權ニ居リ、政府ニ向テハ邑ノ代人トナリ、邑ニ向テハ政府ノ代人トナル、邑會ヲ徵集シ、邑計ヲ構案シ、邑則ヲ起草シ、邑中館宇ヲ監司シ、邑費ヲ支配シ、邑產ヲ管理シ、邑吏ヲ任命スル等ヲ掌ル、邑會議員ハ、六年、一任トシ、每二年、其三分ノ二ヲ更撰ス或ハ邑長、其議長タリ、或ハ別ニ議長ヲ推選ス、邑會ノ權甚廣シ、隨意ニ邑計ヲ議定シ、邑稅ヲ收ムルヿヲ得、但邑地ノ轉賣ニ付テハ部會ノ批許ヲ要スルノミ其它、村邑ノ制ニ至テハ、東西各地懸カニ均一ナラス、仍ホ中古ノ舊制ヲ存スル者多シ、蓋シ政ヲ執ル者、漸ヲ以テ改ソト欲スルナリ

○澳地利

第一章第一條　安斯河東澳地利部ニ於テ凡該部ノ政務ハ州會之ヲ代理ス

第二條　州議員ニ與ヘタル權理ハ州會若クハ掌事官之ヲ執行スヘ

第三條　州會ハ議員六十六名ヲ以テ成ルヿ左ノ如シ

第一　維也納ノ「アルシユウエーク」大教長「サンボルタン」ノ「エヴエーク」教長各一名

第二　維也納府ノ大學黌長一名

第三　公撰ノ議員六十三名其撰任ノ方法左ノ如シ

甲　土地ヲ富有スル議員十五名

乙　撰擧條令ニ由テ指定シタル都鄙ノ議員及商工事務局ノ議員合テ二十八名

丙　其他安斯河東澳地利部ニ屬スル邑ノ議員二十名

第四條　皇帝ハ議員中ヨリ議長及副議長ヲ撰テ州會ヲ指揮セシム

第五條　選擧條例ハ撰擧人及被撰人タルカ爲ニ如何ナル約款ヲ踐行スヘキヤヲ確定シ更ニ限域スヘキ選擧區ニ議員ノ配當及撰擧ヲ行フノ方法ヲ定ム

第六條　州會ノ議長副議長ノ任期及議員ノ權任ハ限リテ六年トナス○州會議員ノ選擧ハ選擧人之ヲ廢止スルヿヲ得ス○州會成規ノ任期盡キタル時期未タ滿サルニ散會スルノ後又議員ノ罷職若クハ死沒ノ時及議員タルカタメニ須要ナル分限ヲ失フ時ハ新ニ其撰擧ニ從事ス○前任ノ州會議員ハ再ヒ其選ニ當ルヿヲ得

第七條　州會ニ選擧セラレタル議員ハ訓狀ヲ承クルヿヲ得ス宜ク親ラ公評ノ權ヲ執行スヘシ

第八條　皇帝ノ命ニ因リ召集スル州會ハ必ス每歲一回ツヽ會合スヘシ但會議ハ維也納府ニ開クヘシ然ヒ皇帝ノ特命アルトキハ格別ナリトス

第九條　議員ハ其職ニ就ク時皇帝ニ忠誠ヲ盡シ恭順ヲ致シ法律ヲ遵奉シ義務ヲ踐行スルヿヲ約スヘシ○此約ハ議長ニ對シテ宣誓スヘシ

第十條　議長ハ皇帝ノ召集シタル州會ヲ開キ會議ニ上席シテ論議ヲ指揮ス○議長ハ州會其職掌ヲ終フルノ後又皇帝ノ詔旨ニ由リ州會ノ閉會ヲ命ス○州會ハ會期間ト雖モ皇帝之ヲ散解スルヿヲ得然モ同時ニ新ニ議員選擧ヲ命スヘシ

第十一條　施政及行法ノ理事職ニ任スル掌事官ハ議員中ヨリ選擧シタル者六名ヲ以テ成ル而シテ州會ノ議長之ニ上席ス○議長ハ其不在ノ時掌事官中ヨリ親ラ補官ヲ選ミ會議ヲ指揮セシム

第十二條　豪富ノ選擧會ノ推選シタル議員ハ同僚一名ヲ選テ掌事官ニ任スヘシ○都鄙選擧會幷ニ商工事務局選擧會ノ選命シタル議員及邑選擧會ノ選派シタル議員モ亦各其一名ヲ掌事官ニ選フヘシ○其他ノ掌事官三員ハ別ニ全州會中ヨリ選擧スヘシ○凡選擧ハ各公評人ノ過半數ヲ得ヘシ投票二回ニ及ト雖モ猶未公評ノ過半數ヲ得サル時ハ第二回ノ投票ニ於テ票數ヲ得ルヿ最多キ被選人二名ノ一ヲ更ニ投選スヘシ此時得ル票數同キ時ハ抽籤ノ法ヲ用ヒテ取捨ヲ定ヘシ

第十三條　前條ニ定タル方法ニ循ヒ掌事官各一名ニ補官一名ヲ選ヘシ○會期ノ時間ニ掌事官員死沒シ罷職シ又久ク職務ニ與カルヿ能サル時ハ選レテ之カ補官タル者ヲ本官ノ職ニ任セシムヘシ○州會ノ開會スル場合ニ於テハ掌事官ノ缺員ヲ塡補スルタメ新ニ選擧ニ從事スヘシ

第十四條　正補掌事官ノ任期ハ之ヲ選擧シタル州會ノ任期ニ同シ

然ルニ舊州會ノ權任盡タルノ後並ニ其散會ノ場合ニ當リ新州會ノ更ニ掌事官ヲ選命スルノ日ニ至ルマテ舊掌事官ノ任期ヲ延ス○州會ヲ退キタル議員ハ亦掌事官ヲ止ムヘシ

第十五條　掌事官ハ維也納府ニ住居スヘシ掌事官ハ歳俸ヲ國庫ニ受ク但其金額ハ州會ニ於テ之ヲ定ム

第二章第十六條　州會ハ千八百六十年十月二十日勅裁ノ成規ニ循ヒ立法權ノ受用ニ任ス又州會ハ帝國議會ノ憲法第六條ニ揭クル定數ノ議員十八名ヲ帝國議會ノ下院ニ選派スヘシ○下院ニ派遣スヘキ議員ノ選舉ハ帝國議會ノ憲法第七條ニ定ル方法ニ準シテ施行スヘシ○部屬邑鄕ニ對シ下院ニ選派スル議員ノ配當ハ增補律例ニ於テ之ヲ定ム

第十七條　州ノ利益ニ關スル法案ハ政府ノ起議ノ式ニ於テ州會ニ附スヘシ○州會モ亦州ノ利益ニ關スル法律ヲ起議スルノ權ヲ有ス○起議ニ法律ノ力ヲ與ルニハ州會ノ承認ト皇帝ノ制可トヲ必要トナス○既ニ皇帝若クハ州會ノ斥タル法案ヲ一會期間ニ起議スルヿ二回ニ及フヿヲ得サルヘシ

第十八條　左ニ擧クル者ヲ州會ノ權任トナス

第一　農業公費ヲ以テ築營修補スル公有ノ堂屋凡テ公費ヲ給スル施濟舍及州ノ會計局ノ收入公益ノタメニスル決算表及決算表ニ關スル總規則

第二　邑務寺務學校事務豫備ノ馬匹徵募軍兵ノ糧食屯營ニ關スル通法ニ含ル特殊ノ規則

第三　其他特別ノ命令ニ由リ州會ニ下附スヘキ州ノ福祚需要（ヒアン、ネートルブンアン）ニ關スル事務ノ規則

第十九條　州會ハ左ノ法規ニ於テ意見ヲ述ヘ及起議書ヲ作ルヘシ

第一　本州ノ福祚ト特ニ相關渉スル者ニシテ既ニ公布シタル一般ノ法律規則

第二　本州ノ需要スル所ナルヲ以テ請求スルニ因リ公布ニ及ヘキ一般ノ法律規則

州會ハ政府ヨリ之カ意見ヲ述ルヿヲ求ムル事務ニ於テ起議書ヲ作ヘシ

第二十條　州會ハ州ニ屬スル特別ノ財産其原因若クハ其所用ニ循ヒ安斯河東澳地利部ノ所有ニ屬スル公有ノ財産及各個若クハ公共ノ資本ニ因リ設置シ又贈遺シタル財産幷ニ建物ノ保存ヲ看守スヘシ○公有財産ノ賣與又公有財産ニ永久ノ負任若クハ書入質ヲ生スヘキ州會ノ決定ハ宜ク皇帝ノ制可ヲ仰クヘシ

第二十一條　州會ハ州ノ有ニ屬スル特別ノ資本州ノ用途金（クレシー）幷ニ州ノ逋債ヲ管理シ及州ノ負任スル義務ノ踐行ヲ看守ス○州會ハ諸資本ノ所用ヲ定ル條規ニ確準シ州ノ資本及安斯河東澳地利部ノ逋債還償金及地稅ノ免除金不當ニ若クハ過分ニ收徵スルヿヲ管理享用ス

第二十二條　州庫通常ノ歲入充足セサル時州會ハ州ノ金庫及建物ニ須要ナル財本ヲ得ルノ方法ヲ論議決定ス○是故ニ州會ハ現在ノ租稅百分ノ十ニ至ルマテ增稅ヲ課スルヿヲ得直稅及其他ノ租稅ニ本稅百分ノ十ヨリ多キ增稅ヲ課スルニハ皇帝ノ制可ヲ必要トナス

第二十三條　邑務ニ關スル州會ノ施爲ハ邑法若クハ特別ノ邑規ニ因テ之ヲ定ム

第二十四條　租稅ニ關シ就中州ノ直稅ノ收徵及其享用ニ係リ州會ノ行フヘキ施爲及監察ハ特別ノ條規ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條　州會ハ掌事官ニ隸屬スル官吏若クハ施政務ニ任スル官吏ノ設置及其俸給ヲ定ム○又州會ハ此等官吏ノ任命規律退老及恩賜金ヲ決シ及其訓條ニヨリテ官吏ノ職務ヲ定ム

第二十六條　掌事官ハ州ノ金庫財產及建物ノ通常施政務ニ任シ大小ノ屬吏ヲ指揮監督ス○掌事官ハ右ニ揭ケタル職事及其決定書ノ執行ヲ州會ニ具陳ス及或ハ州會ヲ招請シ或ハ親ラ州會ニ關スル起議ヲ評論ス

第二十七條　州若クハ昔時ノ州議院ニ屬スル保護ノ權小族ヲ監護スル權及權薦ノ權職ヲ去ル時己レニ代ルヘキ者ヲ推薦スルヲ云僧官叙任ノ權地方ノ建物ニ入舍免許ノ權施濟舍ニ留養スルヲ許スノ類ハ掌事官之ヲ施行スヘシ

第二十八條　掌事官ハ凡裁判ノ事ニ於テ州會ヲ代理ス

第二十九條　州會ノ決定書ニハ議長及掌事官二名手署シテ州印ヲ捺スヘシ

第三十條　掌事官ハ凡テ昔時ノ州議院ノ職トスル事務ヲ掌ルヘシ但之ヲ他ノ施政官ノ職務ニ屬セス又州ノ搆制ヲ變革スルニ因リ現今目途ナキ事務ニ限ル

第三十一條　掌事官ハ州會ノ會期ニ於テ必要ナル備辨其會議ヲ開クニ定マリ場所及州會ニ直隸スル寮局ノ諸器具及其修理ヲ看守スヘシ

第三十二條　特別ノ邑法及租稅法ニハ掌事官ニ委任シタル事務之ヲ處分スルノ方法及邑務ト租稅務トニ於テ掌事官ノ施爲ニ係リ更ニ詳精ナル條規ヲ幷セ記スヘシ

第三章第三十三條　法ニ循ヒ召集シタル州會ハ會議ヲ開キテ其權任トスル事務ヲ論議決定ス○會議ハ議長之ヲ報告開閉ス

第三十四條　州會ノ會議ハ公行トス然ル議長若クハ議員五名以上ノ請求ニ因リ聽衆ヲ遠クルノ後州會ニ於テ可ト決スル時ハ秘密會議ヲ開クヿヲ得

第三十五條　第一議長ヨリ示シタル政府ノ起議第二通常掌事官若クハ會期間ニ州議員中ヨリ選ミタル特設掌事官ノ起議第三諸議員ノ起議ニ因テ諸件テ州會ノ議ニ附ス

第三十六條　政府若クハ掌事官ノ起議ト相關係セサル議員ノ起議ハ豫メ文書ヲ以テ之ヲ議長ニ通告シ豫メ掌事官ノ調査ヲ受ヘシ

○議長ハ州會權任外ノ事務ニ係ル起議ヲ斥ヘシ

第三十七條　議長ハ論議スヘキ事務ノ順次ヲ指定ス但政府ノ起議ハ最先ニ討論決定スヘシ

第三十八條　安斯河東濞地利部ノ知事若クハ其代理委員ハ州會ニ入リ何時ニテモ發議スルヿヲ得該知事及委員ハ其州會議員ノ列ニ在ル時ヲ除クノ外公評ニ參スヘカラス○政府ノ名ヲ以テ案據（ランセイギユヽン）若クハ說明ヲ得ンカ爲ニ政府官員ノ出席ヲ必要トシ又之ヲ欲スル時議長ハ出席ヲ求ムヘキ官員ノ長ニ通報スヘシ

第三十九條　凡決ヲ舉クルニハ州會ノ議員半數以上ノ出席ヲ必要トス其決定ヲ確的ノ者トナスニハ公評ノ過半數ヲ得ヘシ○論議兩立スル時ハ其起議ヲ廢スヘシ○州法ノ修正ヲ決定スルニハ少クモ議員四分ノ三出席シタル議員三分ノ二ノ承認ヲ得ルヲ必要トス

第四十條　公評ハ言辭ヲ以テス然ル州會ハ其議長ノ意見ニ循ヒ起

坐ノ法ヲ用ヒテ公評スルヿヲ得○選舉及任命ヲ行フコハ公評ノ投箋ヲ以テス（言語起坐ノ法ヲ行ハサルヲ云ビルユルタンドポト）

第四十一條　州會ノ決定書及會議ノ調書ハ州知事ヨリ皇帝ニ上奏スヘシ○州會ハ親ラ其論議公布ノ方法ヲ決定スヘシ

第四十二條　州會ハ他州ノ州會ト相往來シ及檄書ヲ公頒スヘカラス州會委員○州會ヨリ送附スル一二ノ事件ハ州會ノ集議ニ參スヲ規定スルニ任スル議會ナリルヿヲ許サス又州會ノ議員ヨリ出スノ外上言書ヲ收受スヘカラス○州會ハ豫メ勅許ヲ得タルノ後ニ非レハ使員ヲ皇帝ニ送ルヲ得ス

第四十三條　總掌事官ハ之ニ送附ヲ受タル事務ヲ論議決定スルカタメニ集會スヘシ○其決定ヲシテ確的トナスコハ少クモ掌事官四員ノ出席ヲ必要トス○議長ハ掌事官ノ決定ヲ以テ公益ニ戻リ若クハ定法ニ違フト酌量スル時其決行ヲ停閣シ州知事ヲ經由シテ其決裁ヲ皇帝ニ仰クノ權義ヲ有ス

第四十四條　掌事官ハ獨リ其選舉ヲ受タル州會ト相往來スルヿヲ得ルノミ又掌事官ハ其委任セラレタル施政務ヲ除クノ外命令書ヲ公布スルヿヲ得ス○掌事官ハ州會委員ヲ沃受スルヲ得ス

○白耳義

第三十一條　各邑各州ノ利益ハ建國法ニ定タル元則ニ從ヒ（第百八條以下）邑會州會ニ由テ之ヲ議定ス

第百八條　州及邑ノ制度ハ法章之ヲ定ム（白耳義ノ法州ノ下ニ區アリ區ノ下ニ邑アリ略ホ佛國ノ制ニ同シ）州ニ州會アリ州委員六員州知事一員大書記一員州會ハ州民ノ擇ツ所ニシテ其權任ハ日控訴院ノ評事官裁判所ノ長官副長官ノ應選人名ヲ薦ム曰州屬吏員ヲ選任ス曰州事ノ爭ヲ決ス曰毎年前年ノ出納ヲ統計シ來年ノ歲額ヲ投評ス曰州屬吏員ノ

俸給及養料ヲ定ムヲ曰州債及州產ノ賣買貿易ヲ許否ス曰道路河渠ノ築造ヲ決ス曰各邑ニ直稅ヲ均賦ス曰賦稅減免ノ願ヲ決ス曰一州內治ノ條例及警察條例ヲ作ル以上數件ニ就テ其公館建造及州產賣易及道路河渠ノ築造ハ特ニ國王ノ認可ヲ要ス州行事ハ州會自ヲ其中ノ六員ヲ選ヒ一任四年毎二年其三員ヲ更選ス俸給アリ州委員ノ首長ヲ州知事トス州委員ノ權任ハ曰一州ノ內治諸件ニ付キ及法章ノ施行其意見ヲ要スル者ニ付キ及州知事ノ求ニ付評議ス曰訟事ニ付キ一州ノ總代タリ曰州會會時ノ外州會ニ於テ決議スヘキ事件其緊急ニ係ル者ハ權ニ之ヲ議決ス但歲計選任薦名事件ハ事重ヲ以テ例ニアラス州知事ハ政府ノ名代人トシ州會若クハ州委員ノ議ヲ取ルヘキ事件ノ議案及州會州委員議決シタル事件ノ施行ヲ掌リ三十日間議決ノ施行ハサルヲ得ス一州內ノ平治ヲ保持シ法ニ循テ警兵民兵ヲ用フ○每區區使一員アリ州知事及州委員ノ下ニ屬シ村邑(人口五十以上ノ市府ヲ除ク)ノ管治ヲ監シ各邑ノ邑庫ヲ檢シ諸公館ヲ查ス○每邑邑會アリ邑會ハ議員數人邑長及邑長補助官ノ選擇ヲ所ニシテ國王邑議員ノ中ニ就テ邑長及補助官ヲ選任ス但國王ハ州委員ノ下ニ見ニ依リ邑議員ノ外ニ邑長ヲ采ルヲ得一邑人口ノ多少ニ隨ヒ補助官二人若クハ四人ヲ置ク邑長邑議員補助官共ニ六年一任トス邑長及補助官ハ其怠慢不正アル者ハ州委員ノ詳明ナル意見ニ依リ州知事之ヲ免シ若クハ職ヲ停ムルヲ得邑會ノ權任ハ凡邑內利益ヲ議定シ邑長臨視ノ下ニ詳決ス其大事ハ州委員ノ承諾ヲ取リ又國王ノ許可ヲ或ハ單ニ州委員ノ承諾ヲ取ル又邑費ヨリ俸給スル所ノ官吏ヲ命ス邑長ト輔助官數員ハ一邑ノ行政權ニシテ法章及條例ノ施行ヲ監シ民籍ヲ保藏シ邑內ノ警察ヲ主リ邑庫ヲ檢シ文書ヲ藏貯ス若シ擾亂アル時ハ邑長ヨリ民兵若クハ鎭兵ヲ請求スルヲ得(原註)○此法章左ノ大則處行ヲ確定ス

第一　直選民選法ニ直選アリ重選アリ重選トハ人民ヨリ選擧人ヲ選ヒ選擧代人又議士ヲ選フ但地方ノ諸長官及州會ニ於ル政府ノ目代即チ州ニ係リ法章定メ得ル所ノ特例ヲ除ク直選ヲ用ヒスシテ重選ヲ用フ

第二　凡州邑ノ利益諸事ハ州會及邑會ノ權任ニ屬ス但特例諸件ハ法ノ定ル所ノ規式ニ從ヒ國王ノ許可ヲ要ス

第三　州會邑會ノ會議ノ公行但法章其ノ限ヲ定ム

第四　豫計來歲ノ統計前年ノ公布衆人ヲシテ詳悉セシム

第五　州會邑會其權限ヲ越エ若クハ公利ヲ破ラサル爲ニ一州一邑

ノ利益ノ爲ニ全國國王及立法權大議院ノ鈴轄事ノ全國ニ交渉ノ公利ヲ破ラス及大政ニ關ス

ルノ者ハ州邑專斷スルヿヲ得ス必ス國王及大議院ノ議ヲ經

州邑ノ舉大政及公利ヲ妨クル者ハ之ヲ制止スルヿヲ得

第百九條　民籍ノ生死婚ノ文憑ノ記錄及其編冊ノ保藏ハ專ラ邑官ノ權任ト僧門干ス預セス

○西班牙

第七十一條　每州ニ州會ヲ置ク可シ但州會ノ員ハ法律ニ定タル規程ニ循フテ之ヲ選舉シ法律ニ揭タル定員ヲ以テ之ヲ搆制ス

第七十二條　府ニハ「アルカド」第十五條第及邑會ヲ置ク可シ但邑會ノ議員ハ法律ニ依リ選舉ノ權ヲ得タル者之ヲ命ス可シ增補律例第十三條五頂ニ見ユ

參看

第七十三條　州會邑會ノ搆制職掌及政府ノ委員州邑會ニ參與スルトロアダンテルハレシオンノ權等ハ法律之ヲ定ム

○葡萄牙

第百三十三條及第百三十四條此二條ヲ廢止シ增補律例第十一條ヲ充補スルヿ左ノ如シ

增補律例第十一條　各邑ニ於テ國民ノ直接ニ公選シタル邑議會ハ法律ニ依據シテ理財務ヲ執行スヘシ○建國法第百三十三條第百三十四條ニ廢止シテ更ニ充補スルヿ斯ノ如シ

第百三十五條　邑務ノ執行警察條例ノ定立邑稅ノ享用邑官ノ職掌ハ定規ノ法律ニ依テ規定スヘシ

○荷蘭

第百二十三條　州會ノ議員ハ法律ノ條規ニ循ヒ六歲間其職ニ任シ

第七十六條ニ定ル約束ヲ備足スル國民之ヲ直撰ス○三歳毎ニ議員ノ半數ヲ更撰ス

第百廿四條　一名ニシテ國會ノ上院及州會ノ議員ニ兼任シ又同時ニ二州以上ノ州會議員タルヿヲ得ス

第百廿五條　州會ノ議員ハ其任ニ就クノ前各其奉スル宗教ノ儀式ニ循ヒ左ノ誓詞ヲ述ヘ又其約ヲ立ツ

「予ハ建國法及國法ヲ遵奉スルヲ誓フ或ハ約ス故ニ願クハ神明ノ予ヲ惠センヿヲ或ハ予レ之ヲ約ス」

州會議員ハ第八十三條ニ於テ國會ノ議員ニ命シタル誓詞或ハ告白若クハ契約ヲ述フルノ後上文ノ誓詞ヲ述フルヿヲ許スル或ハ約ヲ立ルヿヲ許ス

第百廿六條　州會ハ毎歳法律ニ定タル期限ニ於テ集會ス及國王ノ之ヲ召集スル時ニ臨時會議ヲ開ク○會議ハ公行トス然ヒ國會ノ會議ニ係ル第九十六條ニ掲ル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第百廿七條　州會議員ハ自ラ誓ヒ自ラ欲スル所ニ隨テ公評シ委任狀ヲ受ケ及親ラ公評セントスル所ノ件ヲ其選擧者ニ稟議スルヿナシ

第百廿八條　凡論議及公評ニ管スル件ニ於テハ第百條第百一條第百二條ニ於テ國會ノ兩院ニ對シ定タル例則ヲ準用ス

百廿九條　州會ハ毎歳其職任トスル政務ノ支費ヲ國王ニ上奏シ其准允ヲ得ルニ及テ之ヲ州ノ歳計豫算表ニ登記ス○州會ハ毎歳特ニ該州ノ出納豫算表ヲ公評シテ國王ノ准允ヲ請フ○州費ニ供備スル州ノ租稅ハ國王ニ上奏シ法律ニ由テ許准ヲ受ヘシ

第百三十條　州會ハ法律ニ掲示シ及國王親ラ州會ニ委任スルヲ有益ト思量スル內國總政ノ部分ニ關スル法律及王勅ノ執行ニ任ス